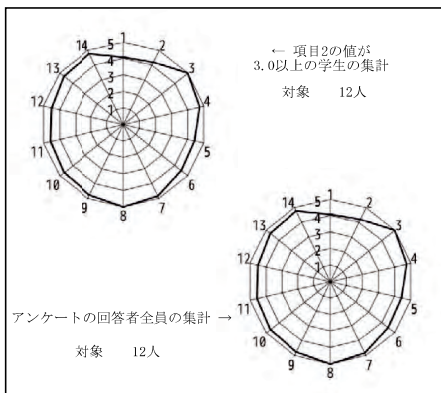


2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(西アジア)  
授業コード 22C48-001  
教員名 門脇 誠二  
教員コード 102240  
登録人数 49  
回答数 12  
回答率 24.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

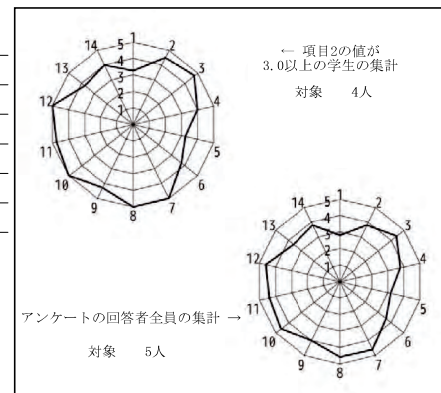


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 2つの目標を掲げていた。1つは「多様な自然や文化が交錯する西アジアの地理的特徴とそれに起因した西アジア特有の文化と歴史について知識を有している。」2つ目は、「西アジアの歴史と文化に関する研究は、人類全体に共通する課題でもあることを理解している。」これらの目標を達成するために、ほぼ予定通りに講義内容を行うことができた。パワーポイントのスライドの主要なものを配布資料として作成し、学生のノート作成の補助を行った。目標達成ができたかどうかについては、学生のレポートと期末試験を見る限り、良好な結果と思われる。
- ② アンケートの数値を見る限り、授業に対する評価は平均以上だった。スライドの配布資料を作成したので、それが評価に反映されたと思われる。自由記述でも、「進み方がしっかり考えられていて今どこを学んでいるのかわかりやすかった。」とある。また、できるだけ毎回、講義に関する実物資料（考古遺物やそのレプリカ、関連文献）を回覧してもらおうようにした。それが自由記述での評価され「生徒の興味を引き出そうとしている」と書いていただいた。
- ③ 2時限続けて合計3時間の講義は、単調だと受ける学生にとっても集中力が欠けると思う。来学期も実物資料を見せるなどアクセントをつけたり、途中でミニクイズなど学生が主体的に行う活動を組み入れて、受講者の集中力が続くような工夫をしたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(統語分析)  
授業コード 22C62-001  
教員名 田中 秀治  
教員コード 104125  
登録人数 8  
回答数 5  
回答率 62.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

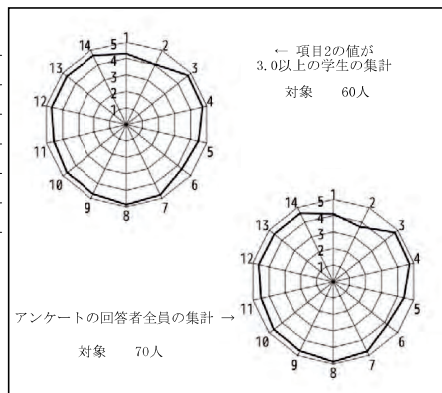


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①当初の学習到達目標は、「特定の言語現象に対する各研究者の分析とその根拠を説明できるようになること」、また、「特定の言語理論の概念・用語を説明できるようになること」であった。期末試験の出来で判断する限り、どの学生も、理解できていない部分はあるものの、基本的な考え方は習得しており、どちらの目標も概ね達成できていた。
- ②担当科目に対する自己評価としては、アンケート結果に基づくと、学生にとって主体的に学びやすい授業を提供できていたと考える。例えば、一方的な講義だけではなく、学生によるグループワークを設定し、その中で学生同士の議論や教員への質問ができる時間を提供できていた。ただし、自由記述にあるように、前週に導入した内容が定着していないと感じる学生もいたため、授業の運営の仕方には改善の余地が残っている。
- ③以上を踏まえ、来年度の担当科目では、前週に導入した内容がより定着しやすくなるような授業を提供したい。特に、毎回の授業開始時に実施する復習課題の点数が平均的に低かった学生もいたため、ハンドアウトの内容改善などを通して、学習内容に対する学生の理解度を向上させられるよう努力する。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 障害児教育論  
授業コード 23C19-001  
教員名 伊藤 修毅  
教員コード 103837  
登録人数 126  
回答数 70  
回答率 55.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

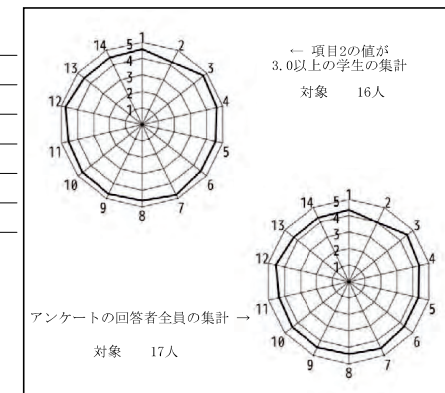


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① おおむね到達できたと考えていますが、教職課程科目と通常の専門科目の合併開講という点で、また、他学部・学科履修者も多く、履修者のニーズに沿いきれないという面があることは否めません。
- ② この科目を担当させて頂いて3年目になりますが、項目2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」の数値が毎年低く出てしまいます。改善策として、定期試験を客観問題とし、しっかりと復習をし、内容理解に努める必要があることをオリエンテーション等で明確に伝えたのですが、今年度も不十分な結果となりました。とはいえ、「試験のために学習する」では意味がありませんので、予習はともかく「復習したくなる」授業づくりを心掛けたいと思います。
- ③ 図書館に配架してもらえる指定図書の上限が25冊と、履修者総数の5分の1程度しかなく、学生が課題の指定図書を手にするのが大変だったということを聞いています。この点は改善すべきかと思っておりますので、来年度は、指定図書を1種に絞った上で、教科書として購入していただく形をとりたいと思います。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 乳幼児心理学  
授業コード 23C43-001  
教員名 大嶽 さと子  
教員コード 102880  
登録人数 95  
回答数 17  
回答率 17.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

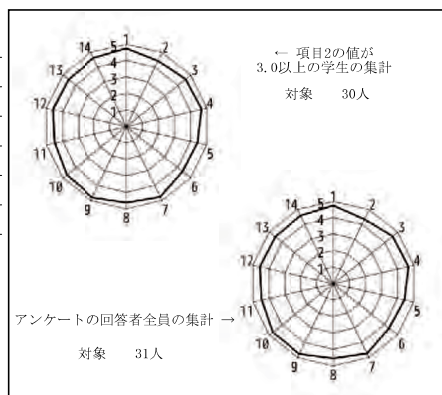


授業評価結果を踏まえた点検・評価

心理学科の平均値と比較すると、半数以上の項目において本授業の数値のほうが低く、自分なりに熱意をもって取り組んできたものの、反省すべき点が多々あると感じている。しかしながら、授業の到達目標の理解(項目5)や到達目標に向けて力が付いているという実感(項目6)については、学科平均よりも高い数値を示しており、当初設定した到達目標である「乳幼児の発達に関する基礎的知識を習得し、その考え方を説明することができる」「昨今クローズアップされている発達上の問題について目を向け、自分なりに考察できるようになる」の2点については、学生の学び深まったと思われ、大変うれしく思う。自由記述において「動画の視聴は学んだ事項を実際に目にすることができ、理解が深まった」などといった記述が多くみられ、実際に乳幼児と関わった経験がほとんどない学生たちにとって乳幼児の発達を学ぶことは新鮮なものであったと思われる。しかしながら、「他の授業で学んだ」という声を耳にする機会がたびたびあり、また、講義をしても学生の反応が何となく白けていたことも何度かあった。本科目が、学科内の学びの中でどのような位置づけになっているのかわからなかったため、カリキュラムマップやカリキュラムツリーなどで、開講前に既習の分野を把握させていただきたく感じた。本科目の担当は今年度限りなので、来年度の抱負などの記載は控えるが、授業を展開する中で感じたことは、今後も活かしていけたらと考えている。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理的アセスメント2  
授業コード 23C62-002  
教員名 井村 安之  
教員コード 048439  
登録人数 50  
回答数 31  
回答率 62.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

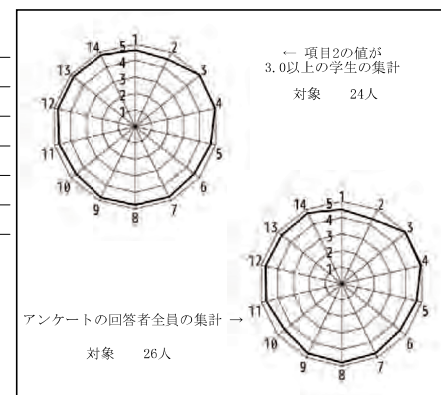


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「5. 教員の声や音声機器の音はよく聞き取れたか」という項目以外は、すべて心理人間学科の平均以上であったので、全体としては比較的良好な評価が得られたのではないかと思います。ただ、今回、視聴覚機器操作が不手際が多かったので、今後は、これまで以上に事前の準備を入念に行っていきたい。また、「10. 授業の妨げとなる行為への対処」はこれまでずっと評価が低かったが、今回、初めて高評価を得たことで、どのように対処していけばよいのかわかったところがあるので、次回からも続けていきたい。5. 6. の到達目標の理解や達成度については、授業の内容上、明確なものになりにくい部分はあるが、理解してもらいたいこと、知っておいてほしいことなどをもう少し強調することで、漫然と授業を受けているといういことのないようにしたい。今回、学生とのやりとりが大教室ということもあり、これまでのようにはあまり持てず、やや一方的な授業で終わったしまった。今後は、学生とのやりとりがスムーズにできるよう工夫することで、より理解が深められるよう働きかけていきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文章表現法2  
授業コード 24C08-002  
教員名 吉川 望  
教員コード 101123  
登録人数 46  
回答数 26  
回答率 56.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



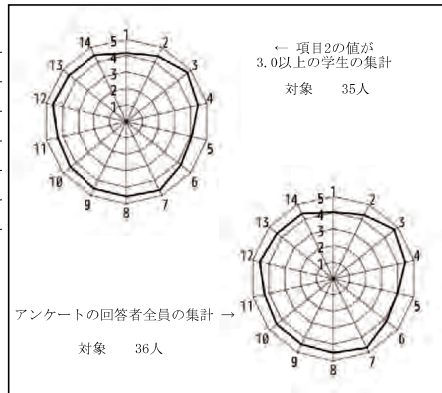
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、文章技法の解説と文章作成演習を行い、添削して翌週返却するという形式で進めている。集計結果をみると、全項目において平均以上、「全体的な評価（設問13・14）」も肯定的評価が96.15%だったので安堵した。また「自由記述欄」の「良かった点」には、提出課題や質問へのフィードバックがよかった、効果的な授業構成で力が定着したと感じられたなどの記載があった。実際、毎回の提出原稿と定期レポートには真摯な取り組みとその成果が見て取れるものが多かった。したがって概ね当初の授業目標は達成できたと思う。

今後改善すべきと思われるのは、時間内に書き上げられない学生への対応である。2コマ連続の授業になったことで、書くための時間は十分確保できている。また課題の難易度にも注意を払っている。より深く考えようとするために時間が不足するのだと思うが、限られた時間内でまとめることもトレーニングのうちなので、その点を意識して取り組んでもらえるよう促したい。また、設問2の予習復習を含めた能動的な取り組みについては回答にばらつきがあった。特に復習して次の実践につなげることが学習の定着につながるの、その点をよりしっかり説明するようになりたい。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語史II  
授業コード 24C48-001  
教員名 丸山 徹  
教員コード 015917  
登録人数 69  
回答数 36  
回答率 52.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

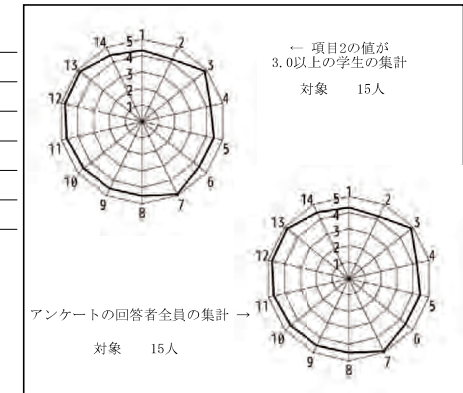


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は主として次のような諸項目に沿って概観し、その流れを解釈するものである - (1) 終止形・連体形の融合 (2) 格助詞の発達、主格・対格の明示 (3) 二段活用的一段化 (4) 係り結びの消滅 (5) 補文標識の明示。その到達目標 (1) 「文法史」というときの「文法」とは何かについての理解 (2) 「文法史」というときの「史」(歴史)とは何かについての理解 (3) 日本語文法史におけるいくつかのトピック(上掲)についてそれらが相互にどのように関連するかについての理解はほぼ達成できたと思う。特に「受講に際して予習や復習を含め主体的に授業に参加し内容を理解しようとする努力をしましたか」(受け身ではなく自主的に勉強しようとしたか)が 4.31 というのは(私のこれまでの授業に比して)高いものだったのでよかったと思っている。その他の項目も 4.06~4.75 でほぼ満足できる値であった。自由記述欄のコメントは「毎回前回の講義の復習があったため、理解度を深めることができた」「きちんと聞けば難しい内容でもある程度理解できるような説明」など肯定的な評価が多かった一方で「授業の進度スペースが遅めなので、もう少し内容を濃くした方がいい」というものもあった。学生の理解度に差があるので、その辺の配慮の難しさを感じた。常勤・非常勤を含め(南山大学における)我が人生最後のクラスだったので「今後の抱負」を記すことはできない。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会言語学  
授業コード 24C53-001  
教員名 安井 永子  
教員コード 102889  
登録人数 51  
回答数 15  
回答率 29.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

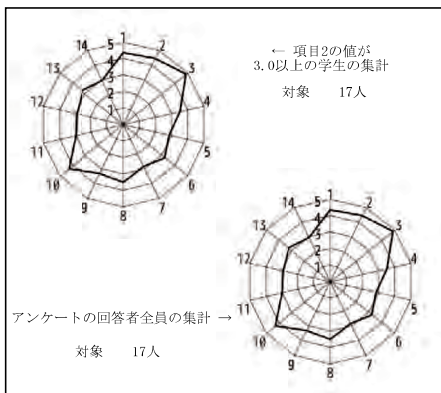
本授業では、学術的に言葉とコミュニケーションと社会の関係についての理解を深めることに加え、会話分析の手法の習得や、実践的なコミュニケーション能力の養成へとつなげることも到達目標に設定していた。学生評価の「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という項目の平均点は4.40であり、設問13「この授業を通して、新しい知識(あるいは、技術や能力)を得たり、理解が深まったと感じますか」の平均点は4.80と高得点であった。これらより、回答した学生の中では、授業による学習効果を実感している学生の方が多いことがうかがえる。課題や授業内アクティビティを利用し、できる限り受講生が主体的に作業を行う機会を多く設けたことが効果的であったと考えられる。

また、とりわけ、設問7「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることはできましたか」(平均点4.93)、設問12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」(平均点4.80)で高評価を得ることができたことから、授業に対する自分自身の熱意や学生の理解力を高めるための工夫は、受講生には伝わっていたと思われる。今クォーターは授業内での受講生の反応が良かったことに加え、リアクションペーパーを通じたコミュニケーションからも、受講生のニーズに即座に対応できたことが良かったと感じている。

一方で、課題の説明が不十分であるという意見もあったため、次回は課題の説明の時間を十分に取るなど、対策を講じたいと考えている。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVリテラシー[G]2
授業コード	11A08-033
教員名	クマイ 恭子
教員コード	101131
登録人数	20
回答数	17
回答率	85.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は英文エッセイライティングの基礎および英語リーディング力の増強を目標としたものであるが、思ったよりも全体的に学生の評価がこれまでになく低く、何が問題だったのか自問しているところである。

授業の内容としては、大学生にふさわしいと思われるテーマについて「Personal Essay」「Argumentative Essay」「Reaction Essay」の三種類のエッセイを描くことを課した。Argumentative Essayは難しいので二種のエッセイを提出する機会を設けた。2回目は引用と使用文献リストの作成も一緒に課したため、学生にとってはハードルが高い問題になってしまったのかもしれないと振り返ってみて思う。

ただし、理解を促すためクラス全員でアイデアを出し合いながら簡単なテーマのエッセイを仕上げたり、参考資料を配るなどの努力はしたが、学生の期待に応えられなかったのだと思う。また授業をほぼ英語のみで行っていたのも、もしかしたら学生の質問を出にくくさせる原因だったのかもしれない。次回からは日本語での説明も添えながら学生の理解度を注視して授業運営をしていきたいと思う。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language E3
授業コード	31C15-003
教員名	吉田 江依子
教員コード	103084
登録人数	11
回答数	3
回答率	27.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

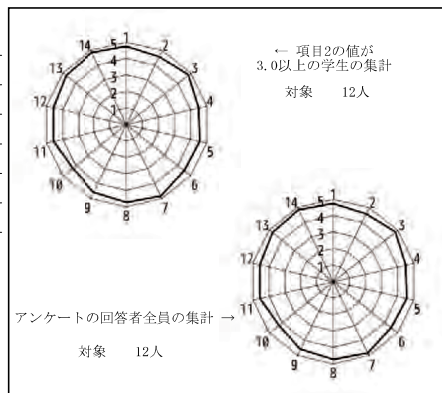
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していたシラバスとおりに講義を進めることができた。数値データについては、4名以下ということで集計が出されておらず、それについてのコメントはできないが、自由記述欄から、講義内容について良い評価を得ていると感じている。また、改善点としてグループワークを望む声があったため、それについては、次年度の講義に取り入れることも考えたいと思う。

学生の受講状況については、登録して初めから授業に出席している学生は、全講義を通じての出席率は良く、途中で脱落する学生もいなかったことは、大変良かったと思う。また、毎回の授業で講義についてのコメント等を学生に書いてもらっていたが、上記と同様、講義の内容が非常に興味深いとのコメントが多くあり、本講義の目的は達成できているのではないかと考える。また、準備した授業資料についても、様々な映像等も組み込まれていて工夫がされていて授業理解の助けになったとのコメントもあった。本講義は今年度が最初であったため、学生の反応については気になるところであったが、評価してもよいのではないかと判断する。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語音声学  
 授業コード 31E17-001  
 教員名 服部 範子  
 教員コード 100353  
 登録人数 28  
 回答数 12  
 回答率 42.9%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



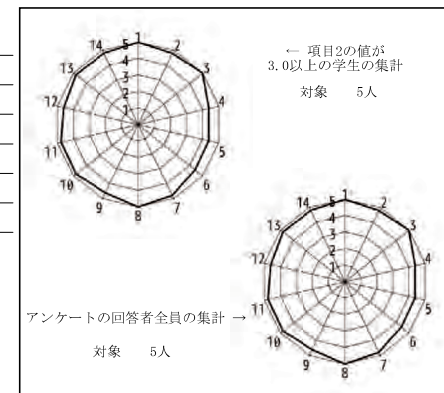
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について、集計結果から判断して概ね達成できたと思われる。授業担当科目は従来、聴覚印象に基づく調音音声学の観点から学習が進められてきたが、この授業では従来の観点に加え、最近では人文系でも注目されている音響音声学的観点による音声分析を取り入れ、音声の「見える化」を積極的に導入した。実際、受講生の自由記述を見ると、自分の声を使って調査できて楽しかったことや内容が興味深かったことが複数記されている。

次クォーターに向けての改善点としては、パソコンを用いた分析の操作方法を示したり、パワーポイントを提示したりするときに教室の照明のオンオフを繰り返したが、目がちかちかしたという声があったので、今後はある程度まとめて説明をすることで照明のオンオフの頻度を少なくするように心がける。また意欲的な学生の勉学向上のために、発展的課題を提示することも今後は取り入れたいと考えている。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VII[FS]1  
 授業コード 11D07-001  
 教員名 HOPKINS Mariella  
 教員コード 103653  
 登録人数 16  
 回答数 5  
 回答率 31.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

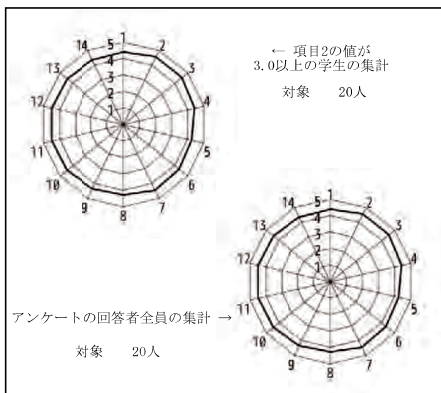


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) En lo referente a los objetivos del cuarto trimestre es conveniente comentar que fueron cumplidos a total cabalidad. Destacando que han sido desarrollado con una participación muy activa de los alumnos en las clases.
- (2) En relación a la estructura de las clases nos encontramos en continúa supervisión para poder obtener los resultados que se necesitan de acuerdo al trimestre estudiado. Los objetivos del curso, en lo concerniente a este punto es muy importante mencionar que al empezar el cuarto trimestre se les ha hecho mención a los alumnos sobre cuál les son los puntos que tenemos que alcanzar para tener un buen desempeño en las clases de conversación. Sobre el progreso de los alumnos en relación a los objetivos del curso es muy importante destacar que ellos puedan entender cómo es el proceso de adquisición de una Segunda a Lengua que conlleva al desarrollo de nuevas habilidades y conocimientos.
- (3) Trazaremos como nuevos objetivos al empezar los próximos trimestres las observaciones en los referente a los objetivos del curso de conversación y haremos y seguimiento selectivo sobre el logro de los objetivos en los alumnos, lo que implicará que desarrollaremos nuevas estrategias para el buen desarrollo de nuestros cursos.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIB2  
 授業コード 32A13-002  
 教員名 VILLALOBOS Antelma  
 教員コード 101011  
 登録人数 25  
 回答数 20  
 回答率 80.0%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 1 回

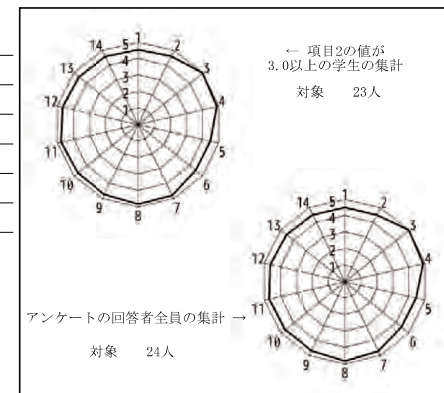


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course has gotten a high evaluation from the students in all the items.  
 The students' comments were all positive indicating that the general objectives of the course were well fulfilled. The biggest proportion of the students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the Q4.  
 As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods.  
 In other words, I should respond to the good evaluation the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.  
 Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIA1  
 授業コード 32A19-001  
 教員名 ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue  
 教員コード 103464  
 登録人数 33  
 回答数 24  
 回答率 72.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

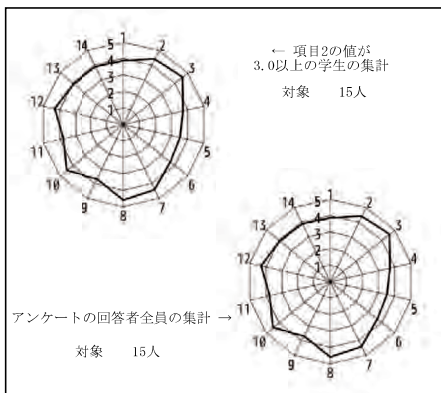


授業評価結果を踏まえた点検・評価

購読の授業では、読むだけでなく、インターネット環境を活用して調べたりして、文法上のスペイン語圏事情を理解することができたため、目的に到達することができました。  
 学習のコメントからも、スピードや学習内容に深く関心があったことに対して、今後も講義に  
 反映できるよう努力していきたいです。  
 来年度は、同じく学生にとっても刺激になり、好奇心を促すような講義をしていきたいです。  
 E-learning を活用したり、大学の施設を活用し、学生のやる気と学ぶ姿勢を促すことを目的とします。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIC2  
 授業コード 32A23-002  
 教員名 JAIME LAZO, Alan Christian  
 教員コード 103654  
 登録人数 23  
 回答数 15  
 回答率 65.2%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回

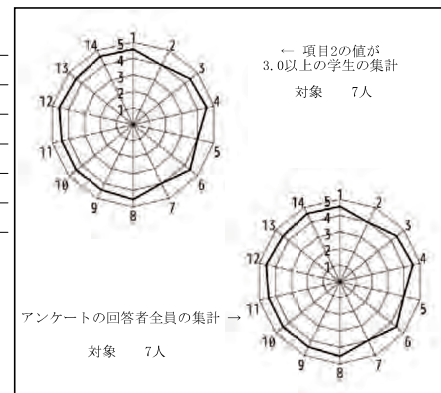


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The fundamental objective has been to propose and analyze the necessary approaches and methods in the interpretation of various social phenomena through Spanish language. Thus, a general review of the logic and dynamics characteristic of the main social sciences has helped to present to the students the usefulness of approaches in order to understand their usefulness in explaining the social world. Firstly, the conditions of discourse in disciplines such as anthropology, sociology and history have been reviewed to later give way to the exposure of other particular social sciences. Specifically, it was a description and analysis of some important researches in the world of social sciences. Simultaneously, students have been encouraged to reflect and critique their own research topics in order to evaluate the practical application of the knowledge presented above. This has been part of a complex, and sometimes difficult, process because getting used to the parameters of scientific writing demands considerable time and effort. Overall, students have been made aware of the care that the introduction, the theoretical framework and the methodology deserve to undertake any research project. As much as possible, individual and group work tasks have been proposed and reviewed to emphasize the steps in the elaboration process of the social science thesis. However, it is necessary to insist that it is increasingly urgent to increase the levels of reading and discussion about social phenomena that are of common interest and related to the context of the learners.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカの政治  
 授業コード 32C22-001  
 教員名 中川 智彦  
 教員コード 102940  
 登録人数 17  
 回答数 7  
 回答率 41.2%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

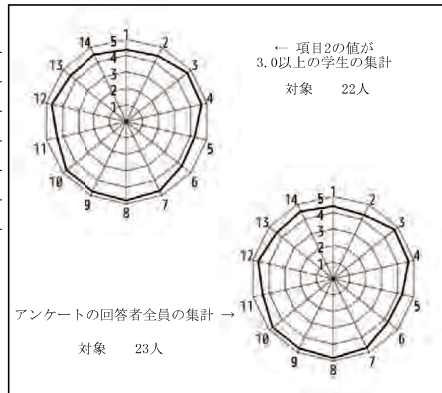
今回、全体的評価は比較的良かったので、授業改善の成果が出てきていると思われるが、項目番号5の到達目標の理解度についての自己評価の平均値が4と一番低かった。これは、項目番号2の授業への主体的参加や努力についての自己評価が同じく4と低かったことと符合する値なので、致し方ない面はあろうかと思う。実際、他の開講主体別平均値からすれば、低いとはいえ、理解度の平均が4以上あったら、A以上の評価ばかりになるという可能性もあり、無難なところと言える。ただ、独自のアンケートで、WebClassで共有した予習用の教材を毎回読んできたか尋ねたところ、「すべて読んできた」という回答者は13名中0名、「だいたい読んできた」が3名、「時々」が5名、「めったに読んでこなかった」が5名という結果であったので、もう少し、教材を読んでもらえるように初回のオリエンテーション時から告知・指導の徹底をするようにして、予習率を上げたいと思っている。

教員として、今回、意外だったというか、反省点があるとすれば、いつも高めの評価を得ている項目番号7の教員の誠実さと真剣さについての評価平均値も4と他の項目に比べて低かった点である。絶対的に見れば、4なら決して低いわけではないが、他の開講主体別のこの項目の平均値と比べても低かった。フランクな態度が過ぎたのか、これは原因が自覚できていないが、来期以降、何等かの改善を模索したい。



2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語III2  
 授業コード 46F03-002  
 教員名 GONZALEZ DIAZ, Alejandra Maria  
 教員コード 103652  
 登録人数 34  
 回答数 23  
 回答率 67.6%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回



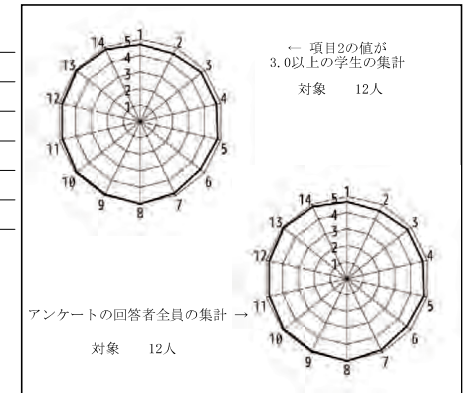
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class objectives were overall achieved. Students learned all the technical vocabulary and were able to give their personal opinions in English on contents taught in class. Some students still had some difficulty or were shy to speak English so they spoke Japanese. They enjoyed pair work and group work. Some content was too difficult for them, such as newspaper articles on very specialized topics, but I carefully explained to them the content and they did worksheets so that I could prove their understanding. We watched related content videos but sometimes the English was difficult for them. However, I could see they learned from the images and known phrases. Videos seemed interesting for them.

It was a first period class, so frequently we had latecomers, which I did not expect. Next semester I will be clear on the attendance and punctuality rules. Also, to practice more English, the midterm will be a group presentation on their own research. In this way, they will all find responsibility in their own research and will enjoy presenting to their classmates.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIIA2  
 授業コード 33A13-002  
 教員名 HERGOTT, Florian  
 教員コード 101725  
 登録人数 23  
 回答数 12  
 回答率 52.2%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回



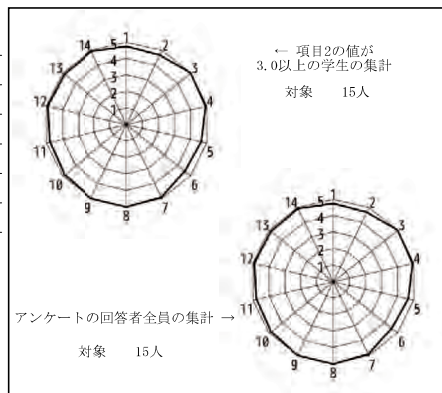
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course objectives have been achieved. All of the lessons have been studied during the course, and the test results show a good overall acquisition of skills.

Continuous knowledge assessment seems to be popular with students. Finally, personally, I am satisfied with the level achieved by the students as well as by the evaluations they have made of the course.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIIB2  
 授業コード 33A16-002  
 教員名 LAUTIER Fabien  
 教員コード 104047  
 登録人数 24  
 回答数 15  
 回答率 62.5%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回



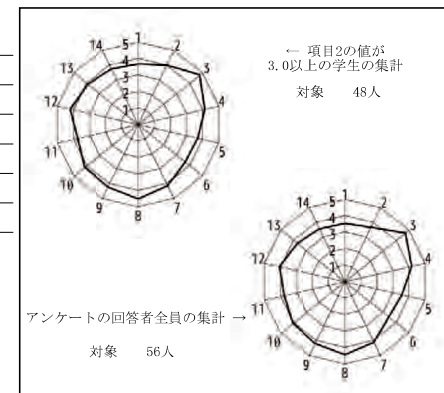
授業評価結果を踏まえた点検・評価

After watching the results of the enquiry that has been done in my class, i have been glad to read that the students enjoyed the way i taught them french and they could progress a bit along this quarter. For me, it has been a bit difficult cause of a student who seems to have problems with the tests we were giving them. After explaining her the benefits for her studies, the problem got solved. The students might have needed more writting productions. That's why i am planning to change a bit the structure of my class so that i will be able to focus a bit more on the writting too. Moreover, i could notice that the workshops we planned with the other teachers were really effective with the students. Therefore, i'll focus on it next year.

In conclusion, i think the students enjoyed the way i taught them french and how i tried to help them. However, even if the students seem to enjoyed the class, there are some points i need to improve like giving more time to the writting productions and focusing on "workshops" to give mor place to production and self expression.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの思想  
 授業コード 33A22-001  
 教員名 飯野 和夫  
 教員コード 043513  
 登録人数 82  
 回答数 56  
 回答率 68.3%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回



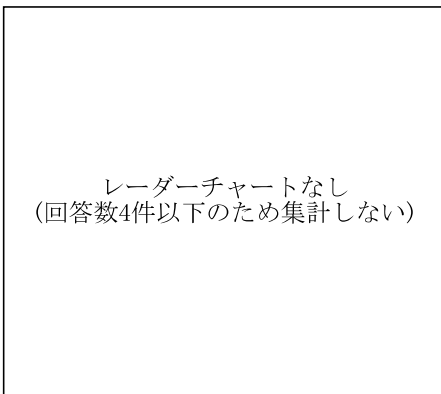
授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価報告文：

- ・開講当初に設定していた授業目標  
 フランス語による思想の重要な成果を、翻訳等の資料を用いて具体的に理解することを目指した。まずフランス文化の特徴とされている諸点にふれ、次いで17世紀以降時代順に代表的な思想を取り上げることとし、具体的にはデカルトによる哲学の革新、ルソーの社会契約論、19世紀の植民地主義、フーコーの性をめぐる議論、現代のジェンダーをめぐる議論を扱うことにした。受講者参加型の授業にすることも考えた。
- ・その目標の到達程度  
 予定通り講義を行ない、授業目標は達成できた。
- ・総合的な自己点検・評価  
 目標どおりの授業ができたと思う。学習目標を明確化し、それにかかわる設問への解答を受講者に提出させる取り組みも行い、有効に機能したと思う。ビデオ教材も導入し好評であった。  
 この授業は以前より担当しているが、現在はクォーター制の下での、受講生が80人規模の大規模授業となった。大型授業で、授業内容も学生がともしれば難しく感じる「思想」であることを考慮すれば、学生の評価も悪くはないと思う。大型授業ではあるが、なるべく双方向の授業とするため、全受講者が授業期間中に最低一度は自分から発言をするように求めた。これだと受講生が自分で発言のタイミングを選べるので適切な発言が多かった。この方式はうまく機能したと思う。
- ・次学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針  
 内容についてはすでに十分なものを提供している。後は、さらに授業方法を工夫して、学生に「思想」に興味を持たせるよう図りたいと考えている。授業中の受講生の動向に一層注意を払うことなどを実行していきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	コミュニケーション特論D
授業コード	33C04-001
教員名	清水 ベアトリックス
教員コード	047845
登録人数	7
回答数	3
回答率	42.9%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

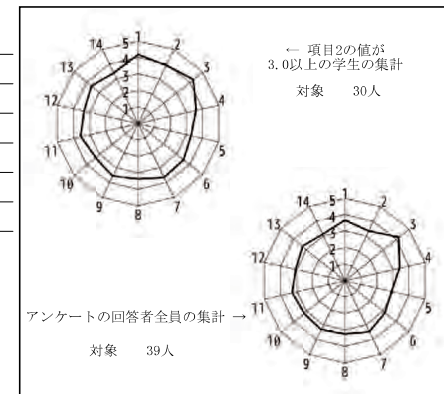
Preparation for this lecture was done meticulously so as to ensure that students' interest would will stimulated during 3 hours.

The goals for the fourth quarter were to get students to present, explain and discuss their points of view about a different theme each week and also prepare for a variety of oral examinations conducted in French. Chosen themes generally compared and contrasted similar situations in France and Japan, mostly concerning social issues. A lot of work was based on the study of newspaper articles and research was widely conducted on the internet. Students were asked to present newspaper reviews in front of the class each week. They chose topics of general interest and seemed to be highly motivated by this type of exercise.

The number of attendants was extremely small and students did not respond to the online survey, but they definitely showed interest in the course and satisfaction regarding its organization.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ文学史
授業コード	34D05-001
教員名	中川 佳英
教員コード	104128
登録人数	116
回答数	39
回答率	33.6%
休講回数	0回
補講回数	0回

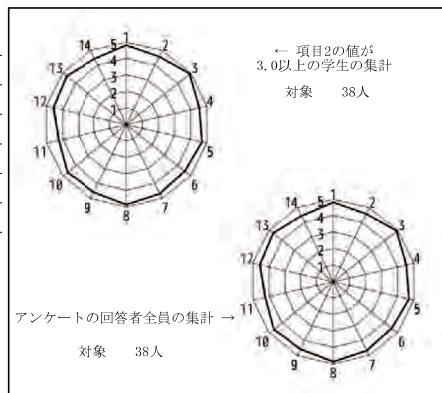


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 主としてドイツ文学の案内という立場に立って授業をしてきた。文学史を総花的になぞって終わらないようにということをやってきたが、この目標も必ずしも満たされていないようである。数か月で1000年以上にまたがる作品群を紹介すること自体に相当無理があることは自明なので、ある程度は取り上げる作品を絞ったつもりだが、来年度はさらに思い切って取り上げる作品数、作家数を減らそうと思う。そしてより時間をかけて個別作品や作家の紹介や説明をするようにしたい。そして文学の潮流をおさえて作品を読む姿勢を学ぶことも、これまた総花的に解説しては不可能であるが、残念ながらそうってしまったようだ。
2. 教える技術の面でいろいろ問題があったように思う。今回教材提示で資料を見せてきたが、これは大講義室で後ろに座った学生には読みづらかっただろう。また、マイクが一時間以上の使用でいつも切れてしまうことも、学生の注意を散漫にしてしまった一因であろう。そして①でも触れたが、限られた期間に多くの作家、作品、いくつもの文学潮流を取り上げると、どうしても表面を撫でるだけで次の説明に移るといことになりがちなので、取り上げる作品、作家、そして文学思潮を相当程度絞り込もうと思う。
3. すでに①や②について言及したことを繰り返すが、取り上げる作家、作品、さらには取り上げる文学思潮を相当減らし、取り上げたものについては、それぞれより長い時間をかけて説明したいと思う。また、ここで取り上げる作家に親しんでもらうには、エピソード的なものの紹介に時間を使うことも学生の関心を深める道であろうと思われる。なおあるドイツ文学案内書を「参考文献」として紹介したが、「テキスト」として必読扱いにした方が良かったかと思う。そして文学史の基本的事項について試験を実施するのも、受講のテンションを高める一助として検討したい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国・朝鮮の言語と文化II  
授業コード 35C02-001  
教員名 金 美淑  
教員コード 102466  
登録人数 50  
回答数 38  
回答率 76.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の目標である

1. 韓国語で自己紹介ができるようになる。
2. 用言の丁寧形(2種類)が習得できるようになる。
3. 用言の過去形が習得できるようになる。
4. 韓国語で簡単な会話ができるようになる。
5. 韓国の衣食住についての知識を習得できるようになる。

上記の5つの項目を定期試験で確認した所、ほとんどの学生が習得していたので、概ね目標は達成できていると思う。しかし、少数ではあるが、全く理解していない学生もいたので、このような学生をどう指導していくかが課題だと思う。

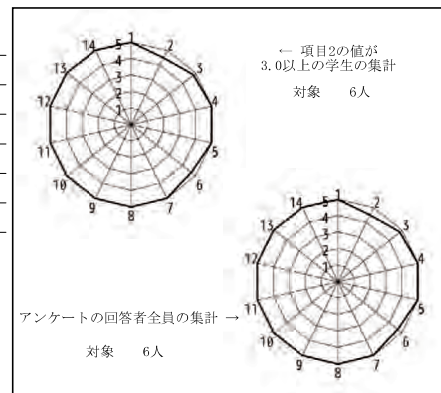
数値データからは他のアジア学科開講の科目と比較してみた所、他の設問ではやや高いか同じであるが、設問11の「学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」の項目の数値がやや低い。次回はこの点に留意し改善を図っていきたい。

自由記述においては、分かりやすく、しっかりと理解できるような授業であったという意見が多かった。また、前回のアンケートで私語や携帯を触っている学生にもっと注意してほしいという意見があり、今回は注意していたが、注意してくれて良かったという学生と、嫌みに聞こえたという学生もいた。注意の仕方を考えていきたい。

今回のアンケート調査の結果から、学生に積極的な授業参加や自主的な学習を促すための指導や情報提供ができるように工夫をしていきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語通訳法  
授業コード 35C31-001  
教員名 鄭 高咏  
教員コード 104121  
登録人数 6  
回答数 6  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

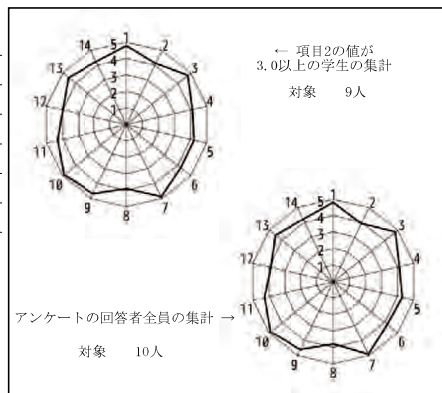
今年度から「日中通訳法」を担当しました。当該科目は大学院で開講している大学は全国で多数ありますが、学部で開講している大学は少なく、どのように教えたらよいか、どのようなレベルに講義内容を設定するのが妥当なのかは悩みながらスタートしました。しかし、初回授業で学生みなさんのレベルの高さに驚き、とくに授業に対する熱意と真摯なまなざしにうれしさとともに私自身が感化されました。そのため、2回目以降は毎回の授業理解の進捗を踏まえて講義内容を適宜修正しました。

受講者は3年生、4年生。また、留学経験の有無など個人差はありましたが、それぞれの理解力に応じて予習時間が必要な学生には、事前に音声教材を送りサポートしました。それに加え、学生みなさんの努力もあり、結果的に全員がこの授業目標を達成できたと思います。

これからも、みなさんのまなざしを通して感じたこの授業に対する期待と熱意にこたえられるように、受講者みなさんの要望に寄り添いながら、引き続き授業の最善な運用方法を探っていききたいと思います。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東南アジア特殊研究  
授業コード 35D16-001  
教員名 小林 寧子  
教員コード 100089  
登録人数 26  
回答数 10  
回答率 38.5%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

登録確定時点では30人だったが、Q4で「保険」のための登録か、7人は一度も出席せず、最終的に試験を受けたのは19人であった。また、講義最終日が補講日であったこともあり、授業中の授業評価時の出席者は10人であった。比較的熱心な受講者が授業評価を行ったものと思われる。というのもその場にいながら授業評価を行わなかった学生は皆無だったからである。

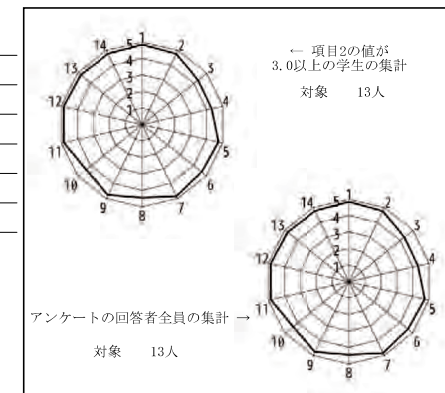
アジア学科生以外の学生も受講し、最初の講義でインドネシアに関する極めて初歩的な知識（首都名、初代大統領名など）を尋ねるアンケートをしたが、アジア学科生との知識差の隔たりは大きかった。参考文献を示して、自らも学ぶように奨励したが効果はほとんどなかったようである。ただ、それでも中には高得点を取る学生もあり、必ずしも受講前の知識不足がハンディになっていたとは言えない。

いつもながら、「声が聞きにくい」というクレームがついた評点3.8（項目番号8）もあり、専任職を退いて時間ができたこともあり、ボイストレーニングを試して、改善に努めたい。

なお、新しい知見を提供されたという項目が4.50、教員の真剣さが4.90というのは嬉しい数字でもある。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS中国語II  
授業コード 48A25-001  
教員名 趙 晴  
教員コード 100960  
登録人数 44  
回答数 13  
回答率 29.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの結果を見る限りでは開講当初に設定していた目標にほぼ達成したと思います。

学生たちは真面目で明るく、授業の雰囲気はとてもいいです。授業もたいへん進みやすく、私のほうこそ学生たちにありがとうと言いたいと思います。主に評価された点は以下の三点です：1.中国の面白い番組を見れてよかった。2. インターンシップに参加する際、出席等の相談をしたら快く（授業を気にせず）インターンシップの参加を勧めて下さった。3. 小テストがこまめにあるのが良かった。それから、映画や音声の時間は楽しく中国語を聞ける貴重な時間なので、もっと増やしてほしいという要望もありました。

これからもいろいろな工夫をして、テキストを進みながら学生たちの要望もなるべく入れようと思っています。

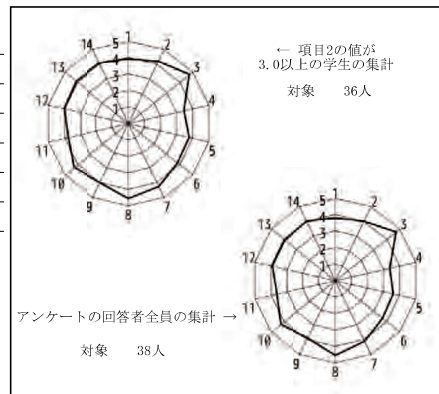
もっと興味を持って勉強してもらえば、より自覚的な学習ができるかと思えます。

学習することは楽しいことですが、楽なことではありません。一緒に頑張りましょう！

谢谢同学们！一起继续努力！

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計入門2  
 授業コード 40D05-002  
 教員名 荒深 美和子  
 教員コード 049353  
 登録人数 44  
 回答数 38  
 回答率 86.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

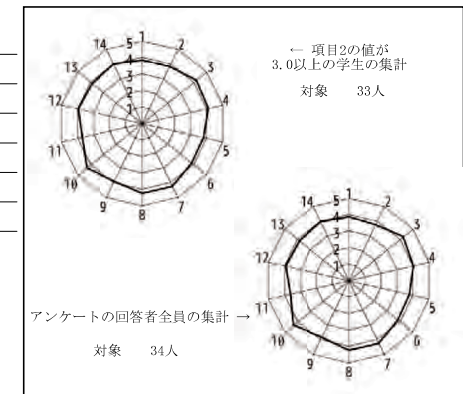


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、アンケートに回答した学生は出席者40名中37名で、その後回答した1名を加えた38名（回答率95%）による結果で授業評価を行う。ここでは、各設問に対して「はい（5,4）」と「いいえ（2,1）」の割合を使って評価していく。学生の理解度に合わせた進度で、單元ごとに確認しながら授業を進めるようにしており、設問9の「はい」71%、「いいえ」16%という結果から、7割の学生が満足している結果であった。非常勤であることから、質問や相談の機会を授業時間以外にとることができないが、毎回、授業時間内にできるだけ全員が理解できたかどうかのチェックをしたい。学生のサインを見逃さないTAによる授業補助があるとよいと考える。学生に示すスクリーンが小さく、見え難い点にも問題があるように思う。設問2の主体的な学習については、82%の学生が努力している。課題を次の週に提出させ、授業中に使用した教員のExcelファイルをネット上に置いておくことで、自主的な学習の機会を増やしている。設問13の新しい知識を得て理解が深まったと答えた学生は全体の74%で、知識が本当に身につく授業を目指したいと考える。今後はさらに、学生が授業へ積極的に参加できる授業構成にしていきたい。講義内容が積み上げていく科目であることから、授業の進め方として、欠席・遅刻はしないや課題の提出締め切りを厳密に指導していきたい。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際金融論B  
 授業コード 40D49-001  
 教員名 神野 真敏  
 教員コード 103880  
 登録人数 83  
 回答数 34  
 回答率 41.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

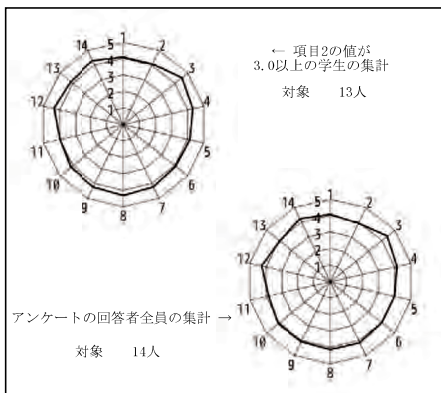
本講義の到達目標は、「国際金融に関するフレームワーク、例えば、マクロ経済政策（金融政策と財政政策）が固定・変動為替相場制においてどのような影響を与えるか、あるいは最適な通貨圏はどの程度なのかなど、国際金融に関係する議題について理論的に理解し、説明できるようになる」としてます。そのため、講義内容として、「マンデル＝フレミング・モデル」や「通貨統合と最適通貨圏の理論」などを扱い、到達目標を到達できるよう努力し、その上で、理解度を高めるため、できる限りわかりやすく講義をしたつもりです。

ただ「アニメーションがついていてわかりやすかった」や「丁寧に作り込まれた、わかりやすいレジュメ」と評価してくれている学生がいる一方で、「少しパワーポイントをめくるのがはやい」、「スライドのアニメーションを減らしてほしい（板書して顔が上がったら図が変わっていた）」などの講義方法では低いコメントが見受けられました。学生の皆さんの方を見て確認しながら、スライドを操作していたのですが、至らぬ点が多く申し訳なかったと思っております。

今後に活かしていきたいです。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アメリカ経済論A
授業コード	40D56-001
教員名	大橋 陽
教員コード	102462
登録人数	47
回答数	14
回答率	29.8%
休講回数	2 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

アメリカ経済論A、Bは、2016年度（2017年度は非開講）までは200～300名程度の履修登録があったので、非常勤の立場で出席管理をすることがほぼ不可能であった。クォーター制に変わり、2018年度アメリカ経済論Bの履修者数が50名程度にまで大幅に減少したことを踏まえ、学生が出席をして自ら考える機会をより多く設けるように心がけた。毎回のコメントシートは理解度が大きく異なることを示唆していたが、定期試験の結果もまた同様のことを示すものであった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

履修者数に比べて大幅に少ない14名の回答しか得られていないので、平均がどのような意味があるのか判然としない。他の科目と比べると若干低い項目があったかもしれないが、満足度も4.21とほぼ平均的であった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

主体的な学びを引き出すように工夫しているが、それが学生の学習満足度や授業評価の改善につながるわけではない。学生の一部には楽に単位が取れるに越したことはないと思う者もいるが、そういった学生に対しても学習意欲を少しでも高めるような「驚き」を与えたい。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	時事英語B2
授業コード	40E07-002
教員名	森川 信子
教員コード	100136
登録人数	6
回答数	2
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

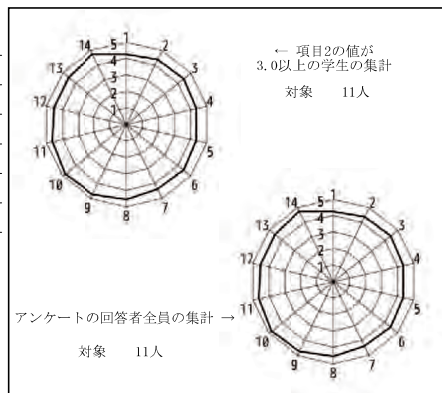
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

第4クォーターの時事英語B2では、国内外の新聞社が発行する英字新聞や通信社等の記事のリーディングを中心に、あわせて語彙や英作文など総合的な英語力を高めるエクササイズも行った。当初に設定した目標のうち1、2、3は、定期試験の結果から、個人によって差はあるもののおおむね到達できたといえるのではないと思う。今学期の良かったと思う点は、その日の学習を各自振り返る時間を十分に取ったことである。それによって重要な点を整理したり、不明な箇所などを洗い出したりすることができた。今後の改善点に関することとしては、アンケートの自由記述で「もう少し最近のニュースも取り入れてくれば、今の世の中を知ることもつながってよりいいのかなと思った」という意見がみられた。使用していたテキストが学習用として充実しており、また収録記事も決して古くはないので、今学期は最新の記事を読むことはしなかったのであるが、テキスト以外の最新の記事を読むことは、興味や学習意欲を高める、到達目標の4につながるという点で重要だと改めて感じた。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民法B  
授業コード 40F05-001  
教員名 仮屋 篤子  
教員コード 102079  
登録人数 55  
回答数 11  
回答率 20.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

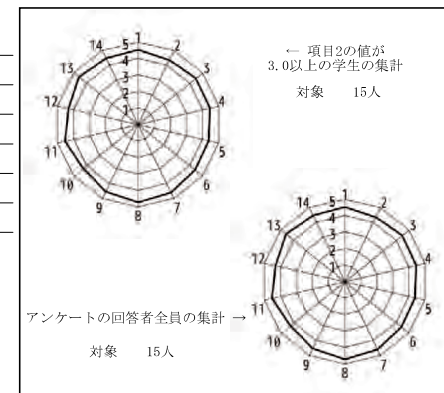


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q4では、毎回の授業の終わりに、その日授業で行った内容について、小テスト（レポート）を行っているが、本年は、本務校の事情で、授業終了後に時間の余裕がなかったため、不十分な内容となってしまった。  
レポート・小テストについては、次年度は、より熟慮した内容とするように心がけたい。  
授業内容については、第15回に実施したレポートの解答から見れば、おおむね満足いく成果が出ているように思われる。  
なお、本年は、資料の配布が不十分であった点については、反省点である。次年度は、十分な資料を配布するようにしたい。  
また、Q4については、小テスト・レポート実施時に授業評価アンケートを実施したが、授業評価にはあまり取り組んでいただけなかったようである。次年度は、別に時間を設けて、アンケートを実施したい。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 商法B  
授業コード 40F07-001  
教員名 村上 康司  
教員コード 103658  
登録人数 55  
回答数 15  
回答率 27.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



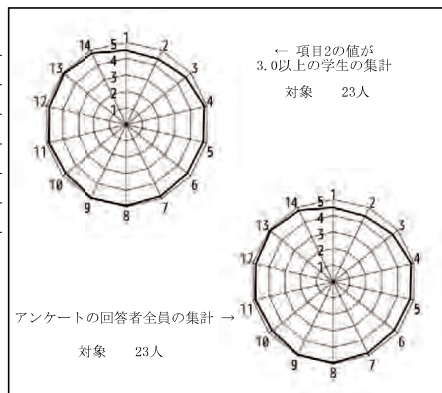
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1)本講義は、企業が行う取引活動の特徴や、手形・小切手、さらには銀行振込や電子マネーといった決済手段について、それぞれの特徴を理解できることを目標とした。中間での学習成果を確認するために小テストを実施し、普段の講義においても、少人数であることを活かし積極的に学生に考え、答えてもらう形をとった。さらに、日常的に利用しているサービスや電子マネー等の現代的決済手段に関しても、法的に分析することで関心を刺激した。受講生の多くは、あえて法学を学ぼうとする姿勢を持っており、単位取得率も高い。  
2)本講義に対するアンケート結果は、すべての項目において高い評価を得た（平均4.48）。これは、上記でふれたように、自らが望んで受講を選択した少人数からなる講義であったことが大きいであろう（項目1（当初の関心）のスコアは4.53）。各項目のスコアからも、受講者の一定のニーズに応えることができたものといえよう。  
3)今年度も、アンケート回答数が、履修登録者の3分の1程度であることから、学生全体のニーズととらえるには十分ではない。しかし、いくつかの自由記載が記してくれたように、幾分かは、現実社会におけるビジネスと法ルールとの関連を意識するきっかけを与えられたのではないかと考える。来年度にあたって、何のために学ぶのかという目的意識と現実社会における新たな発見につながるように、継続的に講義の内容をアップデートしていきたい。



2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アドバンスト会計B  
 授業コード 42C18-001  
 教員名 木下 勇人  
 教員コード 102242  
 登録人数 25  
 回答数 23  
 回答率 92.0%  
 休講回数 3 回  
 補講回数 2 回

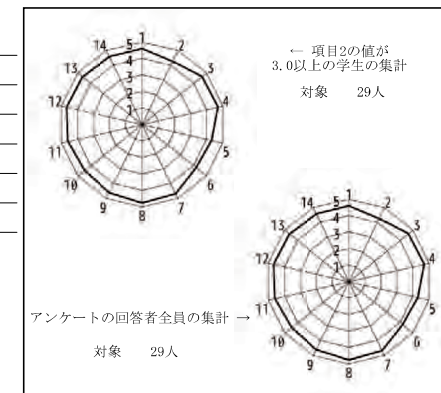


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アドバンスト会計Aと比較すると、アドバンスト会計Bは半期通しの内容、つまり積算される内容になります。そのため、一度欠席するとなかなか理解度が低くなる傾向がありますが、ほとんどの学生が欠席することなく講義に積極的に参加してくれたことに感謝したい。前回の講義を復習することがスタートしましたので、習熟度は比較的高かったように思います。実社会を写す鏡が会計であるため、実社会の出来事がどのような形で会計に反映されるかにつき講義を通して伝えることも実施しました。知識を実社会に当てはめる作業がイメージをつけられることがこれから社会に飛び出す上で非常に重要になると考えております。単に知識を取得するだけでなく、取得した知識を生きた自らの言葉で説明できる人材が育ってくれることを期待しています。次年度も引き続きこの形式で講義を展開してまいります。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(起業論)1  
 授業コード 42F05-001  
 教員名 藤榮 幸人  
 教員コード 103879  
 登録人数 94  
 回答数 29  
 回答率 30.9%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

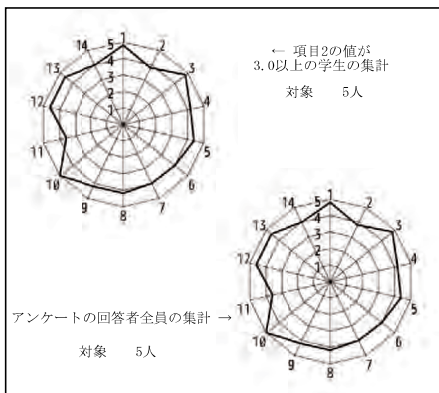


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
 今年度は、講義形式のみの一方的な授業ではなく、学生自らが起業家の立場になって起業活動における課題を考えるトレーニングをするために、ケースメソッド 授業を一部取り入れた。ケースに描かれている起業家の意思決定やリアルな起業プロセスを擬似体験することで、起業というものを身近に感じるとともに、リスクや醍醐味を味わってもらうことを目的に、学生同士でディスカッションする場面や、クラス全体で討議する時間をとった。学生からのフィードバックは概ね好評であった。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
 起業のみならず、企業活動そのものを知るということを到達目標に掲げたが、アンケート項目6が4.21と低い結果となってしまった。起業を共通項として企業活動を学ぼうとすると、その範囲が広くならざるを得ない面があり、目標への到達実感が湧きづらかったかもしれない。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
 ケースメソッド 授業は学生の学びも多かったため、今年度の2ケースから増加させていくことで、授業目標に向けた成長実感を得てもらえるような授業を作り上げていきたい。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IVオーラル・コミュニケーション3  
 授業コード 42G07-003  
 教員名 IVANCHENKO, Andriy  
 教員コード 102754  
 登録人数 6  
 回答数 5  
 回答率 83.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

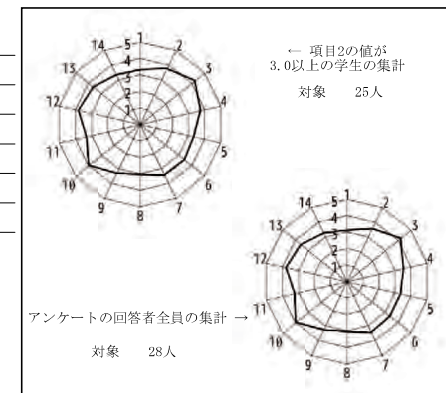
The learning objectives as presented in the course description seem to be fully achieved. All the students have fulfilled the course requirements with regard to class participation and homework assignments. The students' coursework was of good quality, showing attention to the class contents.

Most students seem satisfied with the course in general, as well as the class management, including effective use of materials. Most students report having improved their skills and knowledge through the course, the classroom environment being conducive to leaning and participation. Moreover, most demonstrate improvement of their existing skills through the course, which becomes evident through their classwork and participation.

My goal is to continue working to stimulate everyone's interest in the subject and to help students acquire new knowledge, techniques and abilities. Individual guidance will always have an important position, while the course level normally is adjusted as far as possible to fit each group of students. I shall keep up my efforts aiming to increase overall satisfaction with my course in the future.

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法学概論  
 授業コード 40F08-001  
 教員名 清原 泰司  
 教員コード 100774  
 登録人数 51  
 回答数 28  
 回答率 54.9%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



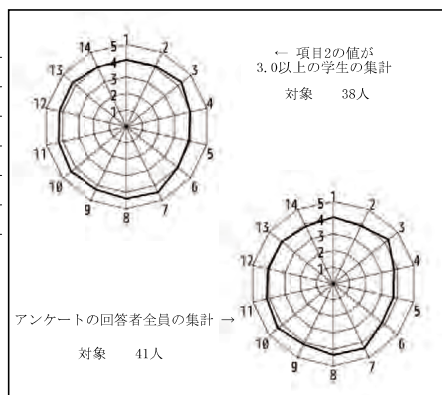
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、法学部以外の学部生を対象とする教職必修科目であるので、法学の基礎理論と主要法律科目（憲法、民法、刑法）の基礎知識と法的思考力の習得を目標とした。そのため、成績評価の方法は、授業参加度30%、定期試験70%としたことをシラバスに明記し、第1回の授業で、授業参加度を測定するため、3回の小テストを不定期に実施することを告げた。法学の勉学のためには、継続的なステップアップ授業が不可欠だからである。しかし、多くの学生は、この勉学方法が理解できなかったようで、受講登録者51名中、小テストの欠席者は、第1回20名、第2回11名、第3回5名もいた（全員出席が当たり前である）。もっとも、定期試験を含めた成績は、C以上が受験者46名中37名（合格率80.4%）、AとA+が計8名（受験者の17.3%）いたことは、上記の授業目標が一定程度到達できたものと評価している。

しかし、授業評価の結果は厳しく、設問項目3～14の平均値が3.50である。これは、各設問項目について1や2の評価をした学生が、回答者28名中、約25%いたことが大きく影響している。また、これらの評価をした学生は、自由記述欄に「白板の字が汚い」「授業で伝えたいことが全く伝わってこない」「ゴールが見えない」と述べ、相変わらず白板に頼った授業を期待している。しかし、実際の授業は、テキストの解説と配布レジュメ（A4用紙28枚）に基づいていたのが客観的事実である。おそらく授業に継続的に出席していないから、偶々出席しても、授業やレジュメの内容が理解できなかったのであろう。これに対し、各設問項目について、いずれも4および5の評価をしている学生が約49%いたことは救いである。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 物権法<2018年度以前入学者>  
授業コード 44A18-002  
教員名 前田 太朗  
教員コード 104122  
登録人数 176  
回答数 41  
回答率 23.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

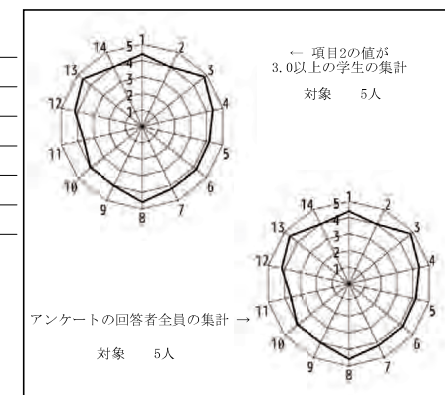


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①集中講義の形で15回の講義をおこなったが、物権法において抑えるべき点を判例・通説だけでなく、より広く多角的な視点から講義することを心がけ、それを達成することができたと思う。また判例を取り上げる際も、単に抽象的な命題として取り上げるだけでなく、事実関係との対応関係を含めて取り上げる事で、その射程を意識し、より具体性を持った学習できるように配慮したところ、この点は学期末試験でも、優良な答案が多数みられたことから、教師の目的は、達せられたものと考えている。
- ②全体として受講者の期待に応えられたと思われる。熱心な受講態度で臨む学生も多く見受けられ、教師として講義準備を進める際に大きな張り合いになった。しかし、物権法総論部分を15回で行うために、やや小走りで進めたため、深度を早く感じた受講者がいたかもしれない。予習・復習との総合性を考慮して、講義を進めるべきであったと考え、この点に付き反省している。
- ③講義ノートの配布が遅れ、受講者には予習・復習面で大きな迷惑をかけたと思っている。これは教師としての力不足であり、猛省しなければならない。また②でも示したように、やや内容を詰めすぎたところもあるため、教師の話すスピードも早めすぎたところもあったかと思う。こうした点は今後の改善点である。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本法史  
授業コード 44B34-001  
教員名 神保 文夫  
教員コード 048306  
登録人数 29  
回答数 5  
回答率 17.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

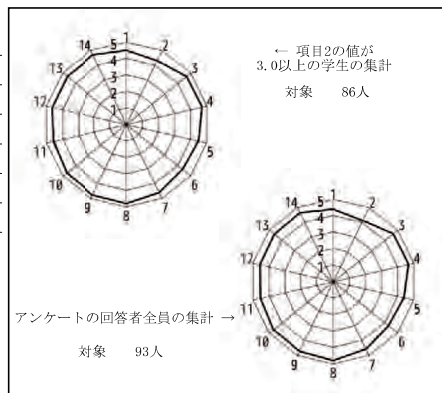


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①シラバスには到達目標として、(1)日本法の歴史に関する基本的知識を備えている、(2)主要な法分野の歴史に関する専門的知識を備えている、(3)近現代日本の法文化の特塗油を歴史的な視点から理解している、この3点をあげていました。定期試験による成績評価では、受験者のうちA評価の者とB評価の者の合計が全体の5割強で、残りの多く(全体の4割近く)はC評価でした。F評価の者も僅少なりましたが、全体としてはおおむね目標に到達することができたといえるかと思えます。
- ②アンケートの回答数が少ないので数値データはあくまで参考資料として考えていますが、各項目ともおおむね高い評価であったことから、講義で伝えようとしたことがある程度受講者に受け止めてもらえたものと思えます。
- ③講義内容・方法等について改善すべき点は多々あると考えていますが、来年度は講義を担当しませんので、次年度に向けての抱負や方針という形での記述はできません。長年にわたり南山大学法学部で日本法史の講義を担当させていただきましたが、受講者の皆さんが日本法の性格・特徴・機能等について歴史的な視点から考えることによって、日本法に対する理解を少しでも深めてもらうことができたとすれば、たいへん嬉しく思います。長い間どうもありがとうございました。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治史  
 授業コード 44B46-001  
 教員名 長谷川 一年  
 教員コード 103576  
 登録人数 296  
 回答数 93  
 回答率 31.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

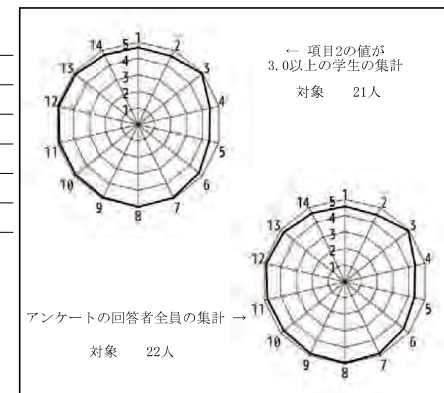


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本授業が開講当初に設定していた目標は、「1. ヨーロッパ、アメリカ、日本の近代政治史が理解できる。2. 各国の歴史的な文脈の相違を踏まえて、国際政治の動向を捉えることができる。3. 現代日本政治について歴史的かつ比較政治的観点から議論することができる」というものであった。本授業では、映像資料を適宜織り交ぜながら、近代以降とりわけ20世紀以降のヨーロッパ政治史、建国以来のアメリカ外交史、アジア・太平洋戦争後の日本政治史を重点的に取り上げることができたので、各国の政治史を有機的に関連づけて理解することができたように思われる。
- ②数値データおよび自由記述の示すところでは、本授業に対する学生の満足度はおおむね良好と判断してよいように思われる。
- ③授業の内容については、基本的にこれまでの方針を維持しつつ、さらに学生の満足度を高められるよう配慮したい。レジュメの配布方法等については今後検討したいと考えている。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済原論B  
 授業コード 44B53-001  
 教員名 川地 啓介  
 教員コード 103289  
 登録人数 98  
 回答数 22  
 回答率 22.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

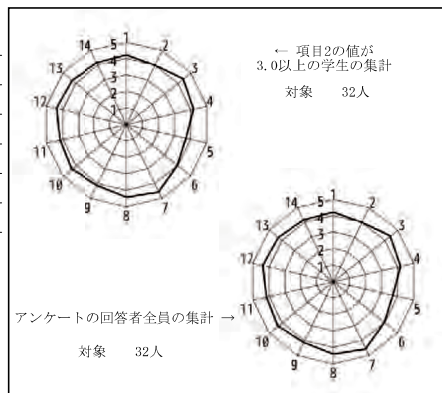


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標として、国全体のモノやカネの流れに加え、マクロ経済における各市場の仕組みや経済政策の意義について理解できるようになることを設定し、その達成のために統計データや理論モデルを表すグラフを多用する授業構成とした。授業評価の関連する項目を見る限り、受講生の理解度および目標の達成度はおおむね良好だと判断される。昨年度の授業評価において、配布資料の読みやすさの改善を希望する意見が出されたため、今年度は、受講生が復習しやすいことに重点を置いて配布資料を全面的に改訂したことが理由の一つとして挙げられる。他の項目についても全般的に昨年度よりも改善させることができたが、到達目標の理解および授業の進行速度の2項目が、他の項目よりも低い評価となっている。前者については、受講生が目標を認識できるよう、来年度の授業において丁寧に説明したい。後者については、最終講義日から試験日まで僅かな期間しかなかったことが原因の一つとして挙げられるので、来年度は授業日程に今まで以上に気を付けたい。また、経済原論Aを受講せずに経済原論Bから受講する学生や、経済原論Aの受講後に期間を開けてから経済原論Bを受講する学生がいた。来年度は、このような学生でもスムーズに授業に入れるように、数式、グラフの読み方について説明する比重を増やすように授業構成を改善したい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会学A2  
 授業コード 12C06-002  
 教員名 松戸 武彦  
 教員コード 100357  
 登録人数 54  
 回答数 32  
 回答率 59.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

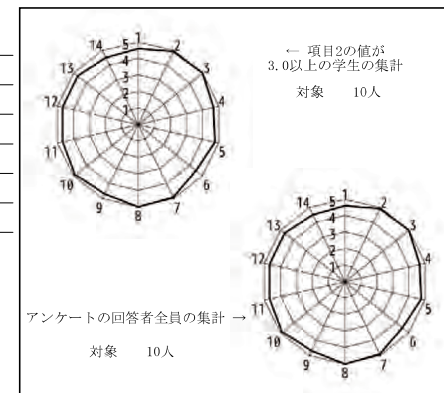


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標はおおむね達成できたと考えられる。共通教育の分野であるという性質から複数の学部からの受講生から構成されていて、どのようなテーマを取り上げていくかについて少し配慮したが、ある程度効果が出ていると考えられる。とはいえ、他の項目と比べ理解という点で少し弱いところが見え、その点が反省点であると言える。社会学という科目の性質上社会の問題を考える感覚や力をつけていくという点で、教師の問題に取り組む姿勢が大切であると考えているが、その点で「姿勢」がある程度評価されている点でよかったと思う。授業中やその後も取り上げた話題に積極的にかかわっていきこうという感覚が受講生の中に見られる回が多く、講義をしている方としても手ごたえを感じるところがあった。ただし、積極的に授業に参加していきこうとする学生には良かったと思うが、社会的事象そのものに関心を抱いていない学生に変化が見られたかという点必ずしも成功したとは思えない。この点も反省が必要だと考える。現代的な話題と社会学の学問的伝統を両立させるような講義は難しいが、考えていかないといけない課題だと感じる。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語III3  
 授業コード 46F03-003  
 教員名 Jean Claude AHWENG  
 教員コード 104148  
 登録人数 36  
 回答数 10  
 回答率 27.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were threefold, namely, for the students to: (1) undertake independent research, think about assigned policy related topics; (2) transform and convey what they have learned and thought of in their research into an English report; (3) to share with and learn from each other what they have learned and thought about in their research.

The students took the assignments very seriously, did good research, gave much thought about the assigned topics and wrote good reports.

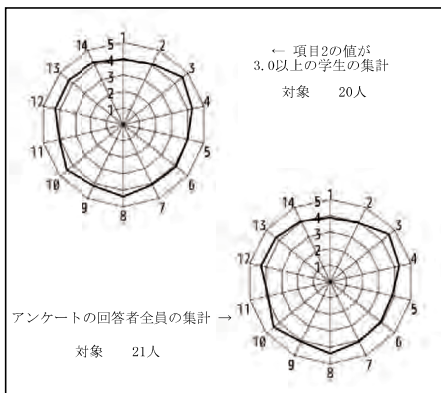
The students liked the hands-on learning by doing approach and felt that they benefited a lot from the course, both in terms of the assigned topics and English. The instructor can, therefore, conclude that the course attained its goals.

A good learning environment requires good teacher-student communication. Right at the outset, the instructor explained the goals and teaching-learning method used in the course. This allowed the students to know exactly what they were expected to do and why, thus allowing the students to be motivated and to focus on the assignments.

The students were highly motivated, had good educational foundation and a lot of potential. The instructor thinks that the students benefited from the course.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジア政治社会論
授業コード	46L02-001
教員名	鈴木 隆
教員コード	102972
登録人数	71
回答数	21
回答率	29.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
関連する評価項目を見ると、質問項目5「この授業の到達目標を理解することができましたか」(3.86)、および、質問項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」(3.95)の2つである。いずれも、4点を下回っており、教授者としては反省しなければならない。  
ただし、毎回の授業では、「授業内容について質問や疑問がある者は、授業最後にコメントシートに記入して提出するように、次回の授業冒頭に質問に回答する」ことを伝えている。シートも配布しているが、質問自体がほぼないということには、率直にいいいかんともしがたい。次年度は、小テストを行うなどして、期末試験以外にも、授業期間中に、受講生の理解度を確保する手立てを行うことを検討したい。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
自由記述は、映像資料に関するコメントが1つあったのみであった。他の質問項目は、おおむね4点以上であった。教授者としての義務を、一応果たすことができたと思う。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
質問項目2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」(3.95)と合わせて、次年度は、毎回のレスポンスシートのほかに、上述のように、小テストを実施することを検討したい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	総合政策論III(先進国政治の課題)
授業コード	70271-001
教員名	小野 耕二
教員コード	101898
登録人数	32
回答数	4
回答率	12.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

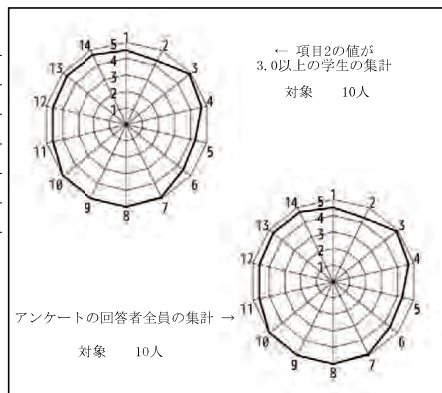
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義はほぼ予定通り進めることができた。講義中に三回の小テストを行ったことあり、学生も頑張って学習を進めてくれたと思う。期末試験でも、素晴らしい答案が何枚もあり、受講生の学習到達度については満足している。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本政治論  
 授業コード 70305-001  
 教員名 森 正  
 教員コード 100983  
 登録人数 20  
 回答数 10  
 回答率 50.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義の主目的は、①戦後70年間に構築された日本の政治システムとそのメカニズムを明らかにする、②政治改革、政権交代に伴う政治過程の変化とその評価を論じる、の2点であった。

アンケートの回答者が10人に留まったため、集計結果の評価には一定の留保が必要だが、他の設問と比べると設問5・6の評点は課題と認識している。設問7・8・9・10については高い評価を得ていることから、授業の運営、進行はスムーズにいったものと評価している。また、設問13・14の評価も比較的高い数値となっており、(アンケート回答者に限れば)目的はおおよそ達成できたと受け止めている。

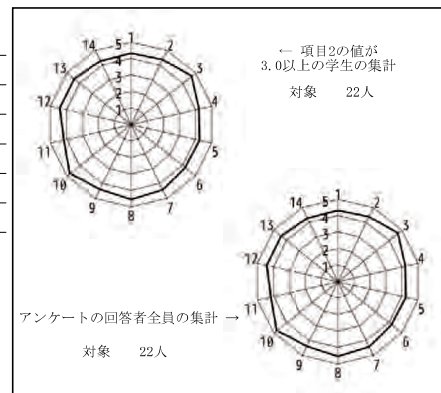
前年度に引き続き、講義の各単元の終了時に小レポート課題を課し、翌週に回収、解説を行った。また、定期試験も小レポート課題の内容を中心に出题した。レポートや講義の復習に真摯に取り組んでいた者であれば、回答はそう困難ではなかったものと思われる。

南山大学での講義をお引き受けした2005年から15年の間に日本政治は大きく変化しました。この変化を講義内容にどう反映させるかは難しい作業でしたが、履修者の知的関心と反応を受けて作りあげたという意味では履修者とのまさに“共同作業”と言えます。

カリキュラム改定を受け、この科目の開講は本年度限りとなります。これまでに履修された学生の皆さん、支えていただいたスタッフの皆さん全てにお礼申し上げます。ありがとうございました。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSスペイン語II  
 授業コード 48A22-001  
 教員名 APAZA, Pablo  
 教員コード 100878  
 登録人数 35  
 回答数 22  
 回答率 62.9%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



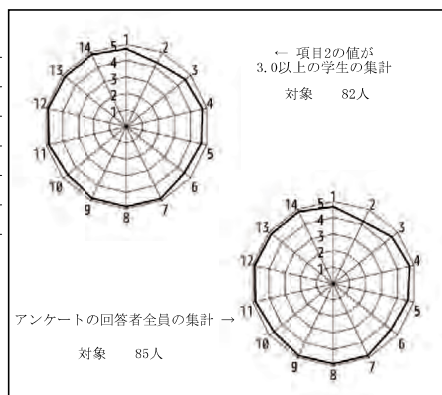
授業評価結果を踏まえた点検・評価

On this quarter, the second for this students of Spanish, the goals were highly achieved because most of the students speak up, read, write a lot, so the immersion in Spanish language from the previous quarter was much better, and they had more vocabulary to memorize and use it, so most of the students did a very good job in general. According to the chart the result are; from questions 1 to 14 the average was 4.39 which shows that students were satisfied with their selves too, from questions 3 to 14 the average was 4.40 that shows the students were glad having this class. This is good to know, considering that this class had 35 students which is not the best specially for the students that want to talk, because it's hard to guidance and control each group or pairs work because it's important to listen them and correct the language mistakes that they would make it.

The work that students did was pretty good, so we will work on the same pad the next quarter, we just hope to have a much bigger classroom which may help us to move tables and chairs to have a conversational groups of 3 and 4. Beside we will have vocabulary test on each lesson according to the need of the students and the opinion. Besides, on the next term we'll introduce different Spanish speaker countries, considering the culture, economy, and other topics of general interest too.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際協力論 / International Cooperation  
 授業コード 48C12-001  
 教員名 高田 洋平  
 教員コード 104231  
 登録人数 146  
 回答数 85  
 回答率 58.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

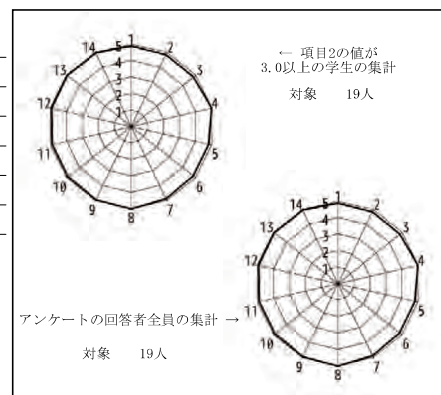


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
最終的に、講義テーマに対してある程度、自らの知見を述べるレベルに達した学生が多くみられ、到達目標に対しては概ね達成できたと考えている。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※  
比較対象をどれにすべきかわからないので自己点検は難しいが、数字を見る限り、学生との双方向性に基づいた知的好奇心、知的刺激の喚起はできたかもしれない。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
双方向性を意識していたものの、今回は大多数の学生の豊富な学習意欲にとっても助けられた印象がある。そうした学生との講義でのやりとりを続けると同時に、今後は、学習意欲が十分でない学生の知的好奇心をいかに刺激できるかが課題である。なお、全般的に貴学の学生の思考力や学問への真摯な態度は、良い意味で当初のこちらの想定を上回っていた。よって次年度は少しだけ到達目標も高めても良いかもしれない。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語VIII[FF]3  
 授業コード 11B08-005  
 教員名 NISHINO, Aurelie  
 教員コード 103640  
 登録人数 20  
 回答数 19  
 回答率 95.0%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 2 回



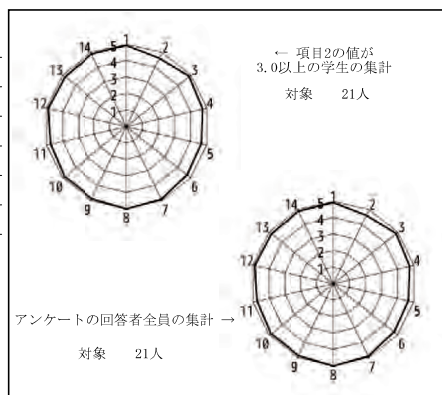
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals were to finish the book and to bring our students to a level A2 minus in French and we did managed to do it so. the students put a lot of efforts to study and it was quite pleasant to see them improve that much.
2. The book we used during classes is very complicated so it was hard to make the students motivated consequently I try my best to make the lesson quite entertaining to bring the students to focus on the lesson .  
With that in mind, with the direction of the French department we decided to change that book to give the students a better lesson.
3. Next year we are going to use a new book, so it will be quite challenging and I will need to prepare a lot, in order to have the focus and the interest of the students.



2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語II<G>  
授業コード 11F02-027  
教員名 中野 麻里子  
教員コード 102125  
登録人数 44  
回答数 21  
回答率 47.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q 3に引き続いて、そのままゆっくりめの進度で授業を行った。学生の人数によって進度がシラバス通りとはいかないことがある。シラバスの予定よりは少し遅れてしまったが、このクォーターで身に付けてほしい知識の定着度等を考えると目標はおおむね達成されていると思う。

到達目標をしっかりと授業中には話していないので、学生たちにとって到達目標があいまいに感じられたかもしれない。次回は到達目標をしっかりと示すようにしたい。

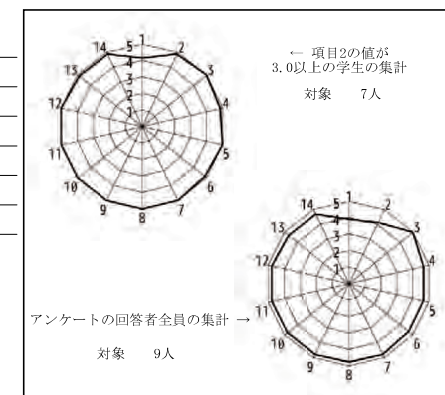
学生たちの学習意欲が高く、かなり勉強してくれるので、授業を進めやすいし、授業を進める側だけでなく、授業を受ける側の学生たちにも色々なプラスがあるのではないかと思う。この環境をこれからも維持できるよう、学生たちの学習意欲をより高められるような工夫・努力をしたい。また、今後もわかりやすい授業を心掛けたい。

映像、映画などを利用した授業を望む声があるようだが、要望に応えるのは授業時間の関係でなかなか今は難しいかもしれない。

ただ、写真などでいろいろな文化を紹介したり、おすすめの映画を紹介したりはできるので、そんな話もして、学生たちに言葉だけでなく様々な方面から中国・中国語に対して興味を持ってもらえるよう工夫するようにしたい。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語IV<全>1  
授業コード 11F04-027  
教員名 李 香善  
教員コード 103871  
登録人数 39  
回答数 9  
回答率 23.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q4における授業の目標は、履修生が中国語に興味を持ちながら、学習意欲をより高め、同時に中国語を確実に身に付けていく事、そして欠席をしないようにする事を目指していました。

5限目の授業でもあって、履修生は、しばしば疲れた顔をしていたので、みんなが少しでも楽しさを感じながら中国語学習に臨めるように授業を行いました。

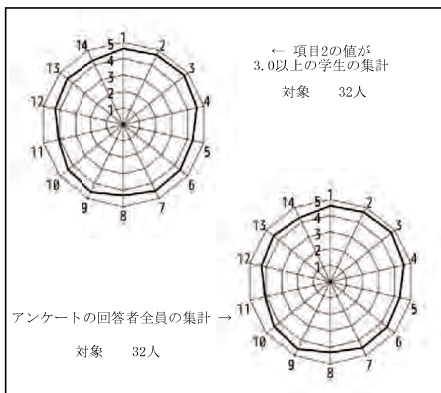
欠席が多い学生もいたので、そういう学生には常に欠席しないように一人ひとりに注意を促したり、また出席も良く、受講態度も良く、一生懸命にノートをするのにも関わらず、授業内容の理解に困難を感じる学生には、毎回授業が終わった後、特別に指導をしたりする事で落ちぶれないようにしました。

個人的に授業に工夫して良かったと思うのは、毎回テキスト内容以外、日常用語を繰り返し紹介、学習する事でした。学生の表情からこれは良いと毎回思いました。Q4の履修生の中には、中国語に興味を持って、学習意欲も高く、楽しそうに学習する学生が数人いたので、担当教員として大変嬉しく、楽しく教えることが出来ました。

勿論、中にはただ単位取得のために来ている履修生も少なくないので、今後如何に受講生の学習意欲を引き出す工夫をするかが今後の課題だと思います。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語II読解2
授業コード	35A10-002
教員名	張 静萱
教員コード	048047
登録人数	57
回答数	32
回答率	56.1%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



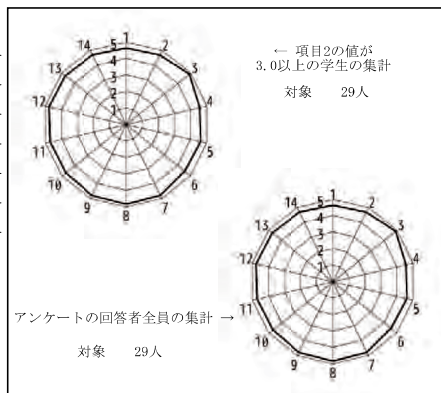
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、中級中国語（Ⅱ）読解という科目で、テキストを通して中国語だけではなく、現代中国社会のさまざまな読み取って分かるようになり、中国に関する知識が広がりますが、学生数は60名近く、テキストの内容も比較的多くて難しいので、いろいろ工夫して結果的には集計の通り、高く評価され、開講当初に設定された授業目標に達したと思われれます。記述式の評価文には、「教科書のトピックについて説明する時に先生自身の経験なども含めてくれたため、分かりやすかった」という意見がありました。評価されたところを引き続き努力していく所存です。

次学期以降に向けて、学生の自主的な学習を促す、積極的な授業参加に工夫を凝らすと同時に、受講生諸君の興味をもっと湧いてくるよう授業そのものの内容を充実にし、学習意欲を引き出す努力を考えております。受講生にとって快適で、満足度の高い授業運営を続けて心がけたいと思います。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国の現代事情2
授業コード	35B04-002
教員名	吉田 仁
教員コード	100947
登録人数	47
回答数	29
回答率	61.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

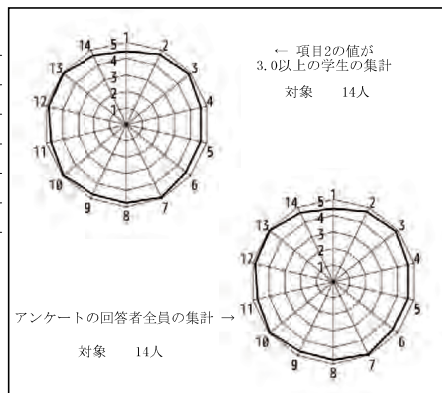


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの集計結果がアジア学科の平均をすべて上回り、まずは所定の目標は達成されたものと思われる。2017年度よりクォーター制に移行後、アジア学科の1年生の授業を担当する機会が一部の学生を除きなくなってしまい、この科目も開講当初は多少不安であったが、それも杞憂に終わり安堵している。また、この科目の履修者数が40名と当初の予測を大幅に上回り、細かな指導が可能なのか不安であったが、それも取り越し苦労であった。当科目は「中国の最新状況について一定の知識を得ること、および新語や造語が用いられる文章を読み解いて中国語の表現力を高めること」である。受講生にとっては、中国語の長文を読解するのが初めてであったようで、多少不安もあったようだが、回を重ねるごとに日本語訳にも慣れ、原文を直訳せずに日本語にすることが可能となり、教える側としても非常に喜ばしいことであった。また、教材以外に教員が中国で現在進行している時事問題についての新聞記事も紹介し、学生にとっては有意義であったと思われる。設問15の自由記述欄では、「先生の雰囲気がよくて授業が楽しかった」、「教科書以外の新聞記事なども使って勉強することができたので、授業名の通り様々な方面の中国を見ることができた」、「内容が難しかったけど、わかりやすく説明してくださってやる気が出た」などであった。今後も努力したい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(読解)2  
 授業コード 11L09-002  
 教員名 鈴木 照  
 教員コード 103293  
 登録人数 17  
 回答数 14  
 回答率 82.4%  
 休講回数 2回  
 補講回数 2回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

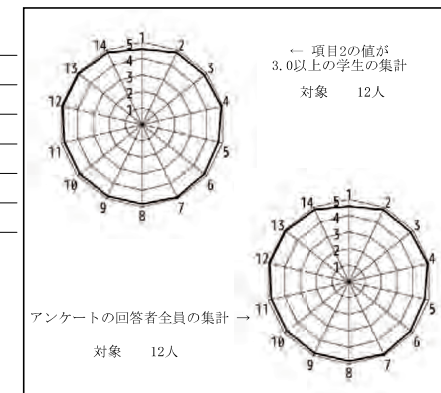
この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材や新聞、グラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。また、理解を深めるためにグループでの話し合いも取り入れた。

コース開始時には、初級の授業とは異なる日本語学習の授業形態への対応に苦慮している様子が見られた。しかし、コース終了時には、学習した文法や語句、表現を概ね正確に使用し、読解文等を理解した上で、理解した内容を自分の言葉でまとめ直すこともできるようになり、目標は概ね達成できたものと思われる。設問5平均値4.64、設問6同4.64、設問13同4.93であったことから、学生自身も日本語が上達したこと、理解が深まったことを実感しているようである。しかし、設問5、6、9で2と回答した学生もおり、授業についてこられず、授業運営に対する不満を持った学生もいるようであった。個々の学生の様子に更に気を配る必要があると思われる。

これらを踏まえ、次学期は、今学期の授業内容を中心に、学生がより興味を持てるような内容を組み込み、学生の理解度や様子に配慮しながら、授業を運営していきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術A)2  
 授業コード 11L10-002  
 教員名 蒔田 雅子  
 教員コード 102042  
 登録人数 22  
 回答数 12  
 回答率 54.5%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回

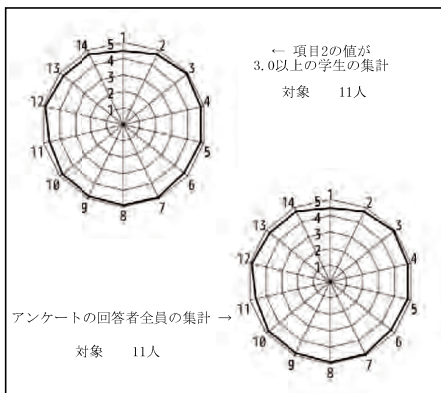


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は初級の日本語学習を修了した留学生のための口頭表現の授業であり、社会的な問題をテーマに、①信頼できる資料を探す、②必要なデータを選択して適切な提示順序を考える、③理解したことをわかりやすく説明する、④質疑応答ができるようになることを目標としている。学生は日常会話ができる程度の日本語力であるため、テーマに関しての資料を読んで理解することも容易ではないと思われるが、評価項目Q6)では4.83、Q13)では4.92と目標到達に向けて力がついてきていると高評価であり、自由記述でも「たくさん意見を出せ、話せます」「日本語がなかなか上手になった」という記述が見られたことはよかった。また、非常勤であるため、授業時間外での指導や相談に十分な時間が取れたか心配していたが、Q12)で4.92と満足してもらえたこともよかった。本科目では日本語力に加えて思考力も必要とされることから、今後も資料の探し方や社会的な問題についてどう考えればよいか、データから何がわかるかなどを丁寧に説明し、学生が目標到達に向けて努力を続けられるよう、サポートしていきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術B)2  
授業コード 11L11-002  
教員名 三輪 志保  
教員コード 103665  
登録人数 17  
回答数 11  
回答率 64.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

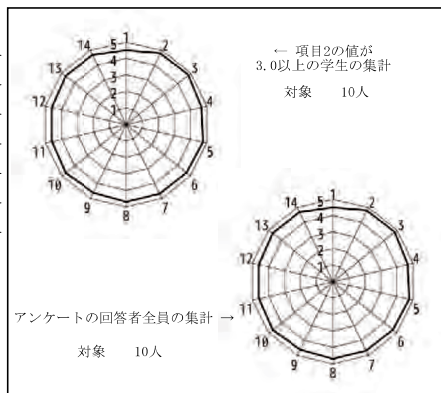
① この科目では、作文、レポートの基礎知識を理解し、表現したいことを正しい文で書けるようになること、また、研究計画書の作成に必要な表現や形式が身につくことを目標としていた。最終的な到達目標は、習得した基本的な表現を使用して、研究計画書を書くことだった。ほとんどの学生が、作文、レポートの基礎知識を理解し、書きことば表現で文章を書くことができたようになった。また、最終課題である研究計画書の作成においては、必要な表現や形式の習得には学生の能力によって差があったものの、その課題に対し努力する姿勢は全員に見受けられ、当初の目標がほぼ達成できていると感じられた。ただ、研究計画書の作成に必要な表現の実質的な運用や内容に関しては、個人差が顕著に表れた。

② 学生からの授業評価平均値を見ても、全てにおいて4ポイント台後半であり、また、コメントでも、「わかりやすい」「作文、論文が上手に書けるようになった」など、学生にとって理解しやすかったというコメントがあり、授業内容に関しては評価できると言っていると思われる。

③先学期の反省点として、運用能力の個人差を極力減少させるために、全体フィードバックにかけられる時間を毎回確保することを挙げていた。少々授業内容が予定より遅れたこともあったが、しっかりできたと評価できる。しかし、個別フィードバックが十分ではなかったと思われるため、来学期はさらに、改善を試みたい。また、個人間格差を極力減少させるために、補習授業担当の先生とも連携し、補習授業時間を活用して、基礎力が不足している学生に対し、基礎力の向上を図れるよう、様々な復習をお願いする予定でいる。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術B)2  
授業コード 11L15-002  
教員名 牧野 由美  
教員コード 100727  
登録人数 18  
回答数 10  
回答率 55.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

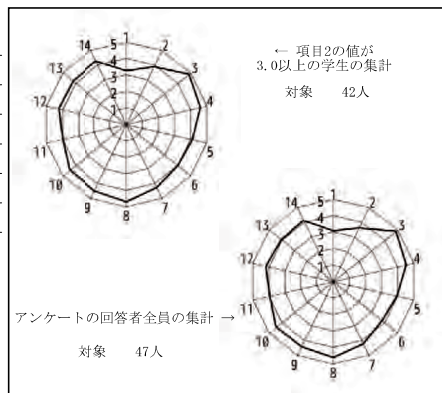
① 授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文で的確に述べたい内容を表現できる文章力の習得であった。文型・表現の練習と多くの作文課題を通して、個々の学生の文章力は向上した。文法的な正しさや資料の使い方の面ではさらに学習が必要ではあるが、基本的なレポートの形式・表現・文型等を用いてレポートを仕上げるができるようになり、受講生の多くが目標とするレベルに到達したと考えられる。

② 授業を通して、文法・表現の適切さに注意しながら書くことと、書いた文章の不適切さに気づいて直すことを学生自身が行えることを目指して指導をしてきた。また、課題は丁寧に添削することを心がけた。自由記述により、課題の添削に対する学生の満足度が高いことがうかがえる。数値データを見ると概ねよい評価となっているが、各課題に対して個別にアドバイスする時間がもう少しとれるように改善する余地があると考えられる。

③ 引き続き、より学生の實力向上につながるような授業となるよう、内容の見直しを行って次学期に臨みたい。総合的に書く力を身につけられるような指導方法の工夫を続けていく。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[E]1  
授業コード 10A01-007  
教員名 赤尾 道夫  
教員コード 104097  
登録人数 57  
回答数 47  
回答率 82.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「1. 宗教に関する基本的な知識を身につけている。2. 個々の宗教の基本的な思想を理解している。」という目標について、学長講演会に振り替えた分を除き、シラバスの授業計画に従って授業を行った。その結果、宗教一般に関する基本的な情報と、主な個々の宗教の基本的思想について十分に伝えることができた。

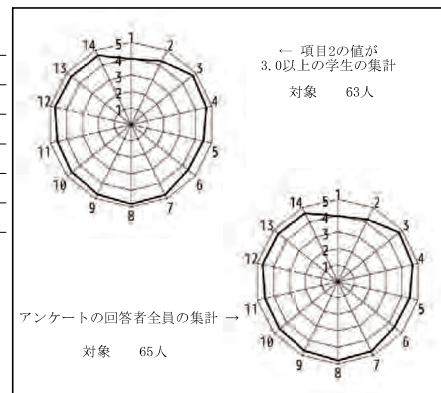
授業を円滑に進めるために毎回レジュメを配布し、スライドを準備したのは有効であったようである。特に映像や画像を用いて、理論だけではなく、その具体例を示したことが理解を深め、興味を引く助けになったようだ。

履修前の授業内容への学生の関心を示す数値は非常に低かったが(3.09)、第15回目の講義で行った授業評価での、授業を通しての理解度(4.06)や全体の満足度(4.11)の数値と比較すると、理解や関心が大きく上昇しており、それに貢献する授業をすることができたと考えられる。

他の担当科目は履修者が定員最大の150名であったが、この科目は57名しかおらず、小さいクラスで授業をコントロールすることが比較的容易であった。履修人数が多くて教室も大きいと、どうしても全体に目を配ることは困難になり、学生も授業に集中しない。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[E]2  
授業コード 10A01-008  
教員名 浅井 太郎  
教員コード 102951  
登録人数 146  
回答数 65  
回答率 44.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

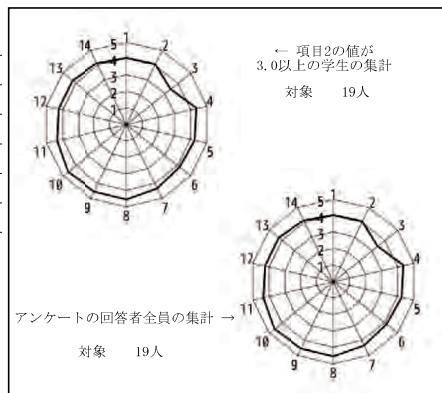
この講義の到達目標は以下の通り。(1) 宗教に共通してみられる特徴(祈り・儀礼・祭り等)に関する基礎的知識を得る。(2) 日本人にとって伝統的な宗教に関する基礎的知識を得る。(3) 宗教が個人・社会・文化に果たしてきた役割と意義について、自分なりの見解をもつ。この目標に、おおよそ到達しているのではないかと思う。

数値データをどう読み解くべきか、正直よくわからないが、おおむね受講生たちの要望に答えているのではないかと思う。いつものことながら、私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対する処置については私自身困っている。

自由記述の以下の学生の意見は私にとってありがたかった。「自分は再履修だったが、先生が優しく、授業に取り組みやすかったので、理解を深めつつ最後まで気兼ねなく履修し切ることができた。先生には感謝しかない。」「スライドが見やすい。」「動画がとても勉強になった。」「先生の考え方を押し付けるのではなく、自分の内面を見つめ直せる授業だと思った。心にも寄り添ってくれて、1人じゃないと思わせてくれた。」「映像がありわかりやすい。」「話が聞き取りやすい」「声が聞き取りやすかった。」「生徒のリアクションペーパーの内容から解説したいことへの流れがスムーズでうまいと思った」「各回、授業で扱う事項に関連する動画を見る時間があり、学びがより深まったのでよかった」「授業がスムーズでした」

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳3  
授業コード 10D01-003  
教員名 長澤 壮平  
教員コード 102718  
登録人数 77  
回答数 19  
回答率 24.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

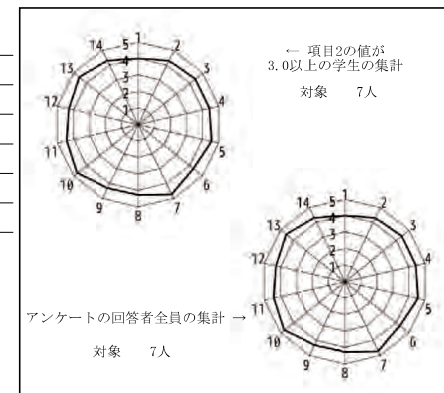


授業評価結果を踏まえた点検・評価

普段から行っているコメントペーパーからすでに学習効果は確認され、アンケート結果でも肯定的な評価を見ることができた。したがって授業目標はある程度達成されたと考えている。先年度は、理解度について否定的な意見があったため、よりかみ砕いた説明を心がけてきたが、自由記述には依然として理解が難しいとの意見があった。さらに平易な説明を心がけるべきと考えられる。また、大変基本的なことで恐縮だが、開始時間が遅いとの指摘を受けた。本講義は、PCによる進行部分が多いため、PCのセッティングに時間がかかる場合が多く、そのため遅くなるが多かった。今後は、PCのセッティングを前提にして、より早めに準備を始めることを心がけたい。また、学生のコメントペーパーのさらなる精密な検討を通した内容の細かな修正、および学生の疑問に対する丁寧な応答、そして、学生の質問を促すような場の醸成などによって、豊かな人間的相互作用が展開するような授業を目指したい。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳5  
授業コード 10D01-005  
教員名 浅野 幸治  
教員コード 100779  
登録人数 11  
回答数 7  
回答率 63.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

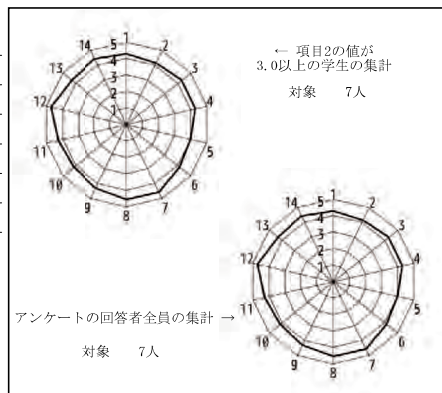


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は、学生数が少なくて、授業に比較的まとまりがあったように思う。私としても、授業全体の統一性を学生によく分かってもらえるよう努めた。学生の理解という目標は達成できたと思う。  
授業評価の点数は、おおむね良好であった。それでも、他の人間の尊厳科目はもっと良い評価を得ているので、全体的に改善の余地がある。特に設問の8と9、11と12が他の設問項目と比べて点数が低いので、学生との意思疎通にもっと積極的に努めるようにしたい。また、学生の私語を注意するという点が例年弱かったけれども、今回は学生数が少なくて私語もなかったのも、その点は消極ながらも改善になった。  
自由記述では、良かった点が「講義を通じて、世の中を見つめ直す機会が与えられた点」と書かれていた。そういう授業を私は目指しているの、嬉しい限りである。たんに知識を伝授するだけではなくて、学生に生き方を反省してもらい、学生の人生の糧となるような授業を心がけていく。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 美術B1  
授業コード 12A06-001  
教員名 池田 洋子  
教員コード 044362  
登録人数 33  
回答数 7  
回答率 21.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

絵画の見方を学習し、個々の作品を理解すると同時に、日本の美術の史的展開を認識できるようにする。

毎回、作品の見方に従い全員に質問し、次第にほとんどの学生さんがその方法で描かれているものを理解できるようになり、作者ごとの違いを認識できるようになった。学生さんたちは、同じようにしか見えなかった日本絵画の違いを理解していき、絵画作品の傾向が次第に変化していったことに気づき、絵画を通して日本美術が展開していることを認識していった。

数値データおよび自由記述等

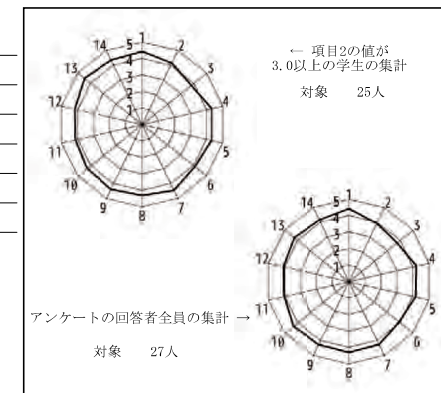
数値データは、当初は授業内容に興味があった学生も、毎回の授業で目標に向けて力がついてきたと感じていたことがわかった。毎回の配布プリントも役立っていたようである。しかし、学習意欲のより強い引き出しが必要とされていることがわかった。

次学期以降に向けての改善点、今後の抱負、

更に、学生さんたちに意欲を持って講義に臨んでもらうよう工夫をして、より積極的な参加ができるように改善したい。次期以降は今回同様に、全員に学習に参加していただき、理解度を増やして次のレベルの作品解釈の方法へと進んでいけるように望みたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋史A  
授業コード 12B07-001  
教員名 大橋 真砂子  
教員コード 100233  
登録人数 71  
回答数 27  
回答率 38.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

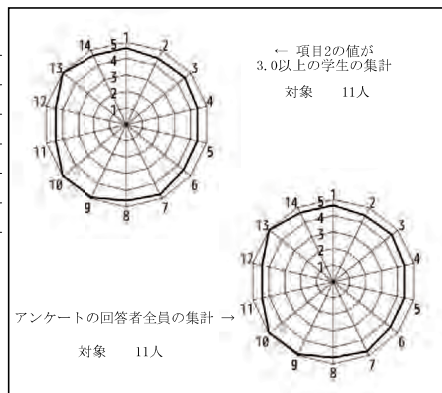


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、古代から近代までのヨーロッパの歴史について、文字文化に焦点を当てながら解説した。到達目標である、「古代から近代までのヨーロッパの歴史の大まかな流れ」の理解、「現代における文字文化の起源と歴史的な経緯」の理解、ならびに「歴史に関する特定のテーマについてわかりやすい説明文を書く」というそれぞれの点に関して、学生の試験結果などを踏まえると、ある程度は到達できたと感じている。アンケートの数値データに関して言えば、比較的高い評価を得たと感じている。また、自由記述では、内容や授業の進め方についての前向きな評価がある一方で、担当者のミスにより授業の終了時間を間違えるなどした点（ベルが聞こえなかったらしい）、Webへの資料の提示時期、資料の空欄の付け方などについて、改善に役立つコメントがいくつか見られた。そうした指摘を踏まえながら、次年度以降に関しては、学生にとってより受講しやすいやり方を模索していきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命自然史2  
 授業コード 12D03-002  
 教員名 成田 靖子  
 教員コード 100250  
 登録人数 21  
 回答数 11  
 回答率 52.4%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

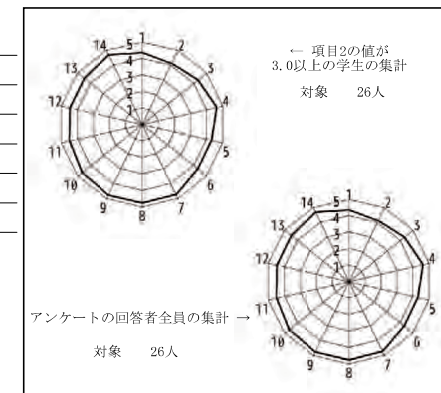
今回対象となったこの科目「生命自然史」は2019年度に初めて担当となり、3Qと4Qと2回開講した。宇宙からみた地球生物誕生の由来、生物体構成元素の必要性と働き、生物の進化によって生じた疾病発生などを内容とした。3Qでは授業評価の対象ではなかったが、自分なりに授業展開のよかった点および改善すべき点を考えた。それを踏まえながら4Qでの開講2回目に臨んだ。

授業評価アンケート結果は、項目3～14の平均値は4.64であった。担当者は授業評価の自分のなりの目安を4としているので全体としてそれなりの成果が出たと考えている。初めての担当ということで、特に配慮したのは学生が項目13と14にあたる「授業内容に興味をもったか」と「授業内容に満足できたか」である。結果として5.0と4.6の値を得たので、担当者としての取り組みと配慮がある程度学生に伝わったものと考えている。また、配信テレビ放送などを使って、文字・言葉・図だけでは理解しにくい生物のしくみの理解補助とした。自由表記でもそれを良しとするコメントがあった。

来年度は2年目となるので、さらによい内容になるように努力する。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学A2  
 授業コード 12D06-002  
 教員名 三野 義尚  
 教員コード 102236  
 登録人数 96  
 回答数 26  
 回答率 27.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



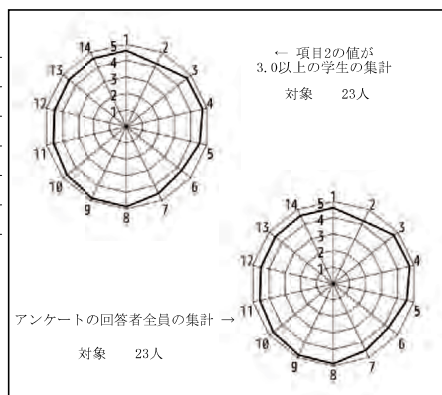
授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用した。また授業で得た知識をアウトプットする機会として小テスト（ミニレポート）を2回実施した。休講0回、補講0回だった。項目3-14の平均値は4.55で、全開講科目および基盤科目の平均を上回っていた。到達目標に関する設問5および設問6のスコア（ともに4.31）が他の設問よりもやや低かったが、昨年度よりもスコア自体は上がった。引き続き、講義内容の理解を実感できるように工夫していきたい。映像資料と講義スライドのリンクは評価されているようなので（設問15）、引き続きうまく活用していく予定である。設問16の改善点は特になかった。



2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 健康科学論1  
 授業コード 12D09-001  
 教員名 土屋 真人  
 教員コード 104221  
 登録人数 38  
 回答数 23  
 回答率 60.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

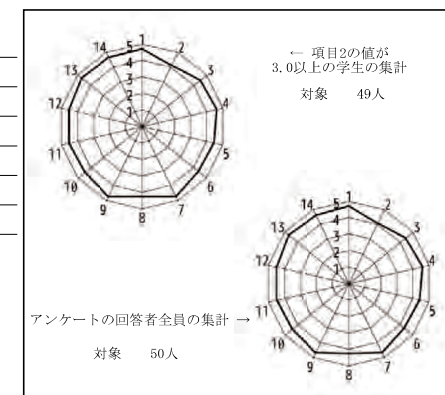


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①1. 自らの身体状態や生活習慣を適切に把握・評価できる、2. 運動・身体活動が健康に及ぼす影響を理解している、3. さまざまな健康関連情報から適切に取捨選択するための知識を身につけることが到達目標であった。毎時間のミニレポート、最終レポートでも、学んだことが自身の今後の健康増進にどう活かせるか、という設問を用意し回答を得たが、自身の身体、健康などに意識が高まり、今回の講義で扱った内容については、おおむね到達目標に近づいている感触を得た。特に「腰痛予防」、「膝痛予防」、「ウォーキング」、「ダイエット」などは学生の取り組む意欲が高かったように感じる。②体力低下がすすみ、高齢者の健康や介護の問題が深刻化している現代社会において、その現状を知り、自身の元気で活動的な人生のために活かすことは極めて重要である。この講義では、身近な問題について取り上げたり、人体模型を使ったり、自分の身体を使って確認してみたり、と学生に興味をもってもらえるよう工夫してみたが自由記述をみるかぎり、その点はプラスに受け取られていると感じる。項目番号2についての平均値が最も低かった。次回の講義で扱う内容について、事前に知らせ、研究課題を与えることもできるので今後はそのようなことも検討する。③学生が能動的に受講するようスマホ、PCを使った検索研究やディスカッション、発表なども取り入れた。今後は向かい合うように机の配列を変える、グループ分けの仕方など、よりディスカッションをやりやすい形を模索し、工夫したい。また、第1回目講義の出欠の扱いについて質問を受けたが、解釈が統一されていないようだったので、最初の講義で解釈を統一したい。プリントを配布する際に無意識に指をなめていたが、このことを不快に感じる学生がいたので、この点は早急に改善する。1限目、2限目と続きの講義であったため、区切りのよいところで休憩時間とすることがあった。授業の開始時間と終了時間を守るよう徹底する。学生がよりわかりやすい講義になるよう様々な観点から考え、より工夫していく。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学B1  
 授業コード 12E04-001  
 教員名 西田 裕紀子  
 教員コード 101587  
 登録人数 133  
 回答数 50  
 回答率 37.6%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 2 回

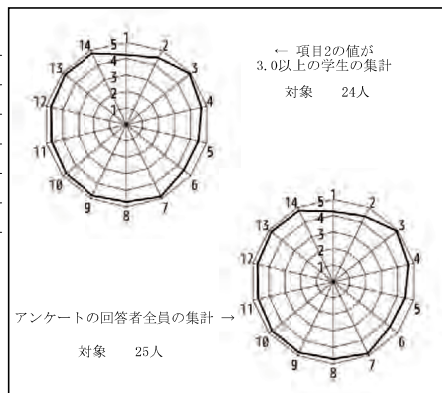


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問14項目中11項目で全体の平均値を上回るか同値であった。特に平均値よりも高い値(4.50以上)を示していた設問は、「1. 授業の履修前、内容に興味をもっていった。」、「4. 毎回の授業の構成や進行速度は適切なものだった。」「7. 担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができた。」、「9. 学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めていた。」、「11. 学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供があった。」「12. 質問や相談の機会が、十分に設けられており課題、実習等に対する事前・事後指導は十分だった。」「13. の授業を通して、新しい知識(あるいは、技術や能力)を得たり、理解が深まったりした。」「14. 全体として、あなたはこの授業に満足した。」であった。特に、事前の授業への期待が高く、授業を通じて理解が深まった様子が見られることから、今後もそのような授業の展開を志す。一方、平均値を最も下回っていた項目は、「2. 受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をした。」であり、今後は、予習や復習などの自主的な学習を進めると共に、授業の運営を工夫したい。以上、概ねポジティブな評価・コメントであり、心理学の概論的内容を理解するという本科目の目標は達成できた。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較2  
 授業コード 13A01-002  
 教員名 山田 幸代  
 教員コード 101367  
 登録人数 39  
 回答数 25  
 回答率 64.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

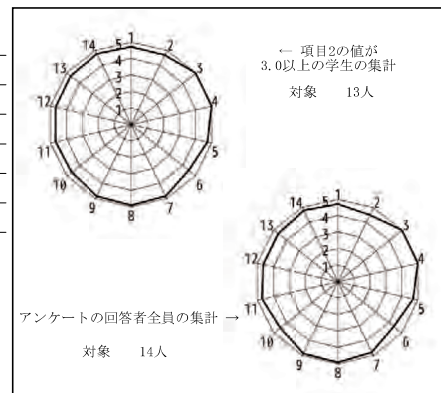
「ケルトの文化圏およびアイルランドの歴史と文化について知識を得ることでアイルランドに対する興味を引き出す」という授業目標は、達成できたと思われる。自由記述欄には「アイルランドのことが詳しく分かって興味深い授業でした。アイルランドのイメージがガラッと変わりました」というコメントがあった。

映画・ドキュメンタリ映像・音楽などオーディオ・ビジュアル教材を視聴することには好意的な感想が寄せられていた。「アイルランド、ケルトといった馴染みのないテーマで最初は興味も知識もなかったが、映画や音楽を見せてくれて興味を持つことができ、退屈ならなかった」「映像や音楽などの資料が豊富で、楽しみながら学ぶことができた」などのコメントがあった。

「改善すべき点」については「映画鑑賞の時は、後ろのところまで電気を消してください」という意見があった。プリントにある映画クイズを解きながら視聴するので、手元が見える程度に明るさを保つ必要はあると思うが、今後は様子を見ながら対応したい。スライドをウェブで公開することについては、「スライドダウンロードのパスワードはともかくサイトのURLは最初のプリントに書いてあっても良いのではと思う」との意見があったので対応する予定である。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって2  
 授業コード 13A04-002  
 教員名 梶田 美香  
 教員コード 103589  
 登録人数 67  
 回答数 14  
 回答率 20.9%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

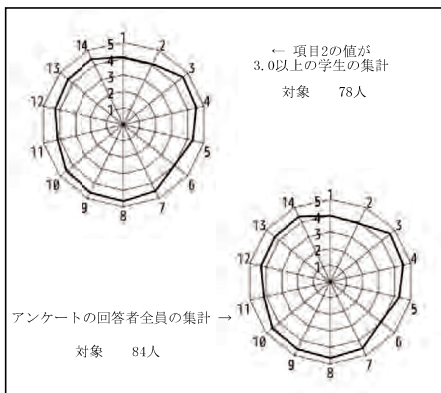
①学生の馴染みの有無を問わず、多様なジャンルの楽曲の鑑賞機会を提供してきた。またそれらを提供する際に、社会的観点、及び、経済学的観点からのアプローチを心がけ、従来の芸術教育とは異なる視野を持つように促してきた。この点について、毎回の授業で回収するフィードバックシートを読むと、多くの学生がこれらに関心を寄せていた様子が散見され、授業内容は概ね、学生のニーズに合致していたと思われる。ただ、授業で得た知見が学生の日ごろの生活を変えるきっかけになっているかどうかは不明瞭であるため、今後は、学生の生活行動に影響を与えるような具体的な示唆を提供したいと思っている。

②概ね高評価を得たと感じているが、フィードバックシートには時折、音楽の専門知識がないのでついていけなかった、といった内容のコメントが見受けられた。芸術系大学ではない学生にとっての芸術の素養の身に付け方について、細心の注意を払いたい。

③授業で使用するPPを毎回ウェブクラスにアップしてきたが、時折、授業後のアップになることがあった。このことが学生の事前学習のペースを崩すことになっていて反省している。次期は事前アップを全うできるように心がけたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって4  
 授業コード 13A04-004  
 教員名 小沢 優子  
 教員コード 101168  
 登録人数 133  
 回答数 84  
 回答率 63.2%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 2 回

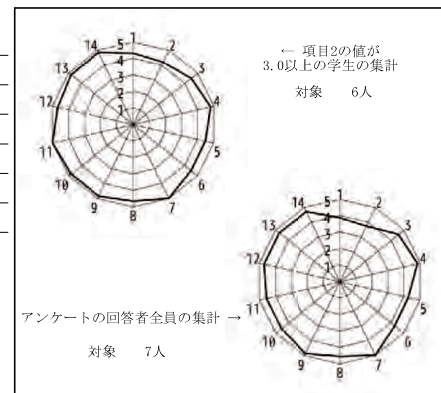


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1～14の平均が4.34、項目3～14の平均が4.40。今年度のQ2「芸術をめぐって」のアンケートでのそれぞれの数値4.29、4.38を少し上回っている。また、設問5が4.07だったのが4.54に、設問13が4.19だったのが4.31となり、気になっていた授業の到達目標に対する理解、新しい知識の習得と理解の深まりに関して改善されていることがうかがえた。全体的には良い結果だったと思うのだが、今回、設問6は3.94と依然として低く、授業の到達目標に向けて力がついてきた、という自覚を十分に持ってもらうには至っていなかった。さらに、設問11は前回よりも低く4.14。質問や相談の機会が学生にとって満足のものではなかったようである。一方で、自由記述での授業の良かった点としては、さまざまな視聴覚教材を用いて実際に音楽を聴けたこと、鑑賞しながら歴史を学ぶことができたことが挙げられている。感覚や感性による音楽の享受と、学習や学問の対象としての音楽の理解をどのようにバランスを取り、学生の授業内容に対する理解や、習得の自覚と満足感を高めていくのかを今後の課題としたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解3  
 授業コード 13C01-003  
 教員名 杉尾 浩規  
 教員コード 102055  
 登録人数 33  
 回答数 7  
 回答率 21.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

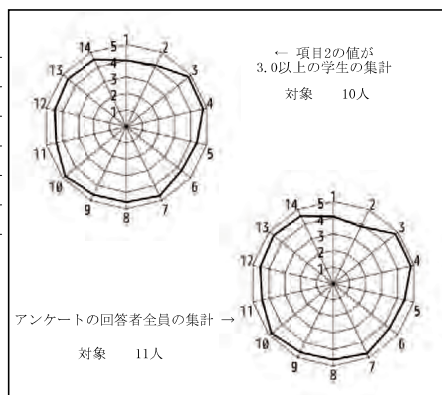


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は「考え方や価値観は多様である」という異文化理解の基本的視点から文化と人間への理解を深めることにありました。その際特に、「日本における異文化理解」というテーマに注目し、現在の日本で「多様な考え方」と「自分だけのユニークな考え方」の両方を認めることの難しさと大切さを強調しました。また、評価のための定期レポートを「多様な考え方を認めながらその中で自分の考えを形成して言葉で表現する」という「他者に自分を理解して貰う」実践と位置づけました。レポートには授業内容を踏まえつつ柔軟な視点から文化を論じた作品が多くあったことを踏まえると、異文化理解の意義を強く打ち出した本授業に一定の肯定的評価を与えることができると考えられます。改善を検討している点として「評価方法」と「授業内容」があります。評価方法は定期レポート100%でした。しかし、毎回提出のリアクション・ペーパーの中には「リアクション・ペーパーを評価対象にしてほしい」という要望がありました。実際、毎回丁寧かつ長文のリアクション・ペーパーを提出してくれた履修者が少なからずいました。以上の理由から、来年度は評価方法を平常点評価に変更する予定です。授業内容に関しては、リアクション・ペーパーで多く見られた日本文化や国際化に関する問題提起を踏まえて、「現代の日本における異文化理解」というテーマを深く追求した講義構成にしたいと考えています。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相7  
授業コード 13C04-007  
教員名 山口 亮太  
教員コード 103824  
登録人数 62  
回答数 11  
回答率 17.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

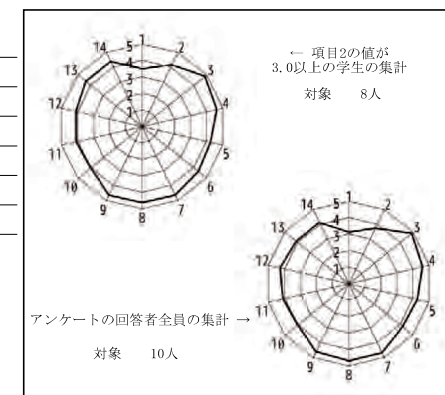


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
本授業では、アフリカ熱帯林における保全と地域社会に関する事例を紹介することを通じて、生物多様性保全の歴史的な展開と、保全活動が地域社会にもたらす影響について多角的視点から考える契機となることを目的としていた。当初の目標は達成されたと考える。
- ②数値データなどを踏まえた自己点検・評価  
本授業のアンケートから得られた数値データは、開講主体別平均値から大きく乖離するものはなく、内容における一定程度の水準は充たされていたものと考えられる。ただし、項目番号2の学生の予習復習と主体的な授業への参加に関する項目は、平均値が4.00を割っており、他の項目と比べて低い水準となっている。本授業では、学生に対して普段からインターネットなどを通じて保全関係のニュースに目を通すように繰り返しアナウンスし、期末のレポート課題もそれと関連したものを提示したが、それでは不十分であったと考えられる。
- ③改善点  
②の結果から、予習復習を学生に促すことに加えて、講義中でもディスカッションの時間を設けるなど、学生が主体的に講義の内容に関する話題について考え、意見交換する機会を増やすことが、学生の理解を深めるのに有効であると考えられる。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報2  
授業コード 13E05-002  
教員名 堀田 慎一郎  
教員コード 104095  
登録人数 26  
回答数 10  
回答率 38.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

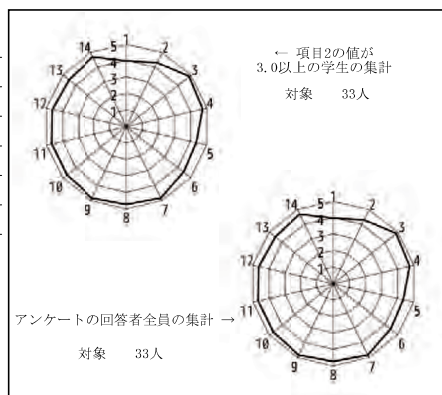


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに記載した到達目標は、おおむね達成できたと思われる。受講生の設問3以降に対する回答の数値データを見ると、受講生もこの講義におおむね満足しているものと自己評価できる。特に設問3、7、8、9に対する評価が高く、講義の方法や講師の熱意は学生に受け入れられたと判断できる。その一方で、設問11に対する評価が低く、積極的に授業参加を促す努力が不足していたようである（それは設問2への評価が低いことからも分かる）。ただ、2回にわたって、アーカイブズでの実地学習を行い、受講生に記録史料の閲覧や企画展の観覧などを行わせ、特に後者についてはミニレポート等を課すなど、一定程度の取組みは実施した。リアクションペーパーからも、この取り組みは学生に好評であったと思われる。なお、第2クォーターと全く同じ講義を実施したわけであるが、学生の評価は全体的に上がっている。この講義は、自分の担当は本年度のみなので、次年度の抱負はないが、類似した内容の講義はほかで行う機会があるので、今回の問題点を改善していきたい。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 視聴覚メディア論  
授業コード 15M09-001  
教員名 宮下 十有  
教員コード 103580  
登録人数 98  
回答数 33  
回答率 33.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



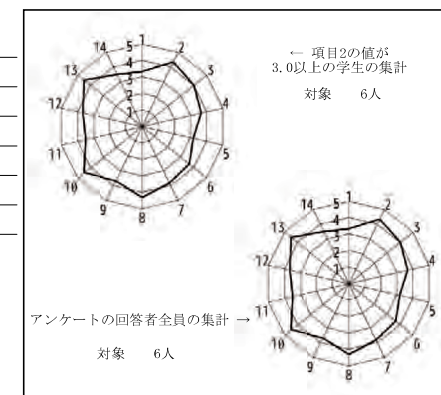
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講にあたって目標は、博物館・美術館における情報・メディアの意義と活用方法と課題の理解、博物館・美術館、学校教育における視聴覚メディアの活用方法の理解、博物館・美術館での情報提供、メディア活用の提案ができることで、アンケートでは、目標や内容に興味を持っていた学生は3.9程度、授業での課題の到達度から、これらは概ね到達できたと考えることができる。

「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めたか。」の回答が4.8だったことから、授業の内容は最新のものを事例にすることが多かったため、準備も相応の時間がかかったが、そうした熱意は伝わった模様だ。この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じた項目については、4.5、全体として、あなたはこの授業に満足度についても4.70平均で、概ね満足を得られたと考える。自由記述でも「自分で体験して、学ぶことが多かったため、理解しやすかったところ。」「AIの話など、そのときの話題も取り込んでいて面白かったです。メディアの他の見方が少しわかって来た。」「様々な媒体、新しいものを積極的に取り入れた授業である点。」が良い点としてあげられている。スライドの提示、毎回授業の振り返りもよかった点にあげられ、アクティブラーニングを進める上で、今後も継続したい。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(大陸哲学)  
授業コード 22C67-001  
教員名 星 揚一郎  
教員コード 100986  
登録人数 30  
回答数 6  
回答率 20.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

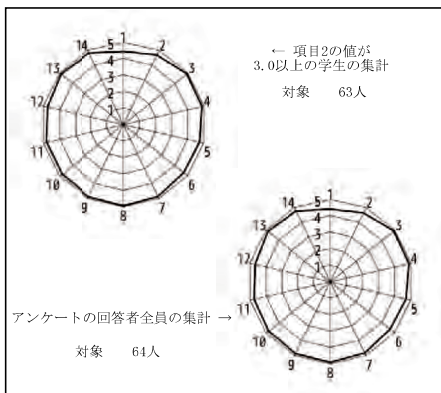


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスの内容のとおり、大陸哲学の概観を平易な例を用いながら紹介し、その核心をふまえたうえで哲学（レポート作成）してもらいました。授業の主旨と意図が理解できた学生は、十分なレポートが提出されています。ただ、ほとんどの受講生が哲学史の基礎知識がまったくない状態で、難解な大陸哲学だけを紹介しても、その特徴が分からないので、哲学史の基礎知識や、学際的な情報を交えて、講義をしました。その意図が理解できなかった学生は「シラバスのとおりではなかった」と感じているようです。同時に、そうした方は、授業評価のコメントが辛口になっただけでなく、レポートの質も低くなりました。主な受講生は人文系でありながら読書習慣の少ない学生です。そうした学生に伝統的な大陸哲学を講義するのは難しいですが、来期も、できるだけコミュニケーションをとって丁寧に対処してまいります。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ研究の基礎 (政治)  
 授業コード 34A09-001  
 教員名 山口 宏  
 教員コード 101552  
 登録人数 85  
 回答数 64  
 回答率 75.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体的に高い値となり、総体的な満足度（問14）や知識・理解の深まり（問13）も高めの数字で、良かった。政治思想の基本的諸概念を理解し、ドイツの諸問題を押さえるといった目標も、多数の学生について到達できたと思われる。

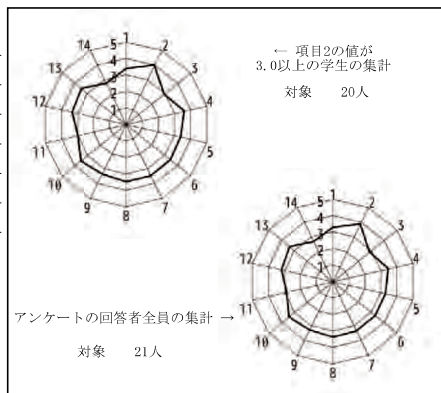
教員の真剣さや声の聞き取りやすさなどは当然のこととして、授業ではさまざまな短い映像を随所に挟みながら進めていたり、退屈はしないよう組み立てていたの、資料・教材の適切さ（問9）もまずまずの高い値になったかと思う。また講義形式で個々の学生にいていねいな指導まではできなかったが、授業では毎回記述をしてもらい、次回の冒頭で質問に答えていたので、質問や相談の機会（問12）も低くはならなかったと思われる。

自由記述は、「面白かった」「わかりやすかった」など、非常に肯定的な評価を書いた学生が多く、恐縮するありがたい。意欲も力もある学生が多くてこちらも助けられたと感じている。

次年度も、基本的にはこのままのやり方で、さらに内容・構成を磨いていきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境政策と倫理  
 授業コード 46J03-001  
 教員名 高畑 祐人  
 教員コード 048736  
 登録人数 73  
 回答数 21  
 回答率 28.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

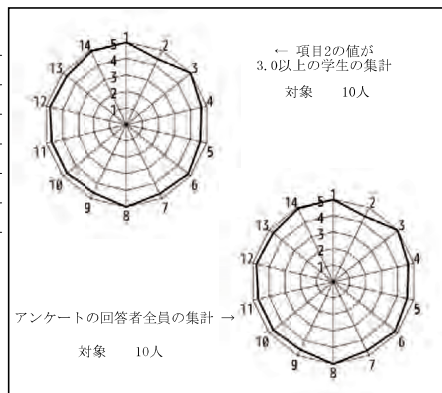


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①授業の到達目標は、「(i) 環境政策を倫理的評価するための基礎理論についての適切な理解を持つ、(ii) 環境政策について自分なりの倫理的評価ができ、それを理路整然と表現できる」であったが、結果を客観的に判定すれば、到達目標を達成したとは言いがたい。
- ②しかし「環境政策と倫理」という授業を取る以上、学生には最低限の哲学／倫理学の素養をあらかじめ身につけていて欲しいと要求するのは学生に対して過大な要求をしていることになるのだろうか。もちろん、受講する学生が哲学や倫理学の専門家でないことは百も承知で引き受けたのであるから、目標達成のために手をつくすのが当然だといわれるかもしれないが、哲学や倫理学が軽視される風潮の中であって、非常勤講師一人に丸投げするのはどうだろうか。哲学や倫理学はカリキュラム中にただおまけとして位置づけられているにすぎないだろう。社会に役立つ「実学」に携わっていることを最上の存在理由として、そうした分野の利益を拡大することに躍起になっている大学に、学問体系全体の中の哲学倫理学の重要性など本気で理解する意志があるだろうか。あるとしたら、なぜ哲学や倫理学が軽視されるのだろうか。
- ③いずれにせよ私は今年度で契約が切れるので、次の機会に向けての改善点を書く必要はないと思われる。むしろそういうことを契約が切れるものにまで機械的に要求してくることから、いかに機械的で官僚的であるかということがよく分かる、というものだ。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(健康スポーツ)卓球  
 授業コード 14E04-002  
 教員名 福田 和夫  
 教員コード 043950  
 登録人数 15  
 回答数 10  
 回答率 66.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

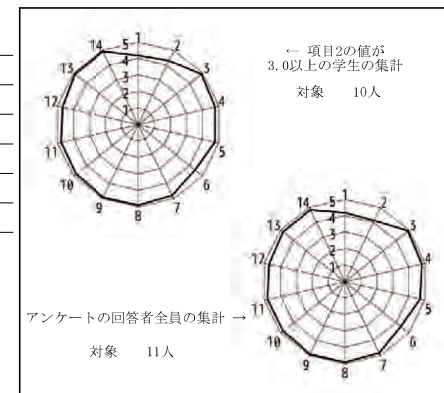


授業評価結果を踏まえた点検・評価

基礎体育で卓球を履修した経験がある学生が数名いたが、ほぼ初心者に近い学生が多いクラスであった。男女混合のクラスであったが、卓球は余り男女差が出ない種目なので、特別配慮する必要もなく、比較的楽しい雰囲気の中、授業を展開することができた。全体的に高い評価点であったが、特に高かったのは次のようであった。「授業の開始と終了の時間は守られていましたか。(5.0)」、「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。(5.0)」であった。また、「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。(4.8)」、「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。(4.9)」などから、開講当初に設定した目標を概ね達成することができたと思われる。この授業の良かった点、評価できることは何ですか、の自由回答の中に、「ローテーションで相手を変えて練習することでコミュニケーションがとれ、いろんな人と会話ができました。」とあり、今後もローテーションを積極的に取り入れていきたいと思う。なお、授業開始時間のかなり前に卓球場に来て練習を希望する、やる気のある前向きな学生がいるので、これからも可能な限り教員も早く準備をして付き合いたいと思う。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 学校カリキュラム論  
 授業コード 15A06-002  
 教員名 東岡 達也  
 教員コード 104240  
 登録人数 16  
 回答数 11  
 回答率 68.8%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 1 回

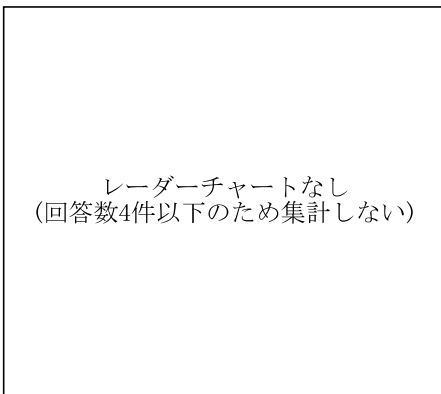


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本科目の目標は、学校カリキュラムに関する知識が体系的に整理されており、適切な情報を選択し適切に表現できているかどうかを測る目標を設定した(詳しくはシラバスを参照)。到達度を確認するために、ほぼ毎回の授業で、ワークシート課題、講義内での発言、および授業後のリアクションペーパーへの記入を課したほか、最終試験で記述式の問題を三題課した。結果、最終試験に出席した全員が目標に対して一定の到達度に至った。
- ②「開講主体別平均値」表の本科目と対応する項目、すなわち「全体」「資格科目」「30名以下」と本科目を比較すると以下の傾向がある。質問項目「1」「2」は平均値と同じか平均値より低い、「3」～「14」は平均値より高い。「1」が低かった理由は、(1)シラバスの内容が受講生に興味を持たせるものではなかったため、(2)資格科目はほぼ「必修」であることにより、興味のない科目でも取らなければならないため、などが考えられる。「2」に関しては、「予習や復習」、「主体的に授業に参加」、「内容を理解しようとする努力」それぞれに判断の要素が含まれているため、判断は難しい。ただし、「予習や復習」については具体的な指示をあまり出さなかったため、その点が理由と推察される。
- ③興味を持たせるようなシラバスを作成すること、予習・復習に関して具体的な指示を出すことが改善点である。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教科指導法B
授業コード	15B42-001
教員名	DASION Yoseph B.
教員コード	100671
登録人数	5
回答数	4
回答率	80.0%
休講回数	0回
補講回数	0回



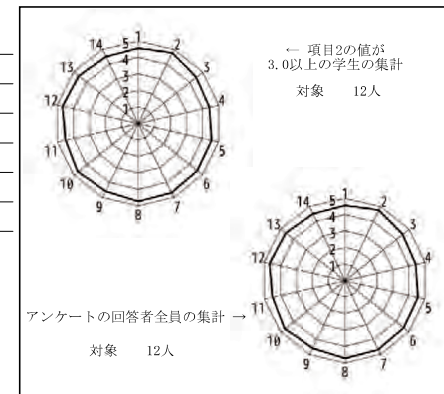
授業評価結果を踏まえた点検・評価

少人数の受講生で授業を行っていますので、学生との距離は近いし、授業中のコミュニケーションや授業全体の雰囲気もとても素晴らしい。  
授業の目標達成は高い、とっております。  
学生も積極的に授業に参加し、出席率は100%です。  
教育実習を前提とする授業なので、学生が実習の際の心構えや、実習現場での姿勢、担当教科・生徒対応に関連する事柄をできるだけ提供することがこの授業の良いところ。  
これからも、この機会を大切に、多くの将来の教員を育てる使命にかかわるチャンスがいただければ、嬉しく思います。

学生たちに感謝いたします。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会・地歴科指導法B1
授業コード	15B47-001
教員名	成田 健之介
教員コード	101555
登録人数	20
回答数	12
回答率	60.0%
休講回数	1回
補講回数	1回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は講義および演習形式、模擬授業で行った。社会科・地歴科における主体的・対話的で深い学びを促すための授業実践力を高め、学校現場での授業実践の理解や学習指導案細案の作成、模擬授業とディスカッションなどによって、社会科・地歴科における授業力を高めることを目標にした。

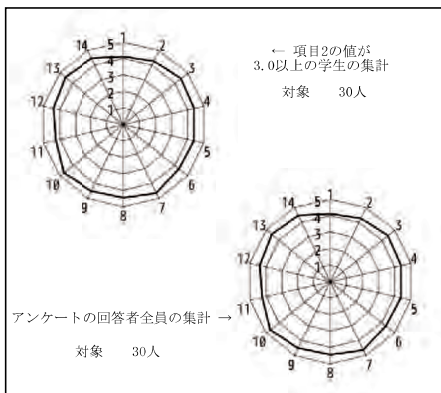
平均値の数値データからは、項目3から項目14の平均が4.58、項目14「全体としての満足度」は4.50であった。項目12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」が4.67であり、自由記述でも「先生が親切。模擬授業の指導案づくりで困ったときには相談時間を設けてくれて、アドバイスをもらえたので助かった。」という意見が述べられている。また、項目2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」が4.75であり、学生は学習指導案や模擬授業計画のために授業外にも学修できていたことを示している。模擬授業や学習指導案作成については、これまでの授業スタイルを継続したい。

逆に、項目3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」の平均値が4.50であるものの、自由記述に「終わる時間は守ってもらわないと、次の教室に移動するとかトイレに行くのに、非常に困る。」という意見が述べられており、模擬授業で、授業終了時刻が遅れがちであったことが課題として挙げられる。原因としては、後半の全員に課している模擬授業で、学生によってはPCなどの準備や模擬授業の時間管理がしっかりとできなかったために時間を費やす場合が少なくなかった。模擬授業を通しての学修は、学生にとって貴重な学びになっているために、全員の模擬授業は継続しつつ、受講者数に応じて模擬授業の授業回数を増やすか、一人あたりの模擬授業時間を少なくする、持ち時間で打ち切る等の改善に取り組む必要がある。



2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 介護等体験指導  
 授業コード 15C04-001  
 教員名 鶴飼 博  
 教員コード 104093  
 登録人数 99  
 回答数 30  
 回答率 30.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

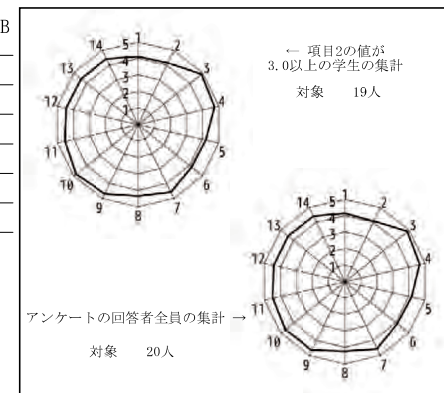


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
 授業毎に実施したミニレポートの結果や授業中の学生の発言などから、学生は授業の内容を理解し、目標に到達したと考える。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
 概ね適当な授業であった。授業では特別支援教育の教育現場の実際を想起できるような想定課題やスライド及び映像等を準備したり、学生同士の短時間かつ少人数のグループ協議を毎時間取り入れたりして、学生が主体的に授業に参加できるよう配慮した。学生の課題意識や知識量に幅があることが明らかになったため、授業ではグループ協議を取り入れ、協議を通して学生の認識をさらに深めるようにした。  
 障害のある幼児児童及び生徒の学習上及び生活上の困難と対応について、やや認識不足と感じる学生が散見された。授業内で、より丁寧に説明するとともに、グループ協議や仮想課題の充実等を通して学生の理解を更に深めたい。
- ③改善点、今後の抱負・方針など  
 説明速度、滑舌に配慮する。新学習指導要領への対応やインクルーシブ教育システムの構築、学校現場での教育実践など特別支援教育をめぐる最新の動向をもとに、よりわかりやすく、学生自身が学びたい授業に心がけたい。  
 介護等体験を控え、学生は実践的な授業内容を求めている。学校現場での課題や教育相談の事例も取り入れながら、目標を達成したい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[B]  
 12  
 授業コード 11A04-009  
 教員名 岩城 奈巳  
 教員コード 049601  
 登録人数 21  
 回答数 20  
 回答率 95.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

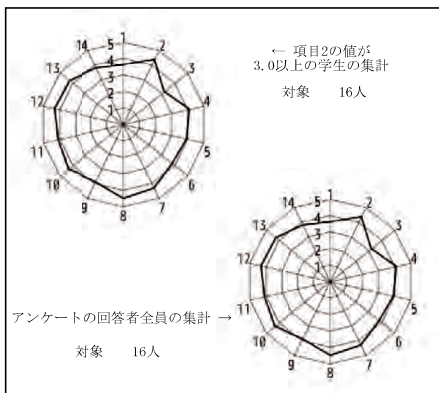


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの各項目にて平均以上の点数があり、学生も概ね満足した授業内容であったと思う。毎回、講義開始直後は前回の復習をし、全員が同じスタートラインに立てていることを確認した上で、当日の授業内での目標の確認をおこないながら指導した結果もアンケートでの学生の満足度として現れたと感じる。授業中は、複数名から構成されるディスカッション及びペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が発言しなければいけない参加型講義にし、全員が参加していることを毎回確認しながら講義を進めることができた。第4クォーターは仕上げでもあり、全員が何をしなければいけないのか把握していたこともスムーズな授業運営に繋がった。自由記述回答でTOEICが良かったと数名学生からコメントがあったが、検定試験対策として多くの学生の就職活動の際必要になるであろうTOEICは、数回に渡って試験問題を解く練習もおこない、教科書とのバランスをうまくとることもできたと感じる。

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[B]  
13  
 授業コード 11A04-010  
 教員名 HERSCHLER, Brian  
 教員コード 100552  
 登録人数 22  
 回答数 16  
 回答率 72.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Once again, my intensive evaluation approach to conducting this OC English course meets with student approval. Students were basically happy with the class and its atmosphere and the tasks assigned and assessed. Students were kept on their toes. Over the course of four quarters, many students made significant progress in improving their listening and speaking skills, markedly some of the weaker students. Many gained confidence.

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[B]  
14  
 授業コード 11A04-011  
 教員名 VEGEL, Anton  
 教員コード 103503  
 登録人数 22  
 回答数 4  
 回答率 18.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) The goals for the start of this course were mainly to continue the development of learner reflection. This was done by having learners record, listen to, and identify aspects of their communicative performance.
- (2) Although the data is sparse, the lowest single score addresses providing encouragement and guidance in the learning process. This could suggest that slowing down the course or allotting more time for mediated practice before open production could be necessary. The lowest overall scored question addresses marked progress, which as written in past reflections is a common issue in language classes let alone classes focused on output.
- (3) To address these issues, I think especially continuing the transcription task for a full year may help address the issues related to marked progress. Learners will have more evidence through reflection to further understand their progress. Additionally the potential necessity of slowing the course down or providing additional motivational factors and guidance will be open for adaptation in the course.

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVオーラルコミュニケーション[B 17
授業コード	11A04-014
教員名	FOX, Aaron
教員コード	103869
登録人数	21
回答数	2
回答率	9.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

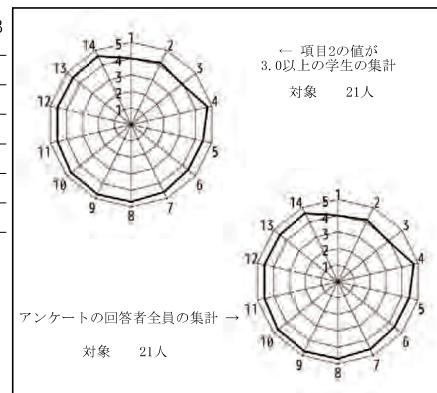
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were in line with those as laid out in detail in the FLEC-EED handbook for Communication skills in English V-I [E]. They were achieved. The reading goals was quite satisfactory and that based on the outcomes of the test scores and application of the skills covered. For the next quarter, my primary goal is it increases the progress toward the speaking goals as stated in the FLEC-EED handbook. I will incorporate more discussion oriented activities alongside the reading skills and practice. In this past quarter, I divided both skills into discrete classes focused solely on either reading or speaking.

2019年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVオーラルコミュニケーション[B 18
授業コード	11A04-015
教員名	LENIHAN John
教員コード	045070
登録人数	22
回答数	21
回答率	95.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

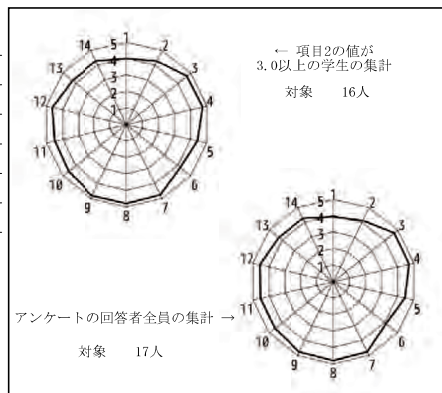
The basic goals of the class were to improve communication skills - listening and speaking. We used a National Geographic textbook with topics the students found interesting and informative. The text was supplemented with many original materials and short plays for listening comprehension and speaking practice. Generally, the results of the evaluation were positive and encouraging. The students who participated the most and appreciated the variety of activities showed the most progress.

The chart implies that some students were more serious and studied more than others. The students themselves contributed to the listening exercises. Their ideas were interesting and original. The group projects were especially creative and well done. I believe the students succeeded in improving their listening levels and learned many interesting ways to further improve at home, alone or with listening partners.

Overall, the class was a joy to teach as the large majority seemed genuinely interested. Their feedback in the final reports concerning their first year at Nanzan emphasize the importance that socialization plays in the language classes. That is to say, the students have many, many more opportunities to meet other students and become friends in the language classes than others. This is a big reason why they always enjoy this class so much. I will continue in the future to try to think of interesting ways that they can learn more about each other while improving their English communication skills.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[B]  
110  
授業コード 11A04-017  
教員名 BINFORD, Paul  
教員コード 046037  
登録人数 22  
回答数 17  
回答率 77.3%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

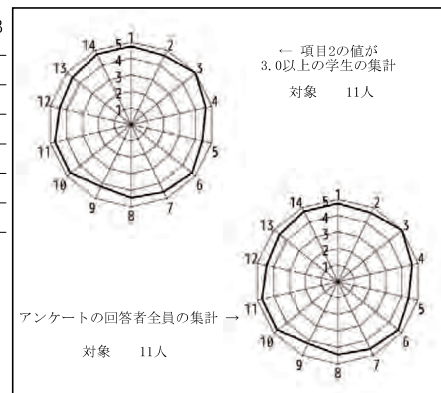


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The emphasis in quarter four was pair practice and content lessons. From the radar chart it seems that the understanding of the students was not too bad. In the third and fourth quarters of the Oral Communication class we had a different curriculum from the first and second quarters. In the spring we used basic conversation textbooks that gave the students useful ways to start and continue a conversation on common topics. In the fourth quarter, using different topics, the students got more practical and structured strategies. By observing the students on a twice-weekly basis, I think they could have used a bit more basic instruction and I would also have to say that the students in this class are not exactly attentive. I addressed some of the problems in quarter four. I also made more effort to explain the goals and methods of the class in a clear and concise way. In general the difference between the student's communication skills at the beginning of the quarter and at the end of the quarter was noticeable, and I would say that the student evaluation reflects this improvement. We also had an excellent room and the video component was enhanced by the wide screen.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[B]  
112  
授業コード 11A04-019  
教員名 MEJCHAR Benny  
教員コード 100666  
登録人数 22  
回答数 11  
回答率 50.0%  
休講回数 1回  
補講回数 1回

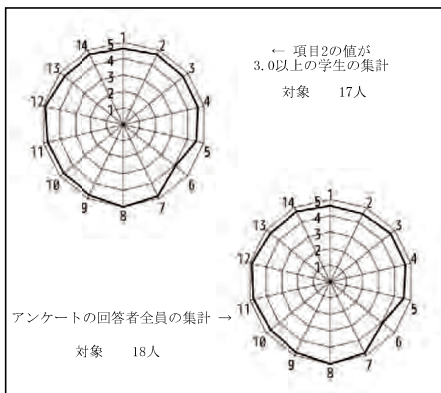


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The fourth quarter class assessment was satisfying. It was surprising because I felt that I was somewhat "losing the students". As this is a class that meets twice a week and continues for the year keeping the student's interest is a challenge. Thus this instructor was quite surprised. Until the writing of this assessment I had always focused on comparing my scores with the Language major teachers assessments. Then, I dawned on me that this is probably a high bar as those classes are of the student's choice of major. On the other hand this instructor's students are not of the highest level compared to other non-major English OC students. So, to have high scores was satisfying, even receiving a 5.0. The question pertaining to pacing of the class scored the highest. That should not come as a surprise as the group has now been together for some time. "We have gotten to know each other and the class system". With the relatively good assessment in general in mind, I think that an area of improvement could from being more strict in all areas but particularly in demands in class in oral communication work, as well with the student's on going notebook. If I have a chance to teach an OC class in the future I will focus and getting troublesome grammar problems improved. As this a trouble area for all OC students I have taught to date. We will use targeted copied grammar textbook material and apply it to both oral communication skills and to some degree to writing. Finally I must say thanks to the students for working well together for a year, and making significant progress, and for giving me much as well.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[G]  
 15  
 授業コード 11A04-036  
 教員名 DAVANZO, Christopher  
 教員コード 101653  
 登録人数 19  
 回答数 18  
 回答率 94.7%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回

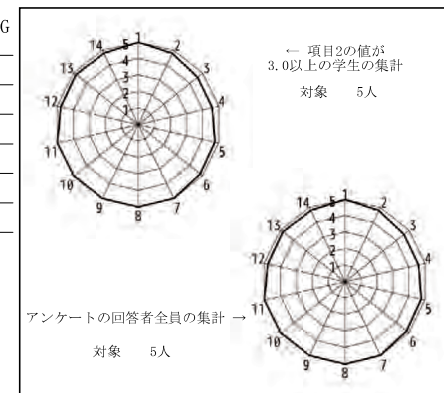


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, I was very pleased with the results. The students overwhelmingly approved of the class content and the teacher's methods, and felt they had achieved the class goals. This quarter's focus was on debates and we did a lot of activities concerning how to share opinions on various topics, how to agree and disagree, and how to research a given topic as to support points in a debate with statistics, examples, or other details. In the future, I think having students record and analyze a practice debate would be very helpful towards their progress.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[G]  
 17  
 授業コード 11A04-038  
 教員名 CAPITIN-PRINCIPE, Abigail  
 教員コード 102955  
 登録人数 19  
 回答数 5  
 回答率 26.3%  
 休講回数 1回  
 補講回数 1回

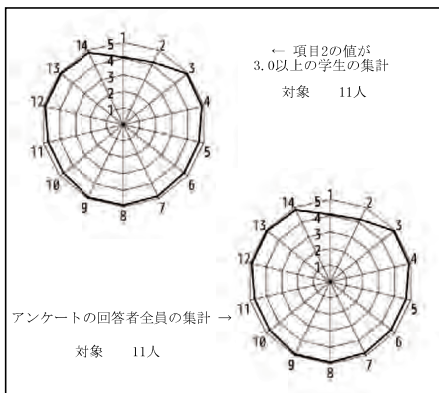


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class went well, based on the class goals set at the beginning of the semester. The activities were geared towards encouraging students to speak and communicate using the English language. There were speaking, reading and listening activities, but the focus was on Oral Communication. Activities such as class discussions, presentation and debates were done, to engage students' communication skills. The students participated in the class activities and most of them seem to enjoy using English in the classroom. It is encouraged that students go beyond classroom learning and attempt to use English in their daily life, and as such, self-study activities were given, in which the students can use English, even outside the classroom environment.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオールラルコミュニケーション<  
再>1  
授業コード 11A04-040  
教員名 ADRIANOWICZ, Zbigniew  
教員コード 103868  
登録人数 17  
回答数 11  
回答率 64.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①The goals set at the start of the course and the extent to which they were achieved. ②An overall self-assessment and self-evaluation of the subject you are in charge of based upon the numerical data and the comments etc. The goal of the course was to improve the students' communication abilities. One of the challenges of the "Repeaters" course is the variety of students. They have different English communication levels and various types of motivation. The difficulty with this class is to offer activities which will be appropriate to those different levels, and if possible, create an interesting and motivating material. It is my impression and the result of informal class feedback that through various activities, both individual and group, the abilities of the students who took classes regularly improved, and the class gave them certain stimulation and motivation. The students showed various degrees of motivation during their individual presentations. However, group activities, such as debate, went on a much higher level than I personally had expected. The students were able to stimulate each other, and the debates themselves were on a relatively high level. My attempts to reach individual students and try to understand their academic and personal situations seemed to have resulted in a clear increase in their class interest and participation. That required certain adjustments from my side and certain amount of tolerance, however, those effort seem to have paid off, since I could see clear results. I am very glad to have had this experience, and I hope the students also benefited, both academically and personally.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオールラルコミュニケーション[B  
]13  
授業コード 11A04-041  
教員名 佐藤 ゆかり  
教員コード 047605  
登録人数 18  
回答数 4  
回答率 22.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

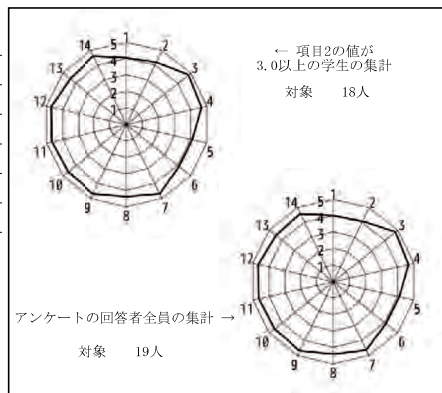
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①プレゼンテーションをテーマとしてQ3とQ4の2期連続で、取り組んでした。基本的なプレゼンのデリバリースキルと、内容面のスキルとを、段階的に抑えながら、2クォーター11回にわたって、クラスメートの前で発表させた。その中で、学生も、指導者も明確に実感できるほどの、個々の学生のスキルの伸長が認められた。講座の目標は、達成できたと思っている。②アンケートに答えた学生が18人中、わずか4人しかいなかったことに非常に驚いている。授業中にその時間をもうけ、学生たちもスマホを操作していたので、回答しているかと思っていただけに、驚きだ。これで、だめならどうすればいいのか頭が痛い。なので、数的な学生のフィードバックは読めないが、感触としては、大変クラスの雰囲気はオープンで良好だった。プレゼン重視のクラスだけに、クラスメートの前で何度も話、失敗と成功を繰り返す中で、よいクラスカルチャーが出来上がったと思っている。③来期は、まずは、アンケートに答えてもらうこと。授業シラバスの方向性はうまくいったので、来期もこれは踏襲するつもりです。来期は、担当学生レベルが上がるので、それに合わせて内容を微調整するのが課題だと思っている。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]3  
 授業コード 11A08-010  
 教員名 NICKSICK, Thomas  
 教員コード 102113  
 登録人数 22  
 回答数 19  
 回答率 86.4%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

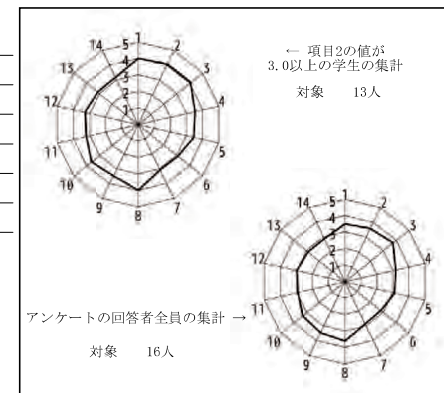
The purpose of this class is to improve students' reading and writing skills. Students will learn various reading strategies to improve reading proficiency. Activities include extensive and intensive reading tasks. Students will also learn how to write clearly and effectively. To accomplish this, students will develop skills in planning, organizing, and developing ideas.

The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the classes were structured in an appropriate manner and delivered at an appropriate pace, the rating was 4.68. When asked if the instructor displayed sincerity and determination in teaching the course, the rating was 4.63. When asked if the instructor took into account the degree of understanding of the students, the rating was 4.68. Regarding enough opportunities for questions or to consult the instructor, the rating was 4.68.

However, the instructor must improve other aspects of the class. When asked if the students acquired new knowledge and deepened their understanding through the course, the rating was 4.47. Regarding students making solid progress towards achieving the course attainment target, the rating was 4.11.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]5  
 授業コード 11A08-012  
 教員名 HAYES, Mary  
 教員コード 103625  
 登録人数 22  
 回答数 16  
 回答率 72.7%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

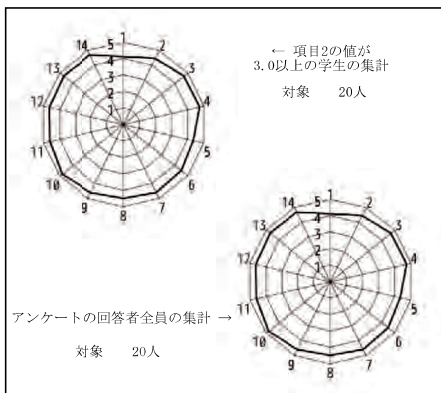
1. The goals of this English Literacy course were twofold: to improve reading proficiency and to write clearly and effectively for a variety of tasks. The progress of the class was steady over the first three quarters, and all students reached the required number of words in the Extensive Reading section by the end of Q4, and most completed the vocabulary quizzes and in-class reading texts successfully. Progress in writing was more impressive, and all students learned to write a variety of essays and papers. All completed the final task, submitting a writing portfolio, including a multi-paragraph research essay composed over a number of weeks, a business letter and a self-reflection.

2. The evaluations of the course were somewhat lower than I expected. Only 14 members took the time to complete the questionnaire, and the numerical data fails to show satisfaction with the actual progress made by the members of this class throughout the academic year. By Q4, the class had become somewhat apathetic, and despite the enthusiasm, earnest hard work and cooperative atmosphere of the class in the earlier quarters, the class unfortunately ended on a bit of a down note.

3. In future classes, I aim to spend more time giving positive feedback to the individual class members, providing written comments on their writing and consulting them on their academic progress. I would also encourage them to give me more feedback on how they feel about the course contents and to negotiate about the goals and course work in order to end the course with a more satisfactory outcome for all concerned.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]8  
 授業コード 11A08-015  
 教員名 JONES William M.  
 教員コード 100263  
 登録人数 22  
 回答数 20  
 回答率 90.9%  
 休講回数 1回  
 補講回数 1回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Instructor is not at all disappointed with the results. After 4 quarters and ninety plus hours of writing and reading instruction (final exams are additional time and excluded from the ninety hours), the spider graph was encouraging considering that the students, although in the same major and assigned to the same level, had significant variations in abilities and aptitudes, and also motivational levels and attitudes. The students writing progress has been simply spectacular compared to Q1. Much more importantly than the students' academic improvement, is their character and personality development in line with the Nanzan motto of human dignity. Instructor is already working diligently to improve the course for next year and as always, the 1st year of anything is often experimentation through trial and error of different methods and techniques. In particular, the instructor sees little room for progress in writing development, so will now focus on students' reading ability and how to improve the implementation of the textbook so that it is more effective for all. Instructor is slightly concerned however if students are able to concentrate beyond ninety minutes if changing into a one hundred minute course. As is, ninety minutes is challenging for many students and hopefully, with experimentation in 2020 in preparation for 2021 proposed changes, the instructor will be able to successfully transition into new lessons with the additional 11.1111% (repeating as unable to enter the mathematical vinculum notation) required time.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]9  
 授業コード 11A08-016  
 教員名 BONDOC, Jeffrey  
 教員コード 103469  
 登録人数 22  
 回答数 4  
 回答率 18.2%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

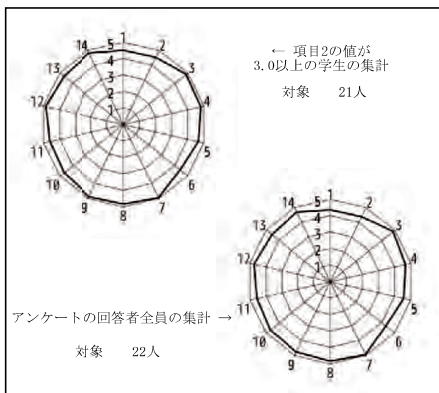
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals for the semester went well. The students reading comprehension improved. The students were able to search for specific information, understand the gist of a passage, and infer information. The also were able to understand the vocabulary and understand synonyms and antonyms. The intensive reading component needed focus. Students struggled to remember the story to accurately answer the comprehension questions. For the writing component students were able to plan well their writing. They were able to draft their work and organize their reports according to the genre we were focusing on. The students were able to express their ideas well, however, more critical thinking is needed. I would have liked the students to think deeper than the surface level. The students tried very hard. They enjoyed to class and the classroom environment. The students got along well with each other and interacted very well together. We also had good rapport and were receptive to instruction and feedback.



2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]11  
授業コード 11A08-018  
教員名 山田 秀子  
教員コード 103595  
登録人数 22  
回答数 22  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

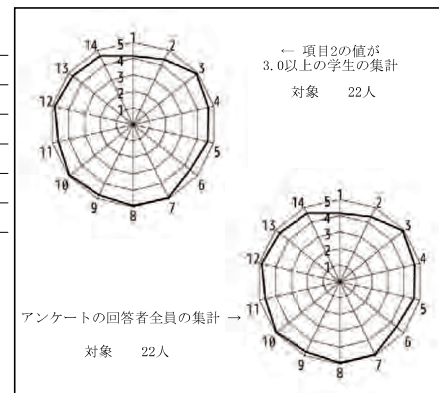


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと思う。予定していた学習内容・範囲の9割以上を終えることができた。  
アンケートのほとんどの項目で平均値が比較的高かったが、自分に力がついてきていると思うかを問う項目6の平均値が最も低かった。この授業は4期連続の科目であり、第1クォーター当初と比べて特に学生のライティング力は着実に伸びが見られた。それに合わせて課題のレベルを徐々に高めたので、自身の成長に気づきにくい学生もいたと考えられる。次に平均値が低かったのは、予習や復習を含めて主体的に受講できたかどうかを問う項目2であった。この授業では、個々に取り組む時間を取りつつグループ単位で協同学習を行う時間を多く設けているが、積極的に話して学び合いができていないグループとそうでないグループがあった。課題の内容や提示の仕方に改善が必要であると考え。また、スマートフォンで授業と無関係のことをする学生も時々見受けられた。その都度注意はしたが、完全に改善するところまでは至らなかった。  
今後の課題としては、上記の他に多読活動の取り組みが挙げられる。今学期は目標ワード数が増え、達成できた学生は7割程度であった。ただ、達成した学生の中にも一時期に集中して読んだり、レベルが高い作品でワード数を稼いだりするケースが見受けられた。多読の本来の目的や注意点を確認させて、取り組み方の改善を図りたい。

2019年度 Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]12  
授業コード 11A08-019  
教員名 平出 優子  
教員コード 102521  
登録人数 22  
回答数 22  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

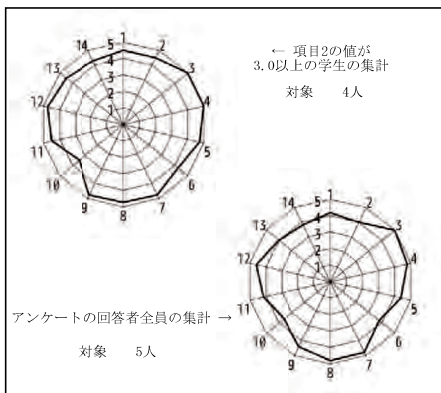


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q4におけるWritingの目標は、250語以上のNarrative ParagraphとOpinion Paragraphが書けるようになることであった。また、各プロジェクトは首尾一貫した5 paragraphsで作成することを課題の条件とした。Q3より語数が50語増えたこととパラグラフが5つに増えたことで苦戦した学生も若干いたが、最終的には全学生が基準をクリアした作品を提出したので、学生は目標に到達できたと思う。また、Q4におけるReadingの目標は、流暢に英文を読むことが出来るようになること、様々な読解方略を効果的に使って読むことが出来るようになること、テキストの構造をとらえながら論理的に読み進めるcritical readingの力をつけること、読解を支える文法・語彙力をつけること、であった。データの数値が全般的に高い数値であり自由回答でも高評価を沢山得られていることから、学生は授業の内容を十分に理解しており、この授業の掲げた目標に到達していると考えられる。次年度も様々なトピックを提供し、WritingとReadingの能力向上に向けて努めたいと考える。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]10  
 授業コード 11A08-029  
 教員名 MOORE, Douglas  
 教員コード 100954  
 登録人数 20  
 回答数 5  
 回答率 25.0%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回

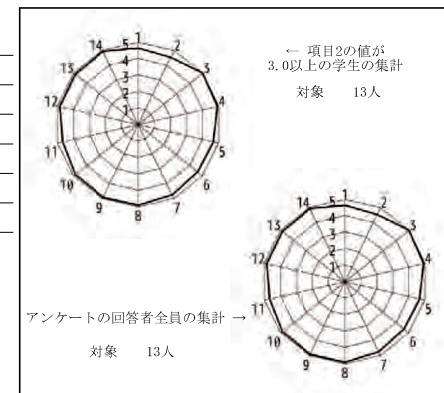


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall the goals of the class were met and the students spent a good amount of time both reading and writing during the course. As topics were closely linked I feel that the students were better able to use their shared knowledge on both sides of the course. The subject is a good mix overall but I do feel it would be more focused if one quarter were reading and then the next writing, instead of spreading both out on different days during the week. For the next semester, reading outside of the textbook will be enhanced and students final example will not be the book, but will be additional reading.. This should provide a better testing environment.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]11  
 授業コード 11A08-030  
 教員名 鈴木 愛  
 教員コード 103596  
 登録人数 20  
 回答数 13  
 回答率 65.0%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

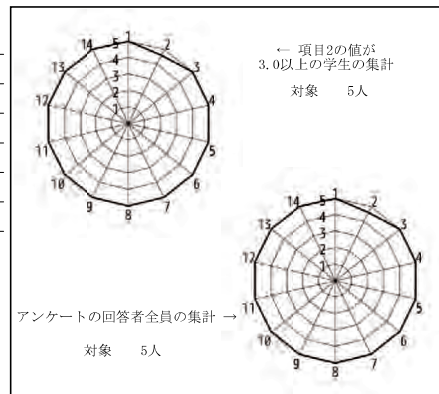
Regarding the achievement of goals set at the beginning of the quarter, I believe students have achieved most of the goals set. For writing, students were able to write another multi-paragraph essay successfully to the extent which they had to include an effective thesis and topic sentences. As for the writing, they were able to read some amount of reading in the limited time and answer questions accurately within that time period.

Reflecting on the course evaluation of the students, I can evaluate the course to high scores. It seems the students have learned quite a lot from the class especially on the writing. They evaluated that the writing conference was very helpful with one on one guidance.

As for the improvements for the next academic year, I have a couple of things I would change. First, I would like to implement extended reading component so that students get a chance to read more on their interests. Also, I would like to change how I proceed in reading. I would like to focus more on “reading the main idea” so that students can reflect more of the main idea in their own writing.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]1  
授業コード 11A08-032  
教員名 MORRISH, Jaime  
教員コード 103479  
登録人数 11  
回答数 5  
回答率 45.5%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

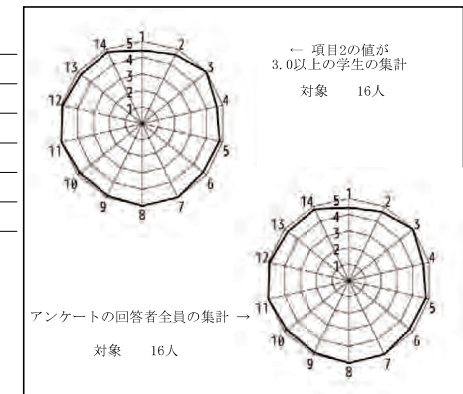


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course objectives were completed by all but one of the students. The students' attendance was acceptable with only one student missing more than 5 classes, and only one student missing 3. The overall motivation and attitude was mostly ok. I aim to give the students as many opportunities as possible to produce English, whether it be speaking or writing, the students seemed to appreciate it this. The students appear very happy and engaged with the class, especially with the changing of seats every class and my warmup activities this contributed to keeping the positive atmosphere. The students produced very good final essays, delivered an academic presentation and also produced an academic style poster within their groups on a research topic. Overall, this class was very enjoyable and rewarding to teach. I feel that by varying the in-class activities and changing partners and group members regularly contributed to a lively classroom atmosphere where students were not afraid to voice their opinions and ask questions. Also, by having multiple assessment methods meant that even if students were not so strong in one area then they had the opportunity to show their abilities in other areas.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]8  
授業コード 11A08-039  
教員名 水野 真紀  
教員コード 101981  
登録人数 19  
回答数 16  
回答率 84.2%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

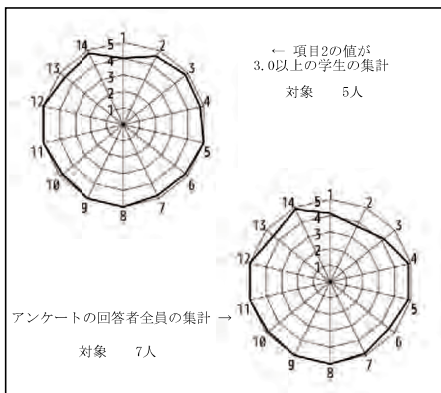


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 集大成と言えるアカデミックな文章を読み、それに対する意見を書くという目標は概ね達成できたと思う。余裕をもって期末課題に取り組めるよう学習計画を立てた。その結果、年度末の論述文の課題は、それなりのテーマ、構成、語彙、量を書くことができた。引用や文献リスト等を正確に書けることまではいかなかったがAPAスタイルの英文エッセイがある程度は身についたように思う。
- ② 数値データからも、学生が授業の目標を理解し、積極的に取り組んだことがうかがえる。自由記述でも、慣れないライティングで大変だったが、一生懸命に取り組んだ結果、力がついたという記述が多く見られた。授業についてもクラス全体だけでなく個別対応もあり、解説もわかりやすく、楽しく受けられたとある。しかし、主体的な取り組みと授業の進行度のスコアがわずかに低い。課題の多さを自由記述の改善点で指摘していることを合わせて考えると、進度の速さ、量の多さについていけない学生がいたことがうかがえる。理解の遅い学生への声掛けや補習を実施するなどもっと配慮が必要であった。
- ③ リーディングとライティングの授業をバランスよく計画、実施することは大変困難である。特にQ4は年末年始を挟んで期末課題に取り組む必要があるのので、長短期的目標を立てて効率的に進めていきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVリテラシー<再>1
授業コード	11A08-040
教員名	SWEETLOVE, Douglas
教員コード	102522
登録人数	10
回答数	7
回答率	70.0%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1/Goals

The goals of the course were largely achieved. I teach both the reading and twriting ends of the course, so can be flexible about time management and scheduling.

2/Assessment

At first, the results are great. However, think about couple of factors. First, students are given the same survey for every course. This makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out. and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.

3/Future

Nanzan could do some specific things to make teaching easier. First, open the AV cabinets in all classrooms. Many other schools have open systems and I have never heard of any trouble with the equipment being stolen or damaged. The system at Nanzan discourages teachers from using the technical resources that are available. Also, eliminate the time wasting "internet security" quiz when teachers need computer help. It is frustrating for teachers and an extra burden for the computer system staff.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVリテラシー[B]13
授業コード	11A08-041
教員名	島 禎子
教員コード	045559
登録人数	18
回答数	4
回答率	22.2%
休講回数	0回
補講回数	0回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

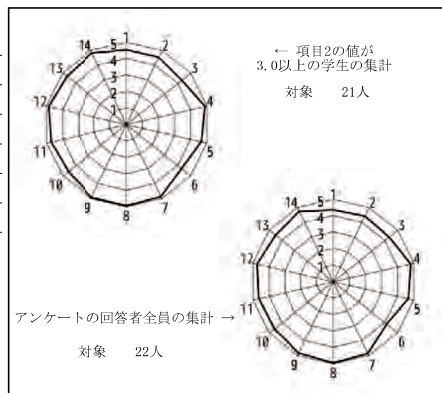
目標達成については、readingもwritingも半分程度であった。writingは300語程度のessayを2つ書くことを目指した。クラスの2/3はそれなりに理解し構成、文法面も整ったessayを書いたが、5-6名は構成は言うに及ばず、文レベルから中学校の復習をしなければならない程度のものを完成させるのがやっとだった。

このクラスは前回に引き続き、回答を得られたのはわずか4名だった。クラス全体の傾向として、欠席回数の上限まで休む、トイレを口実に授業を抜け出すを常習的に行う等、昨年までとはまったく違うクラスの傾向にかなり戸惑ったのも事実である。よい方向に戻すためにいろいろ試みたが、どれも残念ながら今回は不発に終わり、決定策を見出すことができなかった。

授業とはさまざまな個性を持った学生が一つのクラスという場に集まり、相互作用により化学反応を起こしてお互い切磋琢磨して高め合うなどよい方に行く場合もあるが、今回はマイナスの方向に作用してしまったようだ。2020年度は特にreadingの授業をこちらが一方向的に教える方法ではなく、グループワーク、グループ発表を中心に授業を一新し、学生一人ひとりが自主的に授業に参加する雰囲気づくりから始め、学生の失われた自信を取り戻させることに主眼を置こう。そうすることが、今年浮き彫りになった問題解決の一年遅れの解決につながると思う。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[H  
A, HP, HJ]10  
授業コード 11A12-002  
教員名 高野 洋子  
教員コード 104147  
登録人数 22  
回答数 22  
回答率 100.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

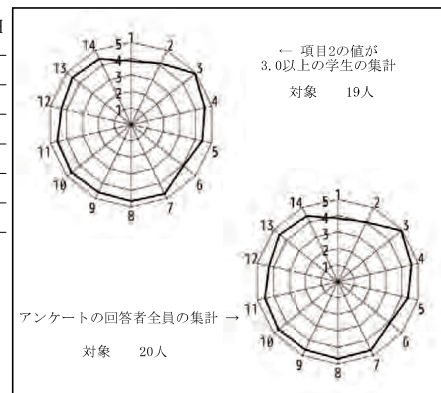


授業評価結果を踏まえた点検・評価

4期には読解力、速読力がついていたので授業では理解度を大事にすると同時に速度をあげる工夫をするよう、指導した。毎回読解速度を記録しているので学生は前向きに読解活動をした。特に読解したあと、ペアで意見を英語で話す活動に、力をいれたので、批判的思考を常に行うようになった。読解問題の回答率は高くなり、自信がついたようである。また、ORAL PRESENTATIONに躊躇することなく、意見を英語でつたえる、身振り、アイコンタクト、声のトーン、笑顔をみせることができた。これは4月の当初と比べると向上した点である。能力がつくと、堂々と話せるようになった。多読活動は最後のおいこみで全員目標の40冊を読めた。クラスではBOOK TALKを行い、英語を使用する時間を確保した。多読活動を通じて、継続の大切さを学んだ。クラスではPOSITIVEに発言、クラスメートをサポートすることに意義を感じ、積極的に発言する生徒が増えた。生徒のコメントにあるように、意見を英語で述べると達成感がふえていった。この方針を糧に来年度も指導していきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[H  
A, HP, HJ]13  
授業コード 11A12-005  
教員名 今川 奈美  
教員コード 104146  
登録人数 22  
回答数 20  
回答率 90.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

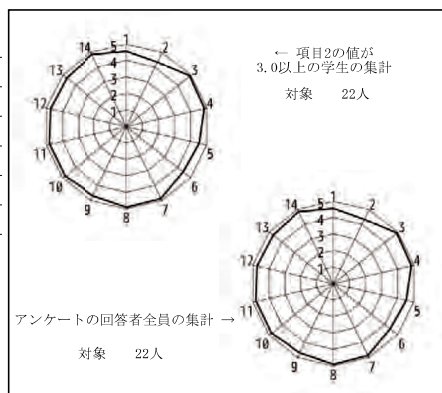


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①英語でのスピーキングに恐怖心を抱いていたり、慣れていない学生たちに、少しでも英語を楽しんで話せるようになってもらうというのがひとつの大きな目標であり、その目標が達成できたと思う。多数の生徒から、この授業を通して英語のスピーキングに慣れ親しむことができたという内容のコメントがあった。リーディングについても、多読を通して、大量の英語を読む習慣が付き、以前に比べて読むスピードを上げることができた。一方で、正確な文法理解と文法の使用については、まだ課題が残る。
- ②科目の平均値を上回ることはできなかったが、平均値に近い点をとることができた。当大学では一年目だったが、自分なりに生徒のニーズを把握して、丁寧に対応できたと思う。
- ③ペアワークやグループワークに対して、大半の学生からは高評価だったが、一部の学生にとってはそのような教授スタイルが苦痛に感じることもわかり、そういう学生に対してどのようにケアをしていくのかが課題である。また、ケータイが鳴った時にはしっかりと注意をするなど、規律に関してはもっと厳しくする必要があると感じた。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[H  
A, HP, HJ]6  
授業コード 11A12-011  
教員名 SCRUGGS, Edward  
教員コード 101864  
登録人数 23  
回答数 22  
回答率 95.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

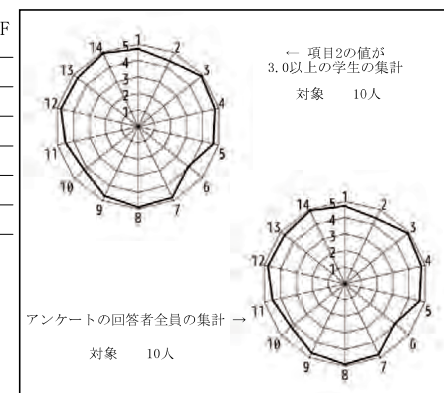
First of all, I want to sincerely thank my students for such a kind and positive evaluation. I certainly am appreciative of their comments, and find them to be insightful and of value to bettering my work in the future.

The students seem to have been very satisfied with course. The area that seems to be in the least bit weak is that of maintaining interest in the material presented to the upper level students. While this class is basically streamed very well, I do note some differences in skill levels that might make repetition non-essential for the more advanced students. I am planning on adding more possibilities for auxillary exercises in the coming classes as well as using more peer tutoring to allow the advanced students to practice their skills and increase their depth of understanding.

This was indeed a very satisfying class to teach and I wish my students all the best in their future endeavors.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[F  
A, FF, FS, FG]10  
授業コード 11A12-016  
教員名 SIMMONDS Brent  
教員コード 103050  
登録人数 17  
回答数 10  
回答率 58.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was generally pleased with the results of the questionnaire but will continue to strive to improve my approach and teaching methods. One area that needs to be addressed is being more specific about the consequences of students being late or not completing the assignments.

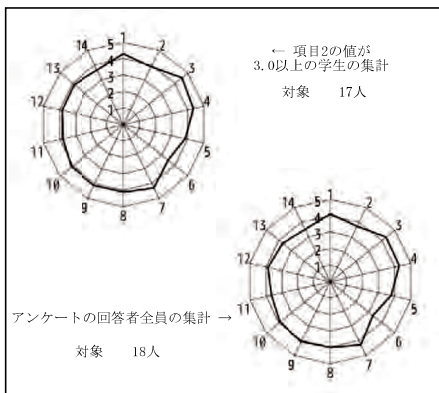
The students seemed to enjoy all activities and there was a good balance of the four skills. The Teacher development session and the Nanzan seminar offered several activities that can be utilized in the classroom.

The class reading activity went well, students could develop their vocabulary acquisition and language ability. During this quarter I would like to build on the previous years work and explore ways to connect context to the students majors. ¥

The students enjoyed a variety of presentations and learning a little about global issues but I need to provide more material in this area. Exploring internet resources and looking at material from the Sustainable Development Goals (SDGs) will improve content. The internet age presents material that can be related to the students lives. I am looking forward to the new students who will arrive in April and will encourage them to input ideas into the new course.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[F  
A, FF, FS, FG]9  
授業コード 11A12-024  
教員名 DRYDEN, Laurence  
教員コード 101482  
登録人数 18  
回答数 18  
回答率 100.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Students' responses in the Q4 were respectably positive, averaging 3.90 in both statistical categories, a modest improvement over Q3. As the Q4 anketo suggests, the students felt they made progress and showed increased motivation.

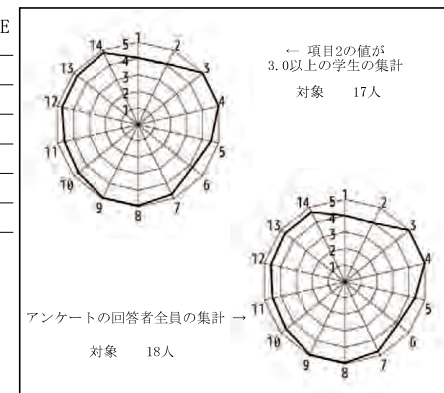
These improvements may be attributed to the instructor's efforts in Q4 to provide more opportunities for students to speak with several different partners during class, made possible through a fifteen-page activity guide which the instructor wrote to supplement the course textbooks and which will be updated for use next year.

Moreover, in their written comments for Q4, students expressed their appreciation of readings and films that highlighted the cultural and religious holidays which occurred during this quarter. Students seemed interested to learn about cultural issues as an extension of their studies in English.

In addition, students collaborated with their fellow language majors in order to share with the rest of the class the relations between selected English words and comparable words in the languages of their major departments. In this way students gained an understanding of the common roots of English and other Indo-European languages.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[E  
]3  
授業コード 11A12-027  
教員名 伊藤 実里  
教員コード 045542  
登録人数 20  
回答数 18  
回答率 90.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



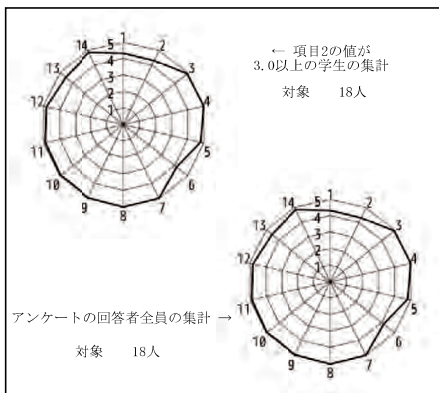
授業評価結果を踏まえた点検・評価

リーディングのトピックとして現実社会で賛否両論あるものを取りあげた教科書を使用した。内容については、知らなかったことを知った、改めて関心を持ったという感想がいくつか見られてよかった。クォーターが進むにつれ、教科書の内容を補う記事、写真、データ、動画などを提供することを心がけた。クラス全体とはいかなかったが、少なくともペアでは話し合いの機会もとれたと思う。ただ、自分のこととして話しやすい、日本社会でのトピック中心だったので、これらの追加資料は日本語のものが多かったことが反省点である。

コミュニケーションのトレーニングとしては、実際の日常会話で典型的に使われ、誰とのどんな会話にも応用することのできる基本的な英語表現の習得を目標としている。会話テストを始め、ペアで話すときに使うだけでなく、ワールドプラザに行って実際に使ってみる、使われているのを聞くという課題も積極的に楽しんだ人たちがいた様子だった。大学が提供している機会や施設は今後とも利用していきたい。工夫が必要と思われるのは、引っ込み思案でおとなしい人たちの参加である。こちらが指定して毎回さまざまな人とペアで話したり、順番にプレゼンテーションをすることはできても、自分でワールドプラザに行き、そこにいる人たちと会話をするのを避けたと思われる人がいたので、選択肢のある課題が必要かもしれないと思う。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[E]  
15  
授業コード 11A12-029  
教員名 LANGER Daniel  
教員コード 101438  
登録人数 20  
回答数 18  
回答率 90.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

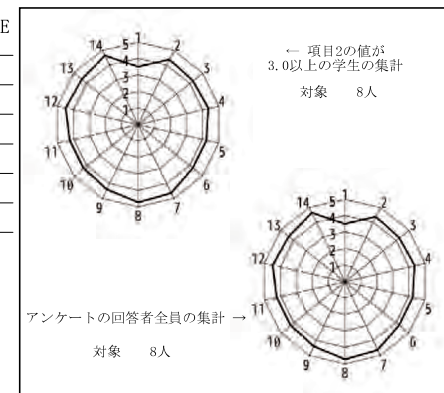
I think the goals of the course were met, or at least attempted. It helped that I had very simple objectives, and thus I did not give myself much opportunity to confuse the students with poor guidance.

The evaluations were very generous, and I am glad we ended the year on a positive note. There were a few written comments, all positive, and all of a personal nature. I would like to think that the lack of commentary on the curriculum means there were no serious problems with class content, but this may be wishful thinking.

I would like to have the students do more reading outside of class, but I must admit I did not prod them as much as I could have. Next year I may increase the volume of reading assignments, and take steps to more strongly encourage the use of online quizzes.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[E]  
19  
授業コード 11A12-033  
教員名 NIXON, Richard Mark  
教員コード 103559  
登録人数 20  
回答数 8  
回答率 40.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



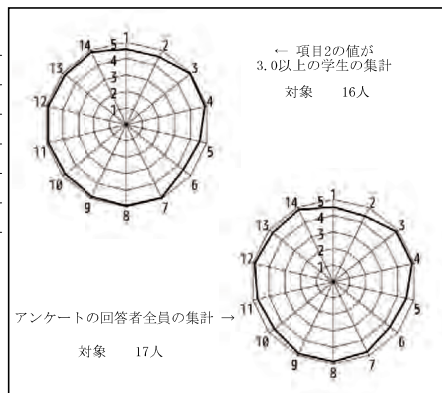
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that the goals of the course were largely accomplished. However, the Category 1 mean score was still a little lower than I had hoped for which suggests that I need to assign out-of-class activities that better hold the students' interest and in turn have a positive impact on their eagerness to learn prior to each class meeting. Next semester I plan to incorporate more technology into my lessons in order to capitalize on students' desire to learn English, with interaction via the internet being my highest ambition. For example, using video technology to allow students to make presentations will be one of the tech changes I will make. Also, I hope to revise my testing method in order to make the grading of tests a quick process so that students can receive feedback on their work in a timely manner.



2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[E]  
111  
授業コード 11A12-035  
教員名 大竹 万里  
教員コード 047084  
登録人数 18  
回答数 17  
回答率 94.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



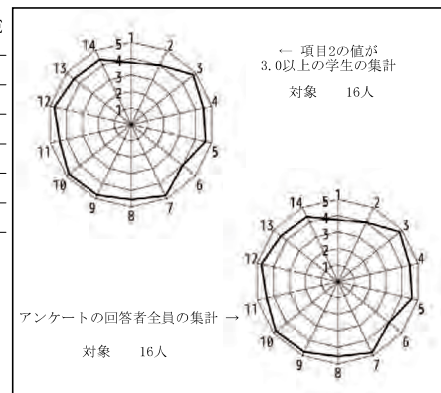
授業評価結果を踏まえた点検・評価

火曜日の授業では、イントネーションの練習、会話、インタビュー、モノローグを聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とし、ペア、またはグループで発話練習をした。また、金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、テキストに沿って、内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。学習を記録する小冊子（Class Book）を配布し、図書館のグレーディッドリーダーを利用した多読を目的とする自主学習の記録、グループでディスカッション内容を記録することを課題とした。グループ発表の機会も設けた。到達目標はほぼ達成できたと思う。

授業評価の設問3から14の平均数値データが4.75、学生の授業に対する全体的な満足度については4.82であった。授業の良かった点、評価できる点として、「先生が優しい」、「学生のペースに合わせてくれた点」、「パワーが見やすく、説明がわかりやすい」であった。改善点の指摘はなかったが来年度も到達目標に向けて力がついてきていると学生が実感できるような授業を目指して、学生の積極的な課題取り組みを促す授業を心がけていきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[E]  
112  
授業コード 11A12-036  
教員名 内川 元  
教員コード 101922  
登録人数 18  
回答数 16  
回答率 88.9%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

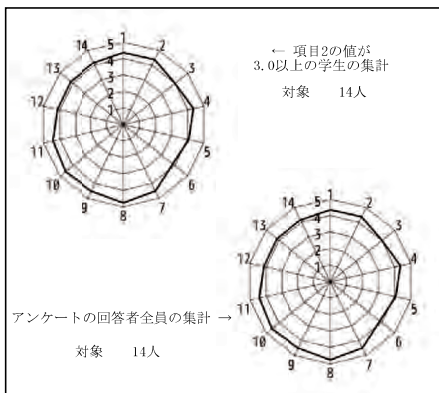
この授業はコミュニケーションをする上で欠かせない、聞く力と読む力をつけさせることに重点を置き、さらに日本人学習者の多くが持つ「英語を話すことへの壁」を壊すことを重要目標にして進めています。今学期は前学期の内容を基に幾つかの変更・改善を加えて授業を行いました。

今回評価を実施した授業は前学期に評価を実施した授業と同名・同内容の別クラスですが、3番以降の全ての設問の評価数値が上がっており、嬉しく思います。同じクラスではないため単純な比較はできませんが、同じクラスで行った前回の評価と比べても多くの設問で数値が上がっており、改善の成果が現れたものと捉えています。

自由記述欄では「眠くなる」、「毎回小テストがあって休めない」という2点が改善点として挙げられていました。後者はこれを変更することが改善になるとは思えませんので、対応は考えていませんが、前者は考慮したいと思います。それ以外は前向きなコメントばかりで安心しました。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J]  
12  
授業コード 11A12-041  
教員名 PALISADA Eloisa  
教員コード 055830  
登録人数 17  
回答数 14  
回答率 82.4%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

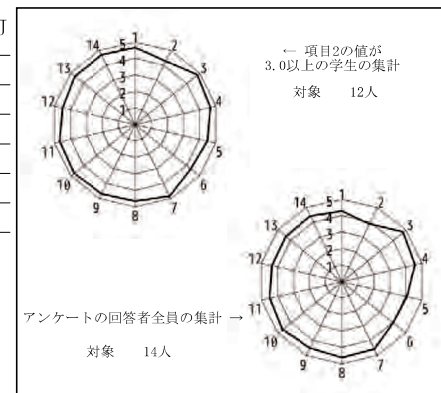


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aimed to develop the students' skills in communication and reading. Survey results showed students' initial interest in the course and being proactive in their participation (87%). The rate is high in class management (89%) where the instructor took proper action as to their behavior in class (91%) and the clearness of the teacher's voice (96%). Students rated themselves low in making progress toward achieving their own goals because of not fully understanding their targets. Thus, overall satisfaction is just average (83%). However, in their self-evaluation and reflection conducted in class, the majority of them expressed they have improved their speaking and reading skills. They have gained confidence in discussions and oral presentations. Some said they have started to think in English and avoided translation. Moreover, they have enjoyed reading books in English as well as writing and sharing their thoughts about what they have read. They have learned to opine in current issues. They have also enjoyed the special lessons and activities for Christmas and Halloween. A few suggested that topics for the final report be given enough time to prepare. Next time I must give consideration to students' pace and level in assigning tasks and encourage mutual feedback. It's been a rewarding learning and teaching experience with them, seeing their progress and confidence and their motivation to learn sustained.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J]  
14  
授業コード 11A12-043  
教員名 柴田 直哉  
教員コード 102751  
登録人数 18  
回答数 14  
回答率 77.8%  
休講回数 2回  
補講回数 2回

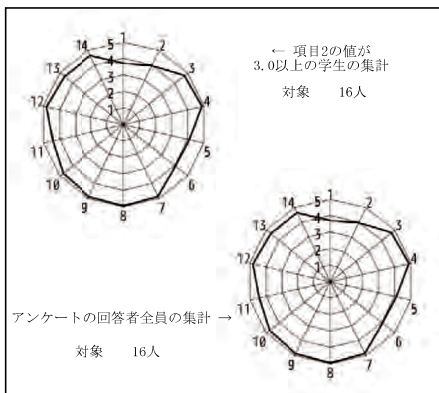


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目標である7分程度のディスカッション活動においてはトピックによって違いが顕著に表れていた。第4クォーター後半に行った動物実験やベジタリアンに関するディスカッションは6~7割程度の学生たちが7分程度の会話活動を英語で行うことができていたが、前半に行っていた人口問題に関しては3割程度の学生しか対応できていなかった。第1クォーター次に人口問題に関しては既にトピックとして扱ったことがあったため、期間が空いていたとはいえ、今結果は授業活動として前クォーターが行った授業効果の乏しさを感じる切っ掛けとなった。また、レポート課題に関しても大半の学生が動物実験に関して書いてきたことから今年度の学生に関しては動物実験の方が興味を持たせる内容であることが確認できた。以上のことから、次年度はトピック選択を学生自身のニーズや興味に合わせて行っていきたいと考えている。また、ライティング活動自体をあまり講義内で行うことができなかったため、次年度はライティング活動を増やしていきたい。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[S  
19  
授業コード 11A12-057  
教員名 ウエストビィ 三奈  
教員コード 102952  
登録人数 17  
回答数 16  
回答率 94.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、文法の基礎知識を伸ばし、英語の文章の読解力を高め、様々な問題点について自分の言葉で表現できることを目標とした。英語そのものに苦手意識を持つ学生が多い中、ライティングとスピーキングの両方で正確さと流暢さを追求し、ペアやグループでの活動を通して学びあいの意識を育て、学習意欲を上げることを試みた。

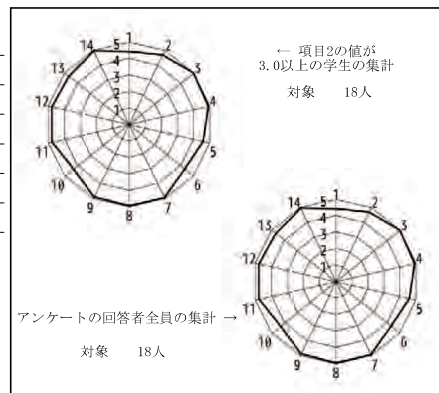
週二回の授業だったこともあり、学生同士や教員とも親しい関係を築くことができ、発言が多く活動しやすい雰囲気が築くことができた。

今期は、授業内で学習した6つの物語を使い、即効で新しい物語の創作をするという活動を取り入れた。結果、丸暗記ではなく、自分の言葉で自由に物語を語れるようになった学生が多かった。また、ERの活動を通してreading とspeakingの流暢さに改善が見られたように思う。

学生による授業評価の結果、おおむねは当初の授業目的を達成できたと感じるが、学生自身の授業参加において、自主的な学習に結び付いていない者も何人か見受けられるため、各学生の学習意欲がより上がるよう、さらなる授業内容の工夫、改善が必要だと感じる。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ<  
全>4  
授業コード 11A14-020  
教員名 LANDSBERRY, Lauren  
教員コード 103626  
登録人数 24  
回答数 18  
回答率 75.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This year my course has been designated to an open course that students of all grades and majors are able to take. Frankly, I think this has led to the level of the students increasing. In fact, compared to my previous years of teaching at Nanzan, I feel that the students have a much better attitude overall to learning English.

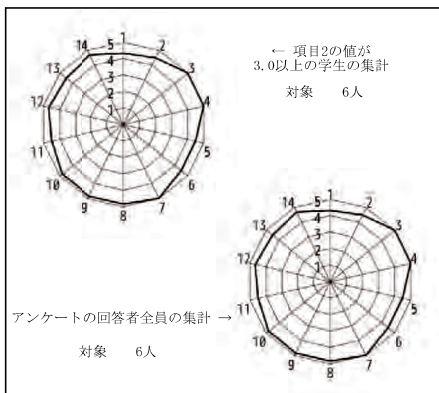
Whilst I previously had found having a larger classroom to be a distraction to the students, I have not felt this way this quarter. It has been nice to have the larger room and space for presentations, pair work and group activities.

I felt that all of the goals that were set at the beginning of the quarter were achieved in this class. I also felt that the students were motivated and interested in learning and improving their English.

I used some online activities with their smartphones to keep their motivation up. The students seemed to enjoy the class while using English and I hope that they found the course worthwhile. I look forward to another great year at Nanzan in 2020!.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ [S]2  
授業コード 11A16-002  
教員名 JARRELL, Douglas  
教員コード 104102  
登録人数 22  
回答数 6  
回答率 27.3%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

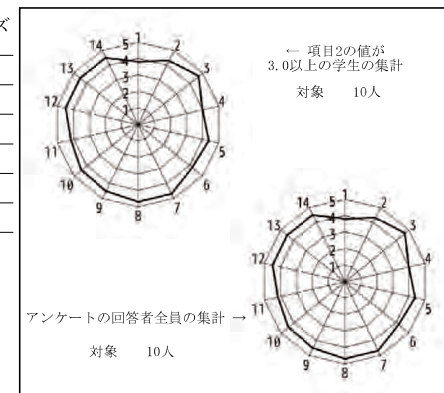


授業評価結果を踏まえた点検・評価

At the beginning of the quarter, the students were introduced to the Q4 syllabus, which was essentially the same as that for Q3. Students need to be able to read aloud with appropriate pronunciation and rhythm if they want to understand the spoken language as well as the written language. Students had to demonstrate their ability through regular in-class cloze tests and comprehension quizzes. The main speaking goal for the students was to maintain a discussion in pairs for 5 minutes. Solid preparation using a worksheet before the discussions gave them the English and background knowledge that allowed them to express their opinions and arguments with a minimum of hesitation. Student responses show that they are satisfied with the course and believe that their English is improving as a result. If I were to teach this class again, however, I would make stronger connections between the speaking and reading sections so that students can recycle more language across the skills.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ [S]11  
授業コード 11A16-013  
教員名 加藤 普由子  
教員コード 101654  
登録人数 21  
回答数 10  
回答率 47.6%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

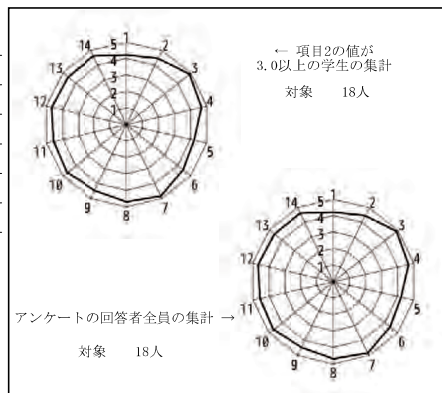


授業評価結果を踏まえた点検・評価

回答数が10であり、約1/2の意見が反映された評価である。Q1からの1年間を通して、賑やかなクラスであった。Q2の授業評価へのコメントにも述べたが、それが過剰になりすぎる場合が頻繁にあり、授業が予定通りに進まない事態を引き起こしていた。Q2の段階で、一部の学生から改善を求める声があったが、その後も対応が空回りして、結果的にシラバスに記載した予定内容が終了できなかった。反省の他はない。回答者の自由記述にあるが（項目15と16）、「私語」「授業を聞かない」「考えない」「学生の雰囲気がよくない」などの事態への対応が甘過ぎ、「面白い内容」「授業自体は好き」をクラス全体に広げられなかったことは今後への課題である。このような状況での授業評価であったので、到達目標への達成感（項目6）、新しい知識やスキルの獲得や理解（項目13）、全体への満足度（項目14）の平均値が予想以上に高く、正直驚きである。また、履修前の授業への興味（項目1）の平均値が低いのにに対して（本授業は通年であるので、この回答はQ1開始前の気持ちではないか）、Q4での自身の受講姿勢（項目2）、到達目標理解（項目5）の平均値が高い。主体的に参加し、内容理解に努めたとの自己評価であろう。学生の意欲、主体性は習得と深く関係していると実感する。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<HA, HP, HJ>1  
 授業コード 11A18-001  
 教員名 VIADO Cora  
 教員コード 100553  
 登録人数 23  
 回答数 18  
 回答率 78.3%  
 休講回数 1回  
 補講回数 1回

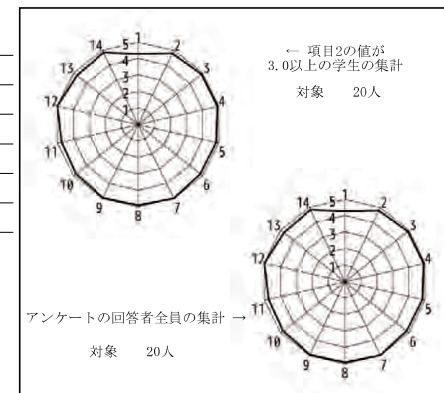


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class was delivered using practical and collaborative teaching styles. Students learned how to write clearly and effectively for a variety of writing tasks such as letters, short paragraphs. They developed skills in planning, organizing, and developing ideas, recognizing their audience, formatting a paper, typing, and combining sentences. Pre-writing techniques such as lists, mind maps, and free writing helped students organize their ideas. The overall positive responses of the students' evaluation indicate the students' satisfaction with the content and dynamics used in the class. Students showed contentment with the time and classroom management strategies used. The students' comments also showed an appreciation for the opportunity given for discussion with other classmates, the teacher's manner of relating to students and the guidance provided in revising one's work, as well as the opportunity given to edit one's essay a couple of times. Some aspects for improvement include giving a clearer explanation of classroom policies and more detailed instructions regarding work requirements. There is also a need to ask for students' feedback on a regular basis.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<HA, HP, HJ>2  
 授業コード 11A18-002  
 教員名 酒井 美納江  
 教員コード 046060  
 登録人数 23  
 回答数 20  
 回答率 87.0%  
 休講回数 0回  
 補講回数 0回

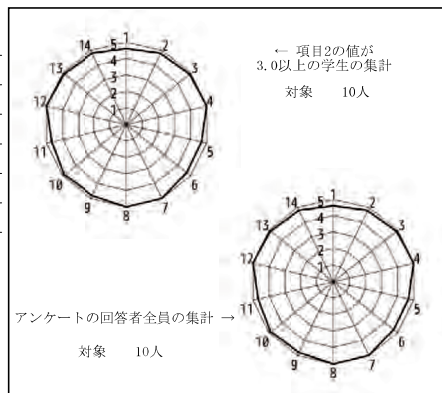


授業評価結果を踏まえた点検・評価

パラグラフライティングの練習で正確で説得力のある文章を書く力を養いつつ、フリーライティングで自分の考えや気持ちを止まらず英語で表現する力をつけるよう目指した。パラグラフライティングでは、教員の添削のもと、内容の見直しや英語の間違った修正をして一つの作品を整えていくプロセスライティングの作業を通し、多少なりともアカデミックな英語の文章を仕上げていく達成感を感じてもらえたのではないかと思います。また、個別の作業が中心になりがちな授業内容なので、おりを見て学生同士が相互にやり取りできる課題やアクティビティーを取り入れて工夫したつもりだ。自由記述でのコメントを見る限りでは、それらの工夫を肯定的に受け止めてもらっていたようだ。しかし、このような相互のやり取りの活動について、アンケートの改善点の項目に指摘があった。ペアでお互いの作品のレビューを書く作業で、若干名の学生が課題を期日までに仕上げられず、仕上がった作品がないとペアワークが成立しないので、他の学生が別の課題をしている間に、当該の学生たちに作品の仕上げをさせたことについて、不公平な扱いだと言われていた。ペアワークの効果を出来るだけ高めたいとの思いで行った対応だったのだが、課題を期日通りに行った学生への配慮が足りず反省している。この指摘も含めて、課題に取り掛かる前の早い段階で評価の基準や項目を明示する必要があると強く感じている。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<J>2  
 授業コード 11A18-006  
 教員名 木田 パルビン  
 教員コード 102322  
 登録人数 16  
 回答数 10  
 回答率 62.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

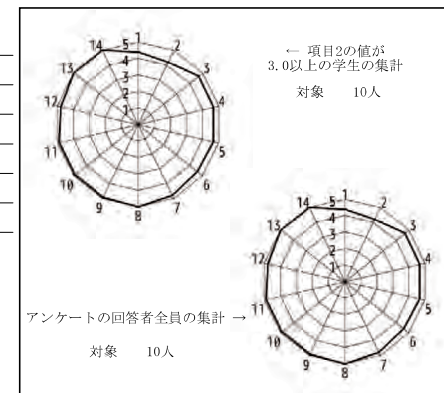


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Quarter 4 program was an integral part of quarter 3. There were two genres of essay writing, namely: comparison-contrast, and opinion. Students used the knowledge they had learned during quarter 3 to write paragraphs. Single paragraph writing shifted to multiple-paragraph short essays with three parts: introduction, body, and conclusion. Just like quarter 3, grammar and vocabulary quizzes were used to help students to improve their skills in those areas. By reading the second, and then the final draft of each assignment of every student, the instructor paid close attention to each student's weak points and helped them in areas such as content, structure, grammar, vocabulary and so on of paragraph/essay writing. Based on the evaluation of the students, the overall satisfaction of the course is 4.80 which, I believe, indicates, that the course objectives explained during the course orientation were largely achieved.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<J>3  
 授業コード 11A18-007  
 教員名 KHONDAKER, Taslima  
 教員コード 103598  
 登録人数 10  
 回答数 10  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

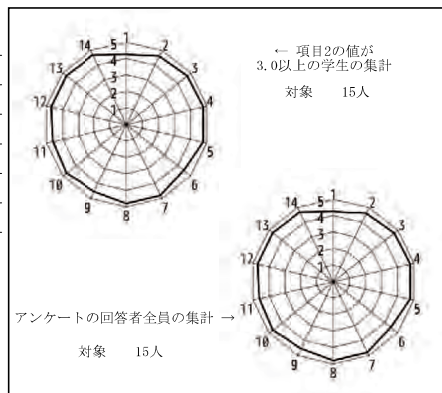


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view and try to express themselves by writing. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the full syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2) compared with the scores of 4.36 and 4.39 for the courses in the band of 11A01-001~11L.16-999, the scores of this course were 4.40 and 4.20. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.68, 4.62, 4.45, 4.31, and 4.70 for all courses, the scores for this course were 4.70, 4.70, 4.70, 4.60, and 4.80. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.70, 4.64, 4.68, 4.56, and 4.60 for all courses, the scores of this course were 5.00, 4.90, 4.90, 4.90, and 4.80. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.54 and 4.53 for all courses, the scores of this course were 5.00 and 5.00. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), the students did not give any comments.

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<J>4  
授業コード 11A18-008  
教員名 加藤 尚子  
教員コード 103630  
登録人数 24  
回答数 15  
回答率 62.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

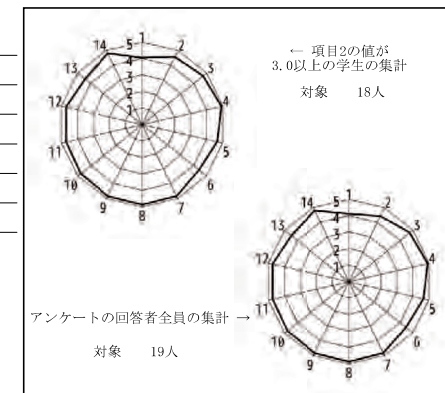


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた大きな目標では、数々の下書きを通じて最終的に学生が250字以上のエッセイを作成する能力が備わるという事を達成することができました。更に、thesis statement, topic sentences, そして supporting detailsを意識してエッセイを作成する力もついたように見受けられました。その他、社会で必要なformalなemailの正しい書き方の習得、また、文と文を滑らかに繋げる為に不可欠なtransitional phrasesの使い方も多くの学生が習得することができました。
2. 数値データと自由記述等の結果を拝見しましたところ、授業内で個別に対応できたことが学生のwritingの力の向上に良い結果をもたらしたという意見がありましたので、引き続き丁寧に対応していきます。その一方では、電子黒板の字が少し読みづらいという意見もありましたので、学生皆が見える様に確認を怠らないように気を付けるべきだと気づかされました。
3. 今後の方針では、学生が自発的に参加できるような魅力的なアクティビティを提供していきます。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<全>6  
授業コード 11A26-018  
教員名 松見 誌野  
教員コード 104166  
登録人数 24  
回答数 19  
回答率 79.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

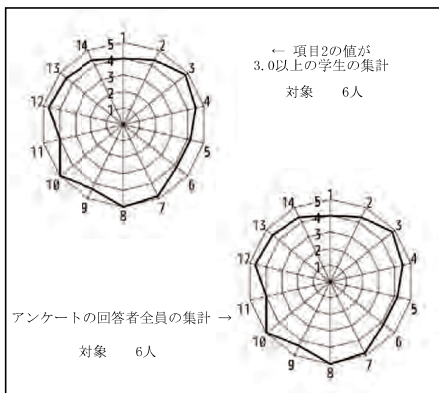


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、FまたはS評価とした学生を除き、概ね達成できた。
- ②については、Q1の「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」の問いに対する回答の平均値が4.11と、全質問の平均値の中で最も低い数値だったにも関わらず、Q14の授業満足度を問う回答の平均値が4.79と高い数値となった。英語リスニングへの興味が低かった学生が、授業内容に満足し、リスニング力向上のモチベーションに寄与することができたのであれば幸いである。
- ③については、Q15の授業の良かった点（自由記述）として、「授業の進行ペースが良かった。」「教科書以外に英語の音楽やビデオを使うことが楽しかった」などの回答があったことから、今後も引き続き、教材以外にも洋楽や動画などを活用し、受講生の興味関心を広げ、英語学習の動機付けに寄与できるよう心掛けて授業を行いたいと思う。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コンピュータと言語学  
 授業コード 24C56-001  
 教員名 古泉 隆  
 教員コード 101035  
 登録人数 8  
 回答数 6  
 回答率 75.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



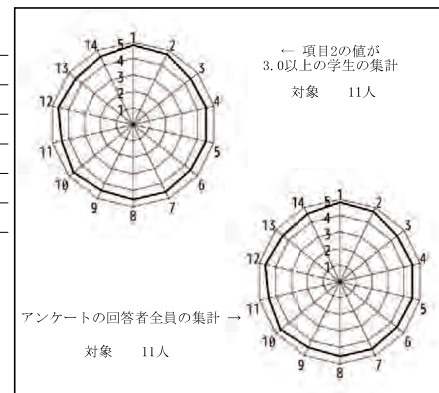
授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標として、①テキスト処理に必要な正規表現を理解している、②単語頻度表およびn-gram頻度表の作成過程を理解している、③エクセルおよびRを用いて、単語頻度表およびn-gram頻度表を作成できる、④最長単語、単語の平均文字数、TTRなどを処理・算出することができることを設定した。授業では、それぞれの到達目標に関する講義および実習を行い、関連する復習課題を課し理解を深めてもらった。学期末には、学んだデータ処理の知識・技術を活かして、各自で興味のある言語分析課題に取り組んでクラス内で報告してもらった。実習や課題の遂行状況を踏まえると、受講者の多くは本授業を通じておおむね到達目標に達したと考えられる。

次に、アンケート結果を踏まえた考察であるが、各項目で平均が4以上であったことから、概ね学生の学習を支援・促進し期待に応える授業であったと言える。また、文系の学生が主な対象であるため、正規表現や初歩のプログラミングといった馴染みの薄いことを丁寧に説明するように心がけ、自由記載の欄に「丁寧に教えてくれたので分かりやすかったです」とのコメントがあったことは良かった。一方で、「スピードをもう少し遅くして欲しい」というコメントもあり、受講者のレベルが様々であるため一層の配慮が必要であり、今後の課題であると感じた。

2019年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語B2  
 授業コード 40E05-002  
 教員名 MOORE, Jonathan  
 教員コード 101410  
 登録人数 27  
 回答数 11  
 回答率 40.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The overall scoring of the set of questions was very positive. Attendance was excellent. Students were engaged in the lessons. Students said they were self motivated in preparing for classes and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. Each lesson began and ended on time. Students felt the pace of each lesson was appropriate. Students were given a syllabus on the first teaching day, and the course goals and grading were explained. Students could hear me and the audio equipment. PowerPoint made lectures for the non-English majors easier to understand. The class was adjusted to the student's needs and level. There were no behavior problems in the class. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students were encouraged to participate in class. Students seemed very interested in communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.